

宮川床上浸水対策特別緊急事業に伴う

# 万所遺跡発掘調査報告

2012（平成24）年3月

三重県埋蔵文化財センター



巻頭図版 1



C地区全景（南西上空から）



C地区全景（北東上空から）



巻頭図版 2



中世墓 S X 12遺物出土状況（東から）



S X 12出土遺物



## 序

県内有数の大河である宮川。普段は穏やかに流れる姿を私たちの前に見せてくれています。はるか原始の時代から、宮川が流域の人々に恵みをもたらしてきたことは、流域各地に残る数多くの遺跡が雄弁に物語っています。

しかし、時には“母なる川”も牙を向いて人々を襲い、自然の恐ろしさを私たちに見せつけることがあります。平成16年9月28～29日にかけて当地を襲った記録的豪雨は、宮川右岸地域において床上・床下浸水あわせて200戸を超える甚大な被害を及ぼしました。そのため、浸水災害を防ぐ緊急対策が実施されることになり、事業にともなって影響を受ける埋蔵文化財の取り扱いについて、三重県教育委員会では事業の円滑な推進と文化財保護との調和をはかってまいりました。

対策事業予定地内には4ヶ所の遺跡が所在しますが、そのうちの万所遺跡については遺跡の保存が困難となり、平成21年と22年に発掘調査を実施いたしました。その結果、宮川流域の原始・古代の人々の暮らしの一端を解明することができ、当地域の歴史を考える上で重要な成果を得ることができました。

このたび、万所遺跡を中心とした発掘調査成果を報告書としてまとめることができました。この成果が地域の理解に役立つとともに、宮川との現代的な付き合い方を考えていたただく機会ともなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の推進にあたっては地元自治会の皆様をはじめ、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所、同宮川出張所、伊勢市教育委員会等の関係各機関および関係者の皆様に大変お世話になりました。ここに厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 河北秀実



## 例　　言

- 1 本書は、三重県伊勢市辻久留3丁目に所在する万所（まんじょ）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書が扱う発掘調査は、宮川床上浸水対策特別緊急事業に伴い、三重県教育委員会が国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所から受託して実施したものである。
- 3 発掘調査は下記の体制で実施した。詳細については前言にて記述する。

調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
  - 調査研究II課
- 4 調査にかかる諸費用は、国土交通省中部地方整備局が全額負担した。
- 5 発掘調査にあたっては、地元の方々をはじめ、伊勢市教育委員会、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所から多大なご協力をいただいた。記して感謝いたしたい。
- 6 発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
- 7 本書の執筆は林 義男・田村陽一が行い、編集は林 義男が行った。執筆の分担は目次と文末に明記している。遺物の撮影は、林 義男・田村陽一が行った。
- 8 本書の作成作業は三重県埋蔵文化財センター調査研究II課を中心に行った。出土遺物の実測図は三重県埋蔵文化財センターが作成した。

# 凡　例

## 〈地図類〉

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、伊勢市都市計画図、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所の事業計画図である。
- 2 挿図の方位は座標北（世界測地系）を用いた。なお、磁針方位は西偏6度30分である。
- 3 土層図は、層の間の区分を実線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。
- 4 本書で表記する色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（21版、日本色研事業株式会社、1998年）を用いた。
- 5 遺構などの断面図で平面図の相当位置に矢印があるものは立面図となっている。

## 〈遺物類〉

- 6 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。それ以外の縮尺のものは、その都度示している。
- 7 遺物観察表は次の要領で記載している。

遺物番号…挿図掲載番号である。

登録番号…実測段階の登録番号である。

器種…「土師器 皿」「陶器 鉢」「鉄製品 釘」といった区分をここに示した。

口径（cm）…遺物の口縁部径を示す。

器高（cm）…遺物の高さを示す。

重量（g）…石器などの重さを示す。

色調…その遺物の代表となる色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帳』に拠る。

残存度…その部位を12分割した際の残存度を示した。6/12は約半分、12/12は全体が残っていることを示す。また遺物が完全な形で残っているものについては「完形」と記した。

## 〈写真図版〉

- 8 写真図版は、まとめて巻末に掲載した。
- 9 挿図と写真図版の遺物番号は相互に対応している。
- 10 遺物の写真図版は特に断らない限り縮尺不同である。
- 11 本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。

S B : 掘立柱建物 S X : 墓 S K : 土坑 S F : 焼土坑 S D : 溝 S Z : 落ち込み・性格不明遺構

Pit : 小穴

- 12 本書で使用する用語は、以下に統一している。

つぼ：壺 わん：椀 つき：杯 なべ：鍋

# 本文目次

I	前言	(田村陽一)	1
II	位置と環境	(林 義男)	5
III	調査区と基本層序	(林 義男)	9
1	調査区と現地調査の方法		9
2	基本層序		9
IV	古墳時代の遺構・遺物	(林 義男)	14
1	遺構		14
2	遺物		14
V	平安時代～室町時代の遺構・遺物	(林 義男)	17
1	遺構		17
2	遺物		26
VI	縄文時代・弥生時代の遺物	(田村陽一)	38
1	遺構出土の遺物		38
2	遺物包含層等出土の遺物		38
VII	結語	(田村陽一・林 義男)	47
附章	その他調査遺跡	(田村陽一・林 義男)	52

# 挿図目次

第1図	事業関連遺跡位置図	2	第18図	出土遺物実測図②	27
第2図	周辺遺跡分布図	6	第19図	出土遺物実測図③	29
第3図	遺跡地形図	8	第20図	出土遺物実測図④	31
第4図	調査区位置図	10	第21図	出土遺物実測図⑤	32
第5図	A地区・C地区土層断面図	11	第22図	出土遺物実測図⑥	34
第6図	A地区・B地区土層断面図	12	第23図	出土遺物実測図⑦	35
第7図	A地区遺構平面図	13	第24図	出土遺物実測図⑧	36
第8図	S D68平面図・土層断面図	14	第25図	出土遺物実測図⑨	37
第9図	出土遺物実測図①	14	第26図	出土遺物実測図⑩	38
第10図	B地区・C地区遺構平面図	15・16	第27図	出土遺物実測図⑪	39
第11図	S B 1・2平面図・断面図	18	第28図	出土遺物実測図⑫	41
第12図	S B 3・4平面図・断面図	19	第29図	出土遺物実測図⑬	42
第13図	S B 5・6・7, S A 8平面図・断面図	20	第30図	出土遺物実測図⑭	43
第14図	S X10遺物出土状況図・断面見通し図	22	第31図	出土遺物実測図⑮	44
第15図	S X11遺物出土状況図・断面見通し図	23	第32図	出土遺物実測図⑯	45
第16図	S X12遺物出土状況図・断面見通し図・埋土土層断面図	23	第33図	出土遺物実測図⑰	46
第17図	S X13・14・15・16平面図・断面図	24	第34図	万所遺跡構造変遷図	48
			第35図	第1次調査遺跡地形図	52
			第36図	小田古遺跡調査坑位置図	53
			第37図	下新田遺跡調査坑位置図	53
			第38図	工事立会遺跡地形図	54
			第39図	工事立会調査位置図	55

## 挿表目次

第1表 調査遺跡一覧表	2
第2表 森田勉氏分類I－4類相当出土青磁 サイズ	49
第3表 遺構一覧表①	56
第4表 遺構一覧表②	57
第5表 出土遺物観察表①	58
第6表 出土遺物観察表②	59
第7表 出土遺物観察表③	60
第8表 出土遺物観察表④	61
第9表 出土遺物観察表⑤	62
第10表 出土遺物観察表⑥	63
第11表 出土遺物観察表⑦	64
第12表 出土遺物観察表⑧	65
第13表 出土遺物観察表⑨	66
第14表 出土遺物観察表⑩	67
第15表 出土遺物観察表⑪	68
第16表 出土遺物観察表⑫	69
第17表 出土遺物観察表⑬	70
第18表 出土遺物観察表⑭	71
第19表 出土遺物観察表⑮	72
第20表 出土遺物観察表⑯	73
第21表 出土遺物観察表⑰	74
第22表 出土遺物観察表⑱	75
第23表 出土遺物観察表⑲	76

## 本文挿入写真目次

写真1 松井孫右衛門人柱堤（北上空から）	54
写真2 松井孫右衛門人柱堤（南東から）	55

## 写真図版目次

卷頭図版1 C地区全景（南西上空から） C地区全景（北東上空から）	
卷頭図版2 中世墓S X12遺物出土状況（東から） S X12出土遺物	
図版1 A地区調査前状況（北東から）	78
A地区調査区全景（北東から）	
図版2 A地区調査区全景（南西から）	79
A地区中央部付近（東から）	
図版3 A地区S B 4付近（北から）	80
A地区S D 69（北西から）	
図版4 C地区調査前状況（南西から）	81
C-1地区調査区全景（南西から）	
図版5 C-1地区調査区全景（南上空から）	82
C-1地区調査区全景（垂直写真：左下角が南）	
図版6 C地区S B 3（西から）	83
C地区S B 5（南から）	
図版7 C地区S X10遺物出土状況（南から）	84
C地区S X10遺物出土状況（東から）	
図版8 C地区S X11遺物出土状況（南から）	85
C地区S X11遺物出土状況（東から）	

図版9 C地区S X12遺物出土状況（南から）	86
C地区S X12遺物出土状況近景（南東から）	
図版10 B地区調査前状況（南西から）	87
B地区調査区全景（南西から）	
図版11 B地区調査区全景（北東から）	88
B地区S B 1（東から）	
図版12 B地区S B 2（東から）	89
B地区S B 2（北から）	
図版13 B地区S B 6（南西から）	90
B地区S B 7（北から）	
図版14 出土遺物①	91
図版15 出土遺物②	92
図版16 出土遺物③	93
図版17 出土遺物④	94
図版18 出土遺物⑤	95
図版19 出土遺物⑥	96
図版20 出土遺物⑦	97
図版21 出土遺物⑧	98
図版22 出土遺物⑨	99
図版23 出土遺物⑩	100
図版24 出土遺物⑪	101
図版25 出土遺物⑫	102

# I 前 言

## 1 調査に至る経緯

平成16年9月28～29日にかけて三重県南勢地方を襲った台風21号は、秋雨前線と重なって各地に1時間当たり100ミリを越える猛烈な集中豪雨をもたらした。そのため、宮川下流域において大洪水が発生し、右岸地域特に横輪川合流点付近と中島・大倉地区は、床上・床下浸水多数にのぼる甚大な被害を蒙ることとなった。

この浸水被害に対して国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所では、悲惨な災害が起こらないよう地域の安全・安心の確保を図る治水対策が実施されることとなった。平成16年度より「宮川右岸緊急対策」として堤防整備に着手、平成18年度からは「宮川床上浸水特別緊急事業」として、総合的な治水対策を進めていくこととなった。事業は宮川下流右岸の伊勢市中島町地先7.2kmから同市佐八町下新田地先10.4kmまでの延長3,340mに堤防を新たに築堤することを中心とし、河道掘削等を行うというものであった。

この事業に伴い三重県教育委員会では、平成17年6月に埋蔵文化財センターが伊勢市教育委員会と合同で現地確認を行った。同年8月には国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所長から三重県教育長あてに正式に埋蔵文化財の分布調査依頼があり、同年9月にかけて伊勢市教育委員会が分布調査を実施した。

分布調査の結果、築堤計画地（近隣地含む）には5遺跡、さらに上流側の国直轄管理区間に3遺跡の計8遺跡が存在することが判明した。このうち、今回の「宮川床上浸水特別緊急事業」の事業地にかかるのは4遺跡7,900m<sup>2</sup>であった。（第1表）

## 2 調査の経過

### （1）調査経過の概要

#### 平成17年度

分布調査の結果をもとに10月には、三重河川国道

事務所と三重県教育委員会との間で埋蔵文化財の取り扱いについて正式な協議が始まった。現状保存が困難な遺跡については事前に発掘調査を実施し、記録保存をはかることとなったが、平成17年度は築堤工事に着手する万所遺跡隣接地の工事立会いのみを12月21日に行ったものの、本格的な調査は実施されなかった。

翌平成18年度に向けては関係する遺跡部分の用地買収も始まるが、第1次調査や隣接地の立会い調査は適宜労務提供方式で実施することとし、本格的には平成19年度から発掘調査協定書や委託契約を締結することとなった。この時点では、本発掘調査を平成19～21年度に実施し、報告書作成を22年度とすることとした。

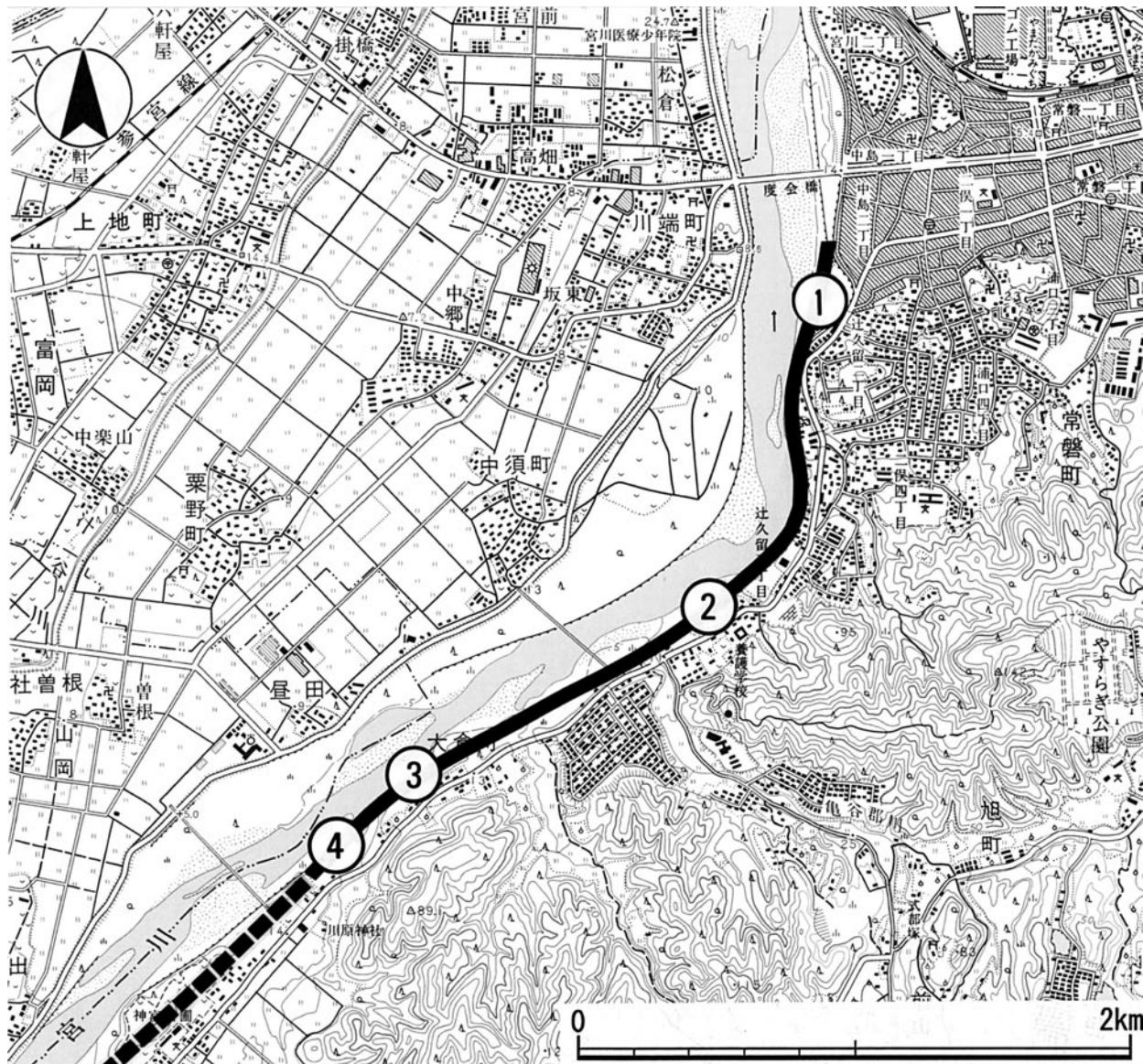
#### 平成18年度

平成18年度に入って用地買収と工事は順次進められたが、埋蔵文化財にかかる箇所の用地買収の見通しがつくのが11月ころとなったことから、19年度には委託契約を締結しないこととなった。用地が整い第1次調査が可能となった時点で労務提供方式により対応することとなった。なお、それまで三重県での受託発掘調査で実施してきた三者体制（三重県教育委員会・国土交通省・（社）中部建設協会）での発掘調査は18年度から解消され、しかも長期間にわたる発掘調査の協定も結ばないこととなり、本事業についても同様とすることになった。

#### 平成19年度

平成19年度に入り、用地買収が完了した下新田遺跡および小田古遺跡について、5月24日に第1次調査を実施した。結果は遺構・遺物とも確認されず施工可となった。続いて7月18日には万所遺跡の一部で第1次調査を実施した。調査箇所は遺跡の北部川岸に近いところであったが遺構は認められず、中・近世に属する土師器の小片が微量出土するにとどまつたため施工可と判断された。この結果から、残る工事計画部分にも遺構は広がらないのではないかとうことが推測された。

用地の関係から、それ以降は第1次調査を実施す



第1図 事業関連遺跡位置図（1：25,000 國土地理院「伊勢」に加筆）

No.	遺跡名	所在地	調査内容	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	概要
1	松井孫右衛門人柱堤	伊勢市中島町2丁目	工事立会	500	2012/1/17	長さ150m、幅3～9 mの土堤。ごく微量の土器片が出土したが、遺構は確認されなかった。
2	万所遺跡近接箇所	伊勢市辻久留3丁目	工事立会	5	2005/12/21	遺構・遺物は確認されなかった。
	万所遺跡最下流部	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	96	2007/7/18	時期不明土器片が微量出土したが、遺構は確認できなかつたため、本発掘調査には至らず。
	万所遺跡（A・B地区）	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	178	2009/4/27・28	遺構・遺物を検出。要本発掘調査の対象地に確定。
	万所遺跡（A・B地区）	伊勢市辻久留3丁目	第2次調査	1200	2009/7/1～9/18	平安時代中期～室町時代の掘立柱建物5棟のほか、古墳時代・鎌倉時代の溝や土坑などを検出、縄文～室町時代の遺物が出土。
	万所遺跡（C地区）	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	18	2009/11/16	遺構・遺物を検出。要本発掘調査の対象地に確定。
	万所遺跡（C-1地区）	伊勢市辻久留3丁目	第3次調査	706	2010/5/28～8/20	平安時代中期・鎌倉時代の掘立柱建物各1棟、中世墓5基などを検出。中世墓の1基からは完形の青磁碗1、山皿2、土師器小皿1が出土したほか、縄文早期初頭～鎌倉時代の遺物が出土。
	万所遺跡（C-2地区）	伊勢市辻久留3丁目	第4次調査	226	2010/8/30～10/12	土坑や柱穴等を検出。うち2基は中世墓か。縄文時代～室町時代の遺物が出土。
3	小田古遺跡	伊勢市佐八町小田古	第1次調査	30	2007/5/24	遺構・遺物は確認されず、本発掘調査に至らず。
4	下新田遺跡	伊勢市佐八町下新田	第1次調査	70	2007/5/15	遺構・遺物は確認されず、本発掘調査に至らず。

第1表 調査遺跡一覧表

ることができなかつた。このような結果もあって、20年度についても19年度同様の体制で対応することとなつた。

#### 平成20年度

20年度に入つても用地買収に大きな変化はなく、第1次調査もできなかつた。そのため、翌21年度についても委託契約を締結する環境は整わなかつた。

#### 平成21年度

ところが、21年度に入ると状況が大きく変化した。4月早々に万所遺跡の取り扱いについて協議が行われ、用地買収が完了し調査環境の整つたA・B地区の第1次調査を実施することとなつた。

4月27・28日にA・B地区の第1次調査を実施。A地区は対象範囲800m<sup>2</sup>、B地区は対象範囲1,100m<sup>2</sup>のほぼ全域にわたつて遺構・遺物が確認され、一部段丘疊層が露出する部分をのぞいて、1,400m<sup>2</sup>の発掘調査が必要と判断された。

この結果を受けて早々に協議がもたれ、堤防は22年度夏までの完成が必須で早期着工が必要なことが示された。そのため21年度中に調査完了の要望が出され、協議を重ねた結果、当年度は緊急調査として対応することなり、7月1日から9月18日までの期間で合わせて1,200m<sup>2</sup>の調査を実施した。

当年度は緊急性が高く現地調査後すぐに埋め戻しを行つたため、現地での発掘調査説明会を開催することはできなかつた。そのため11月7日に地元の大倉うぐいす台団地公民館にて発掘調査地元説明会を開催し、61名の地元住民の参加を得た。

C地区はB地区の南に隣接する水田および荒地であったが、秋も深まつた11月16日に第1次調査を実施。予想通り遺構・遺物が確認されたことから全面900m<sup>2</sup>の範囲が全面発掘調査の対象となり、平成22年度に委託契約を締結して実施することとなつた。

#### 平成22年度

22年度には専従担当者1名をおいてC地区の発掘調査を実施した。C地区は一部の荒地200m<sup>2</sup>の買収が遅れるため、まずC-1地区として5月28日から8月20日までの間、700m<sup>2</sup>の調査に着手した。その後、用地の問題が解決したC-2地区を8月30日から10月12日まで調査した。

調査成果の公開は8月7日にC-1地区を対象に

現地にて説明会を開催し、酷暑の中にもかかわらず120名の参加があつた。C-2地区では小規模かつめぼしい遺構・遺物がなかつたこともあつて、現地説明会は開催しなかつた。

また、立会い調査を予定していた松井孫右衛門人柱堤については、工事計画等の関係で次年度に実施することとなつた。

以後、出土遺物の実測など報告書作成に向けて室内整理業務を行つた。また、調査ニュース「宮川のほどりから」を平成23年1月に刊行した。

#### 平成23年度

23年度は室内整理作業を進めるとともに、報告書の作成を行つた。

一方、公開普及事業にも注力し、当事業にかかわる遺跡の調査成果と、関連する宮川下流域の遺跡を紹介をするミニ展示『万所遺跡と宮川下流域の遺跡』(伊勢市教委と共に、宮川ルネッサンス協議会・国土交通省三重河川国道事務所後援、度会町展示協力)を4月29日から5月8日までの期間、伊勢市川端町の尾崎嘸堂記念館にて開催した。また、最終日の5月8日には講演会も開催し、9日間の開催期間中に合わせて270名の観覧者があつた。

工事の関係で当年度実施となつた松井孫右衛門人柱堤については、平成24年1月17日に現地立会いを実施し、すべての現地調査を終了した。

なお、この松井孫右衛門人柱堤については、三重県指定名勝「宮川堤」の一部でもあることから、現状変更に伴う保護措置等を文化財保護室および伊勢市教育委員会が別途対応している。

## (2) 調査の体制

当事業の発掘調査は三重県教育委員会を調査主体とし、現地調査を三重県埋蔵文化財センターが担当した。各年度の担当・体制は次のとおりである。

#### 平成17年度

調査研究II課 河北秀実

#### 平成18年度

調査研究II課 田村陽一

#### 平成19年度

調査研究II課 田村陽一・木野本和之・西口剛司  
水谷 豊・田口万紀(研修員)

平成20年度

調査研究II課 田村陽一・木野本和之

平成21年度

調査研究II課 田村陽一・林 義男・小濱 学  
小山憲一・杉野直也・前野謙一  
勝山孝文・萩原義彦・石井智大

調査補助 海野舞華・岡谷早織（皇學館大学生）

平成22年度

調査研究II課 田村陽一・林 義男・鈴木寛也  
森田啓司

調査補助 渡辺善文・小島優紀（皇學館大学生）

平成23年度

調査研究II課 田村陽一・林 義男

### （3）文化財保護法等にかかる諸通知

- ① 文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘に関する通知）
  - ◎ 平成19年5月21日付け、国部整三重一工第7号（三重河川国道事務所から三重県教育委員会教育長あて）
- ② 文化財保護法第99条第1項（発掘調査の着手報告）
  - ◎ 平成21年7月16日付け、教埋第160号（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【万所遺跡第2次】
  - ◎ 平成22年6月3日付け、教埋第60号（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【万所遺跡第3次】
  - ◎ 平成22年9月3日付け、教埋第140号（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長あて）【万所遺跡第4次】
- ③ 文化財保護法第100条第2項（文化財の発見・認定通知）
  - ◎ 平成21年10月26日付け、教委第12—4410号（三重県教育委員会教育長から伊勢警察署長あて）【万所遺跡第2次】
  - ◎ 平成23年2月22日付け、教委第12—4404号（三重県教育委員会教育長から伊勢警察署長あて）【万所遺跡第3次】
  - ◎ 平成23年2月22日付け、教委第12—4405号

（三重県教育委員会教育長から伊勢警察署長あて）【万所遺跡第4次】

- ④ 三重県文化財保護条例第39条第1項・第3項（三重県指定史跡名勝記念物現状変更等許可申請関係）
  - ◎ 平成20年4月25日付け、国部整三重一工第8号（三重河川国道事務所長から三重県教育委員会教育長あて申請）
  - ◎ 平成20年5月16日付け、教委第12-104号（三重県指定名勝「宮川堤」の現状変更について条件付許可通知。三重県教育委員会教育長から三重河川国道事務所長あて）
  - ◎ 平成20年5月16日付け、20文第251号（三重県指定名勝「宮川堤」の現状変更について許可通知。伊勢市教育委員会教育長から三重河川国道事務所長あて）

（田村陽一）

## II 位置と環境

### 1 位置と地理的環境

宮川は、三重県と奈良県の県境にある大台ヶ原(1,695m)を源流とする一級河川であり、その延長91kmは三重県のみを流れる河川としては最も長く、伊勢国屈指の大河である。国土交通省の一級河川水質調査では過去10度1位となっており、全国的に清流として知られている。多気郡、度会郡の山間部を南西から北東方向へとゆるやかに蛇行し、度会郡玉城町岩出付近で伊勢平野南端部に出る。

万所遺跡（1）は、岩出地区から2kmほど下流、宮川河口からは約9km上流の宮川右岸、標高約11m前後の河岸段丘上にある。行政上は伊勢市辻久留3丁目に属し、弥生時代から中世にかけての遺跡として知られていた。<sup>①</sup> 遺跡のすぐ南方には、鼓ヶ岳付近に端を発する亀谷郡川が流れ、宮川に合流している。万所遺跡は県道伊勢・南島線より北（宮川）側に東西320m、南北90mの広がりを持つ広大な遺跡である。近辺は昔から集中豪雨で宮川の氾濫による被害を被ってきた地域も多いが、万所遺跡は周辺部よりはや標高が高くその被害を免れやすい位置にあり、豊かな水に恵まれつつ人々の定住を可能とする地理的条件のもとにあったといえる。

### 2 歴史的環境

宮川の流域には、旧石器時代から人々の暮らしの跡を物語る遺跡が点々と残されている。伊勢市小俣町のママ田遺跡（2）では、ナイフ形石器をはじめ搔器、削器、尖頭器、細石器等多くの石器が発見されており、県下でも大台町の出張遺跡、玉城町のカリコ遺跡（3）に次ぐ規模を有し、拠点的性格を有する遺跡と考えられている。万所遺跡の周辺では伊勢市津村町の元新田遺跡（4）、佐八町の佐八藤波遺跡（5）、玉城町の上地山遺跡（6）などでもナイフ形石器などが採集されており、この地域が早くから開かれていたことが伺える。

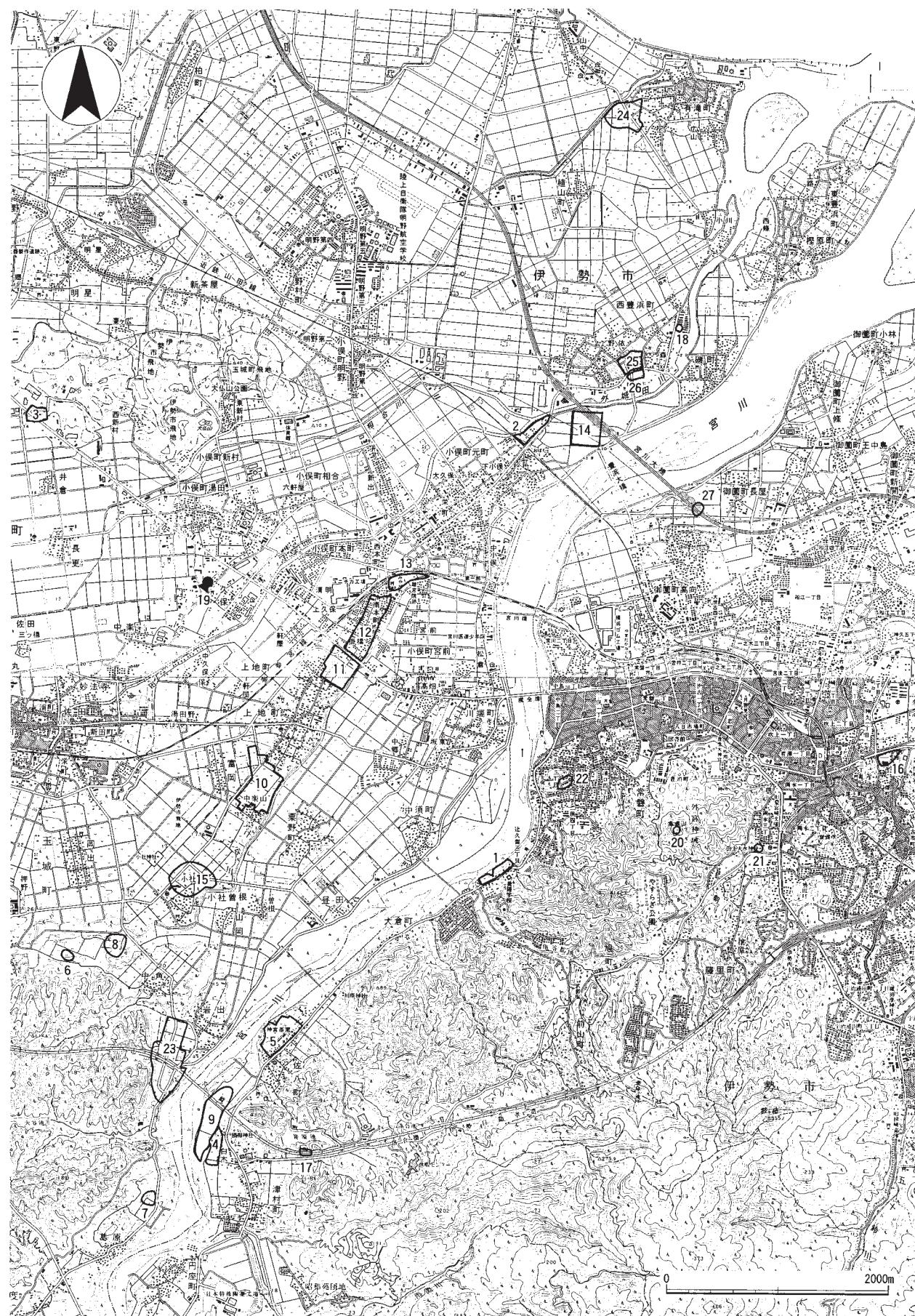
縄文時代の主な遺跡として、右岸側には度会町の下久具万野遺跡、森添遺跡<sup>④</sup>、佐八藤波遺跡（5）な

ど、宮川中・下流域を代表する遺跡があり、左岸側では度会町の上ノ垣外遺跡（7）、玉城町の明豆遺跡（8）などがある。いずれも大きな規模の遺跡で、宮川の豊かな恵みが狩猟・採集生活を基盤とした縄文の人々を育んだといえる。

2千数百年前には大陸から稻作文化が到来し、弥生時代の幕が開く。宮川右岸の伊勢市中ノ垣外遺跡（9）では、弥生時代中期前半頃の竪穴住居や土器が見つかっている。後期には南勢地方においても屈指の大集落が宮川左岸段丘上に形成される。中楽山遺跡（10）、野垣外遺跡（11）、掛橋遺跡（12）、離宮山遺跡（13）をはじめ、大藪遺跡（14）、玉城町の小社遺跡（15）等にみられるように、多数の竪穴住居をはじめ集落の付近に築かれた方形周溝墓も検出され、宮川左岸中位段丘上に連綿と集落が展開された様相が知られている。その他宮川右岸の市内では倭町の隱岡遺跡（16）<sup>⑤</sup>で大規模な集落跡が見つかっている。

古墳の築造が遅れた当地域であるが、津村町の落合古墳群（17）では5世紀代の古墳が確認されている。また6世紀代にかけては、磯町の丁塚古墳（18）、小型の前方後円墳である上地町の野田古墳（19）などがある。古墳時代後期には、伊勢神宮外宮南側の高倉山に全国有数規模の横穴式石室をもつ高倉山古墳（20）が築かれる。周辺には車塚古墳（21）や塚山古墳群（22）があり、被葬者はいずれも神宮と関わりをもつ可能性が高いとされている。また佐八藤波遺跡（5）や岩出遺跡群（23）<sup>⑥</sup>では群集墳が確認されている。万所遺跡（1）内中央部にも万所古墳があったとされるが原形はとどめていない。

飛鳥から奈良時代の遺跡としては、高ノ御前遺跡（24）や、殿垣外遺跡（25）、中ノ垣外遺跡（9）で竪穴住居や掘立柱建物が確認されている。宮川下流左岸の小御堂前遺跡（26）や前述の殿垣外遺跡では、平安時代の掘立柱建物が確認され、また多量の綠釉陶器が出土しており、神宮大宮司に関わる遺跡ではないかと考えられている。このように、当然ながらこの地の周辺には伊勢神宮に関わる遺跡も多い。御



第2図 周辺遺跡分布図 (1 : 50,000) [国土地理院「明野」「伊勢」1 : 25,000より]

園町の高向遺跡（27）は旧神宮領の御蔵と関連する高向郷の官衙とも考えられる。倭町の隱岡遺跡（16）は、規模が大きく計画的に配置された掘立柱建物が検出され出土遺物に縁釉陶器や志摩式製塩土器が多く、10～11世紀の外宮補宜度会氏の居宅との関わりが考えられている。<sup>⑯</sup>

伊勢市に隣接する多気郡明和町には、奈良時代から南北朝時代まで続いた国史跡斎宮跡がある。天皇上代わり伊勢神宮に仕えるため、天皇の代替わりごとに派遣された未婚の皇女である斎王の宮殿とその役所である。明和町を含むこの多気郡と度会郡はとともに早くから伊勢神宮の神領となっていた。小俣町の離宮院跡（13）はこの斎王の離宮であり、大神宮司の政庁であり、度会郡の駅家であるという三つの機能を備えていた。<sup>⑰</sup>

そのほか宮川周辺における平安時代から鎌倉時代にかけての遺跡としては、神宮祭主藤波氏の館があつたとされる佐八藤波遺跡（5）や、対岸の玉城町岩出にはおなじく神宮祭主であった大中臣氏の館があつたとされており、岩出遺跡群（旧蚊山遺跡）（23）がこれにあたると考えられている。また、津村町の中ノ垣外遺跡（9）でもこの時期の大規模な集落が発見されている。中ノ垣外遺跡では、柱穴内に扁平な川原石を根石に据え南東隅に1間×2間の廻と推定される方形土坑を伴う総柱掘立柱建物群や和鏡・刀が埋葬された中世墓も検出されており、階層の高い当時の集落様相の一端を垣間見ることができ、本地域の特異性も裏付けているものと思われる。<sup>⑱</sup>

このように、太古より時には牙をむいて人間に水害などおそろしい被害をもたらした宮川は、また常に豊かな恵みを与え続けてくれたのであり、古代以降は伊勢神宮との強い関わりを持ちながら発展し、連綿と人々の暮らしが続いてきた地域といえる。

（林 義男）

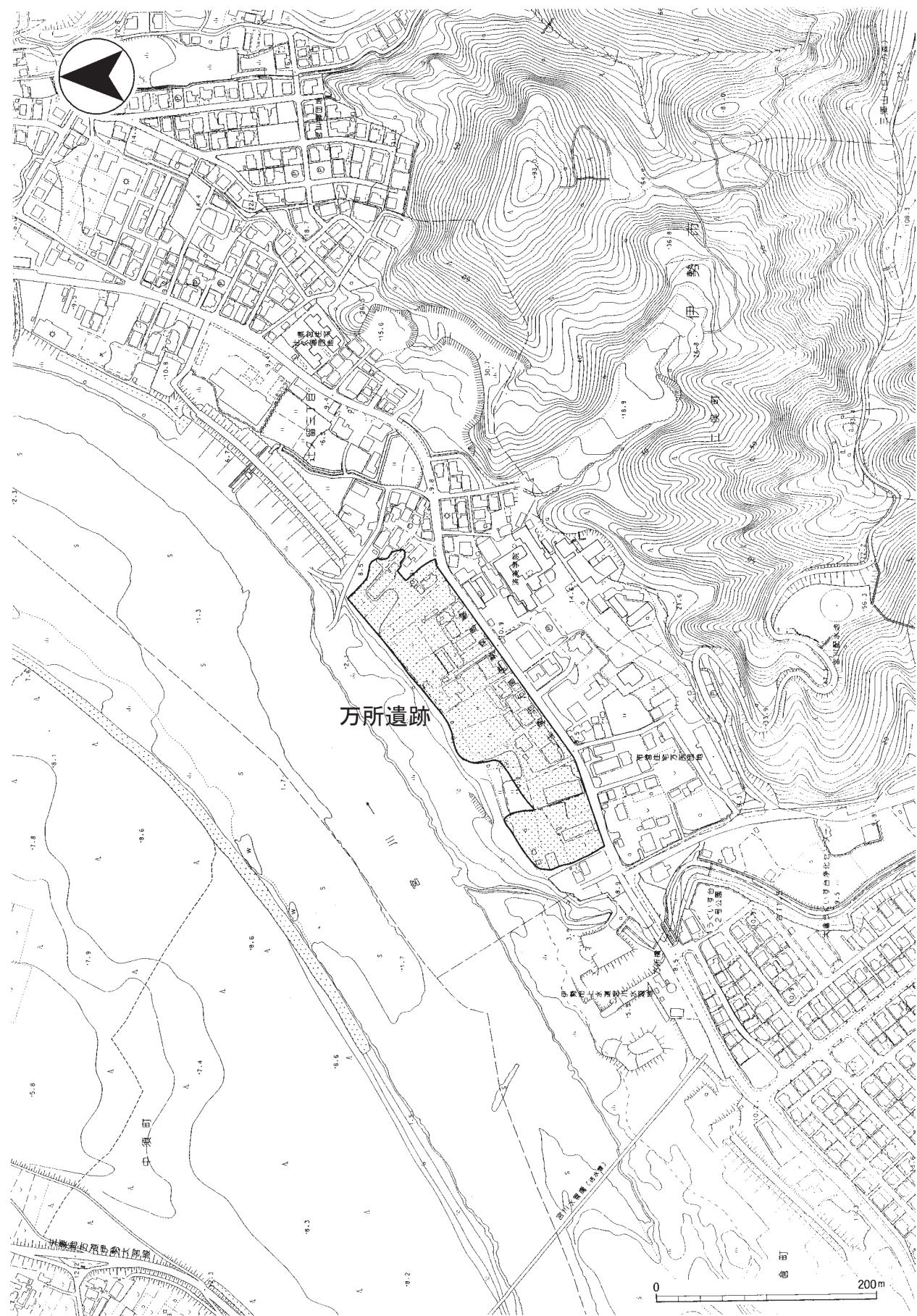
### 【註】

- ① 『三重県伊勢市遺跡分布地図』（伊勢市 1981年）
- ② a 岡田登「度会郡小俣町ママ田遺跡の先土器時代遺物」  
『史料』第43号 皇學館大学史料編纂所 1981年）
- b 「中ノ垣外遺跡」（『昭和58年度農業基盤整備事業 地域埋蔵文化財発掘調査報告』 三重県教育委員会 1984年）

- ③ 前掲註② b と同じ
- ④ 『森添遺跡』（度会町教育委員会 2011年）
- ⑤ 『佐八藤波遺跡発掘調査報告』（伊勢市教育委員会 1990年）
- ⑥ 『上ノ垣外遺跡発掘調査概報』（度会町遺跡調査会 1991）
- ⑦ 「中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』（三重県教育委員会 1984）
- ⑧ 「伊勢市上地町・中楽山遺跡」『昭和47年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』（三重県教育委員会 1973年）
- ⑨ 「伊勢市上地町・野垣外遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』（三重県教育委員会 1974年）
- ⑩ 「大藪遺跡」『南勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告』（三重県教育委員会 1974年）
- ⑪ 『隱岡遺跡発掘調査報告』（伊勢市教育委員会 1987年）
- ⑫ 『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第7分冊－落合古墳群』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1992年）
- ⑬ 『伊勢市史 第6巻 考古編』（伊勢市 2011年）
- ⑭ 『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 1996年）
- ⑮ a 『小御堂前遺跡発掘調査報告』（伊勢市教育委員会 1980年）  
b 『伊勢市史 第6巻 考古編』（伊勢市 2011年）
- ⑯ a 「高向A遺跡」「高向B遺跡」「高向C遺跡」『南勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告』（三重県教育委員会 1973年）  
b 前掲註⑮ b
- ⑰ 『小俣町史 通史編』（小俣町 1988年）
- ⑱ 前掲註⑤
- ⑲ 『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第6分冊－蚊山遺跡左郡地区』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1993年）
- ⑳ 前掲註② b および前掲註⑤

### 【参考文献】

- ・『伊勢市史 第6巻 考古編』（伊勢市 2011年）
- ・『小俣町史 通史編』（小俣町 1988年）
- ・『玉城町史 下巻』（玉城町 1995）
- ・『度会町史』（度会町 1981）
- ・宮川流域ルネッサンス協議会ホームページ



第3図 遺跡地形図（1：50,000）

### III 調査区と基本層序

#### 1 調査区と現地調査の方法

##### 調査区の設定

調査区は、平成21年度・平成22年度宮川床上浸水対策特別緊急事業によって影響を受ける範囲に設定した。(第4図)。堤防整備やそれに伴う宮川への流入支川及び排水路において必要となる樋門・樋管設置工事により影響を受ける部分である。

平成21年度調査時に、最も下流域となる調査区をA地区、その南側の平成22年度調査予定箇所部分をC地区、A地区と同年に調査する最も上流部分をB地区とした。

##### グリッドの設定

調査区を設定した後に、調査区全体にわたって4×4mの大きさのグリッドを設定した。(第7・10図) グリッドは、国土座標の方位軸に沿わせずに、調査区の形状にあわせて任意で設定している。各グリッドには宮川側から県道伊勢南島線へ向かってAから順にアルファベットを、宮川上流方向から下流方向へ向かって1から順に数字をふり、このアルファベットと数字の組み合わせによって各グリッド名を表した。表土掘削、遺構検出段階において出土した遺物はこのグリッドごとに取り上げを行っている。

##### 掘削

現地調査における掘削作業は、まず現代の整地土・表土を重機で除去することから始めた。A地区内にはかつて家屋が建っていた箇所があり、その基礎によって地盤は大きく影響を受けており、A地区についてはほとんどが地表下80cm程度まで現代の造成土が堆積していた。またB・C地区は田畠として利用されていた場所で、これらの耕作土・床土を重機で除去した後に、人力で遺構検出作業を行い、その後各遺構を人力で順次掘削していった。

##### 遺構番号の付与

今回の報告では、すべての種類の遺構に、通し番号で1から順に遺構番号を付与した。表記時には、遺構番号の前に、凡例で示したようにSK、SDなど遺構の種類ごとの略称を付している。

ただし、調査時にはそれぞれの調査区で1から遺構番号を付与していたため、今回の報告で、基本的に遺構の種類ごとに、特に本遺跡を中心となる掘立柱建物(SB)と墓(SX)については時代の古いものから、その他の遺構については調査区の北側に位置するものから順に通し番号を付与した。

#### 2 基本層序

当遺跡は、宮川下流右岸の河岸段丘上に立地している。A地区西北壁中央部分は現代の住居建設時の搅乱を受けている部分が多いため、A地区の基本土層は南壁と西壁で検討した。第I層(第5・6図1層)の表土(整地土)は約80cm、第II層(同2・8層)は20~40cmある。そして約20~40cmの第III層(同3層)灰褐色土と、約20cmの第IV層(同4層)黒褐色土とが包含層を形成する。さらにその下が黄褐色砂質土の地山となる。遺構の検出は第IV層下面および第V層の地山上面で行った。

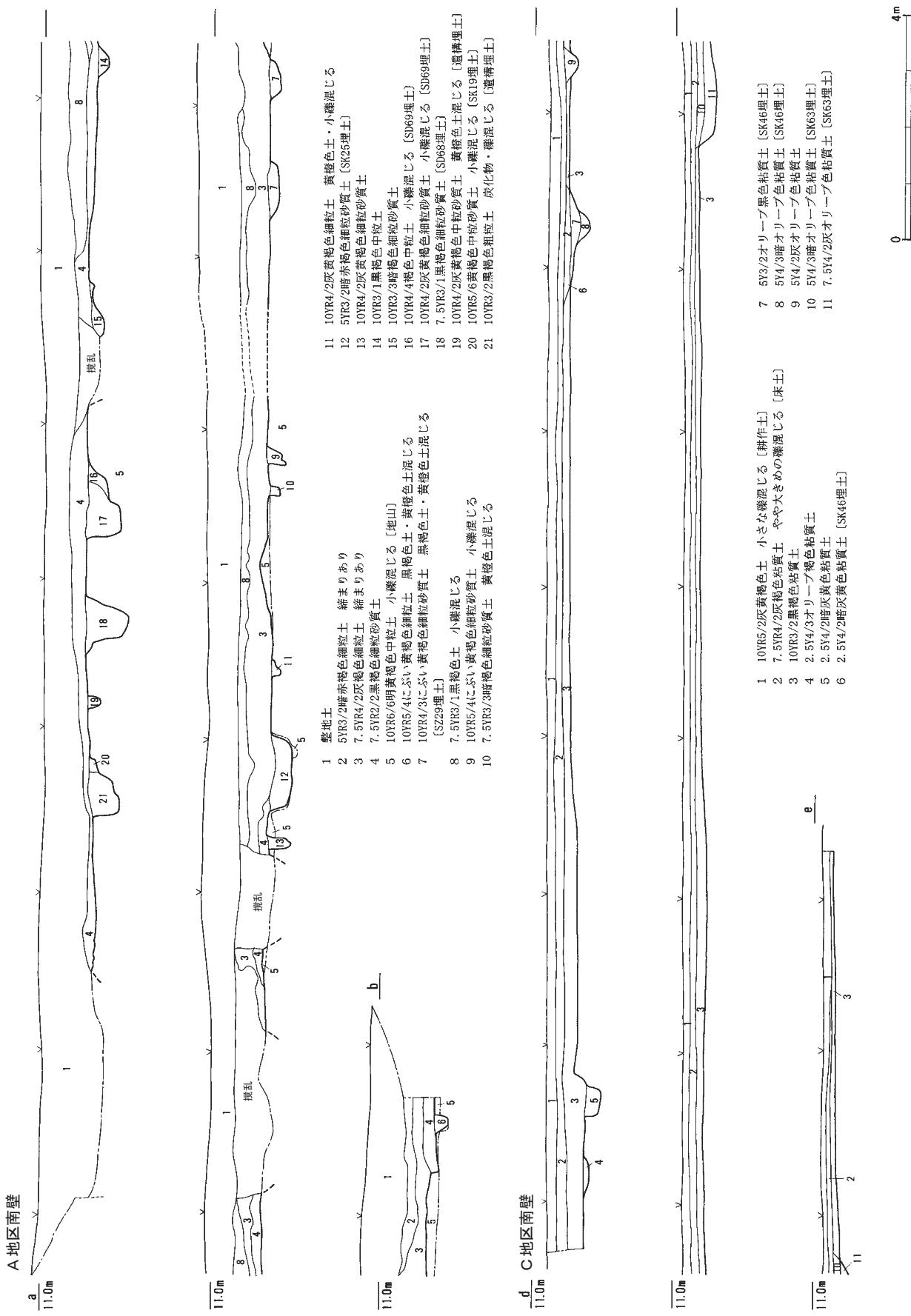
A地区南西に近接するC地区は、大部分が直前まで田畠として利用されていた。第I層(第5図1層)は小さな礫が混じる灰黄褐色土(耕作土)で約20cm、第II層(同2層)はやや大きめの礫混じりの床土で約10~20cmある。第III層(同3層)は黒褐色土で約10~20cmあり、地山直上に堆積する。A地区的第IV層がこのC地区的第III層に対応する。遺構の検出はこの第III層下面および地山上面で行った。

B地区の基本土層は、この地区のなかでは遺構が多く検出された東側区域の南壁で検討した。この地区もかつて田畠として利用されていた所であるが、第I層(第6図1層)の表土(造成土)が約10cm、表土直下の第II層(同第2層)の耕作土が約20cmある。さらに褐色~黒褐色粘質土の第III層(同第4・4'層)が20~40cmである。遺構の検出は第II層直下と第III層で行った。

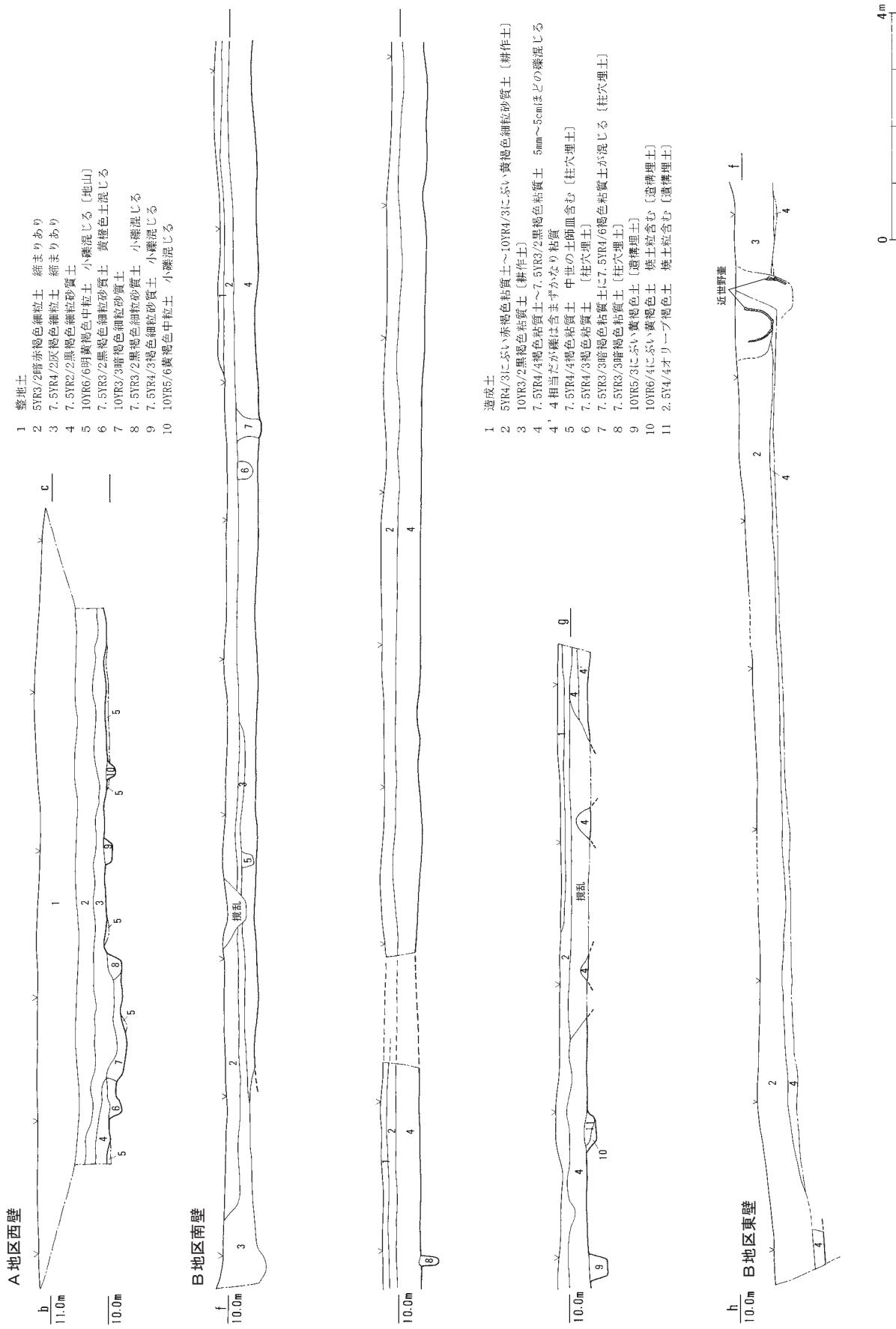
(林 義男)



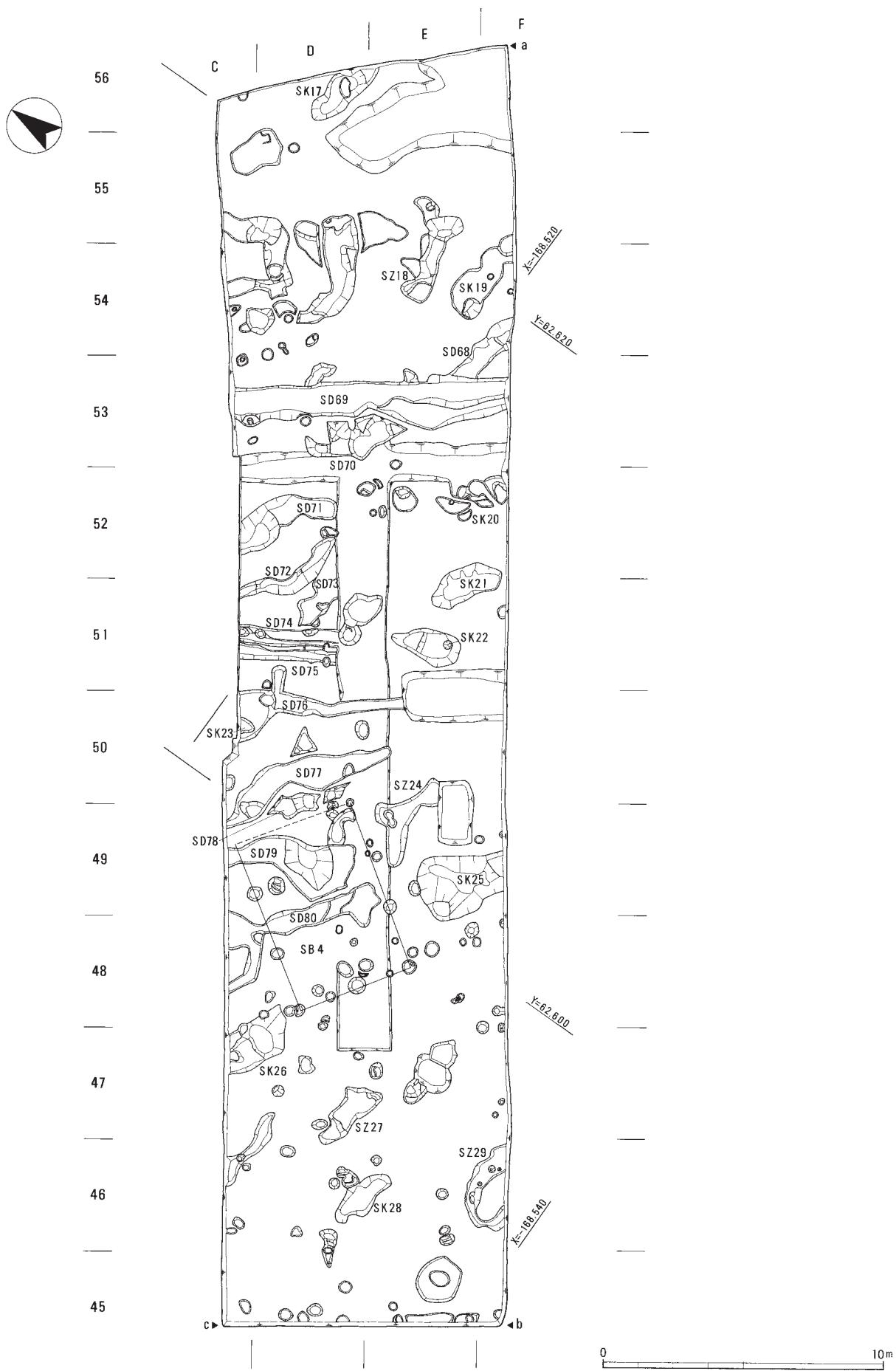
第4図 調査区位置図 (1 : 2,000)



第5図 A地区・C地区土層断面図 (1 : 100)



第6図 A地区・B地区土層断面図 (1 : 100)



第7図 A地区遺構平面図 (1 : 200)

## IV 古墳時代の遺構・遺物

### 1 遺構

#### (1) 検出遺構の概要

調査の結果、A地区において、古墳時代の溝1条を検出した。今回の調査において確認された古墳時代の遺構は、この溝1条のみであった。確認した遺構の検出地点の標高は約10.3mである。

#### (2) 検出遺構

##### 溝

**S D 68** A地区の北東部に位置しており、F 53・54グリッドで検出された最大幅0.96m、深さ0.25～0.40mの溝で、東に向かうにつれ少しづつ深くなり東端にさらに落ち込みがある。概ね東西方向の溝であるが、東側は調査区外にのび、西側はS D 69によつて切られており全容は不明である。埋土の土質の違いや切り合い関係等からS D 68がS D 69より古いとみられる。S D 69を超えてさらに西方にのびてS D 70とつながる可能性もあったが、S D 70からは遺物が出土せず、埋土の状況からも判断がつかなかつた。

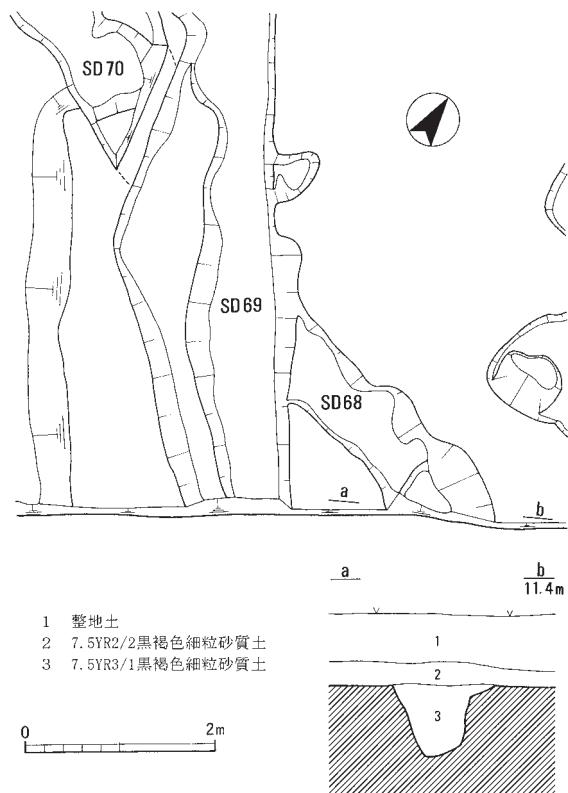
図化できなかつたが、古墳時代の土師器片が出土している。なお、S D 69から出土したS字状口縁台付甕(1・3)は、もともとこのS D 68の埋土中に含まれていた遺物であるとも考えられる。

### 2 遺物

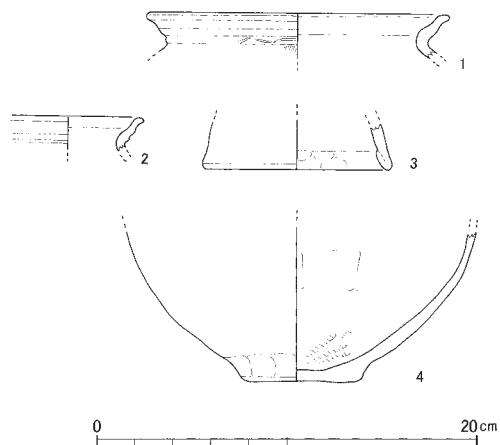
古墳時代の図化できた遺物は、平安時代以降の遺構に混入したものや包含層から出土したもので、次の4点である。

1、2はS字状口縁台付甕。ともに外面に煤が付着する。3は台付甕の台部で脚端部を内面に折り返している。4は土師器壺で、底径6.4cm。内面にハケメと工具痕が、外面体部下位に明瞭な指オサエ痕が残る。

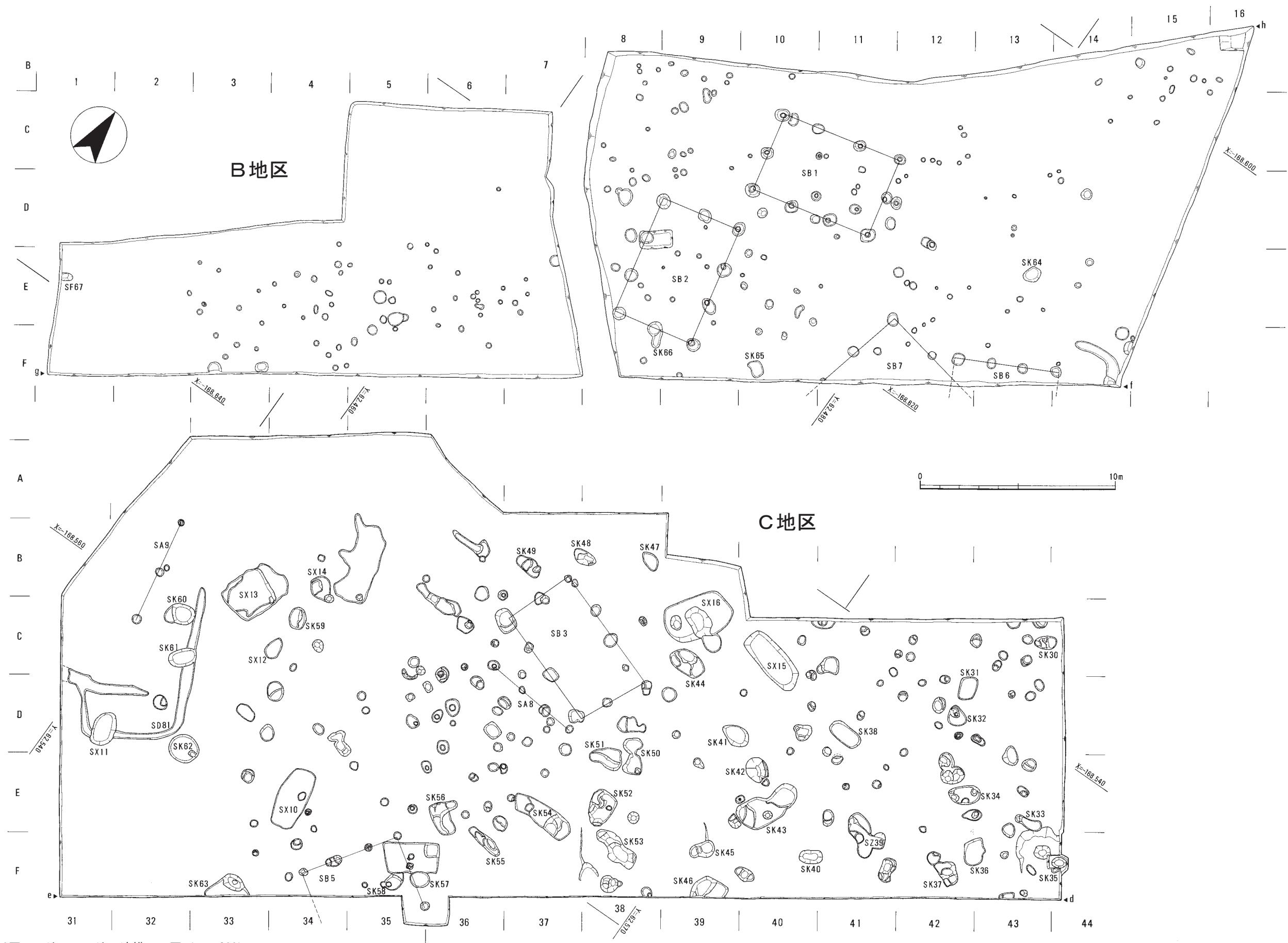
(林 義男)



第8図 S D 68平面図・土層断面図(1:80)



第9図 出土遺物実測図①(1:4)



第10図 B地区・C地区遺構平面図 (1 : 200)

# V 平安時代～室町時代の遺構・遺物

## 1 遺構

### (1) 検出遺構の概要

A地区では調査の結果、溝13条、掘立柱建物1棟、土坑や小穴などを、C地区では、掘立柱建物2棟、柱列2条、墓7基、その他多数の土坑等を確認した。最も宮川下流側にあたるB地区では、掘立柱建物4棟や小穴などを検出した。全体としては平安時代中期～鎌倉時代を中心とする遺構が多い。なお、確認した遺構の検出地点の標高は約10m前後である。以下、時代順に主な遺構のみ詳述するが、その他の遺構については第3・4表の遺構一覧表を参照されたい。

### (2) 検出遺構

#### 掘立柱建物

**S B 1** (第11図) B地区調査区の用水路を隔てた東側区画の中央部西よりのC10～D11グリッド付近で検出された。棟方向は東西棟で、主軸方向はE13°N、桁行3間、梁行2間の側柱建物である。柱間は、桁行・梁行ともに2.1mと等間隔である。柱穴は、長軸65～75cm、短軸50～65cmの略円形および楕円形で、確認できた柱痕跡は径25～35cmの円形であった。柱穴からは、土師器杯、土錘などが出土しており、平安時代中期頃の建物と考えられる。

**S B 2** (第11図) B地区の掘立柱建物S B 1の南西に主軸を直行させるように配置しており、S B 1の西側梁行とS B 2の東側桁行の柱穴が概ね一直線に並んでいる。桁行3間、梁行2間の側柱建物であり、柱間は、桁行・梁行ともに2.1mとS B 1と同様に等間隔で同規模の建物である。建物面積は26.5m<sup>2</sup>、棟方向は、南北棟で、主軸方向はN13°Wである。柱穴は平面形が略円形もしくは楕円形で一辺が直径60～90cm程度、柱痕跡は平面形が円形で径25～30cm程度であった。一つの柱穴の底には20cm×14cm程度の平らな長細い石が置かれていた。そのほか柱穴からは土師器の皿、杯、鍋、須恵器、土錘、灰釉陶器片などが出土地で出土している。出土遺物や位置関係からS B 1と同時期の建物と考えられる。

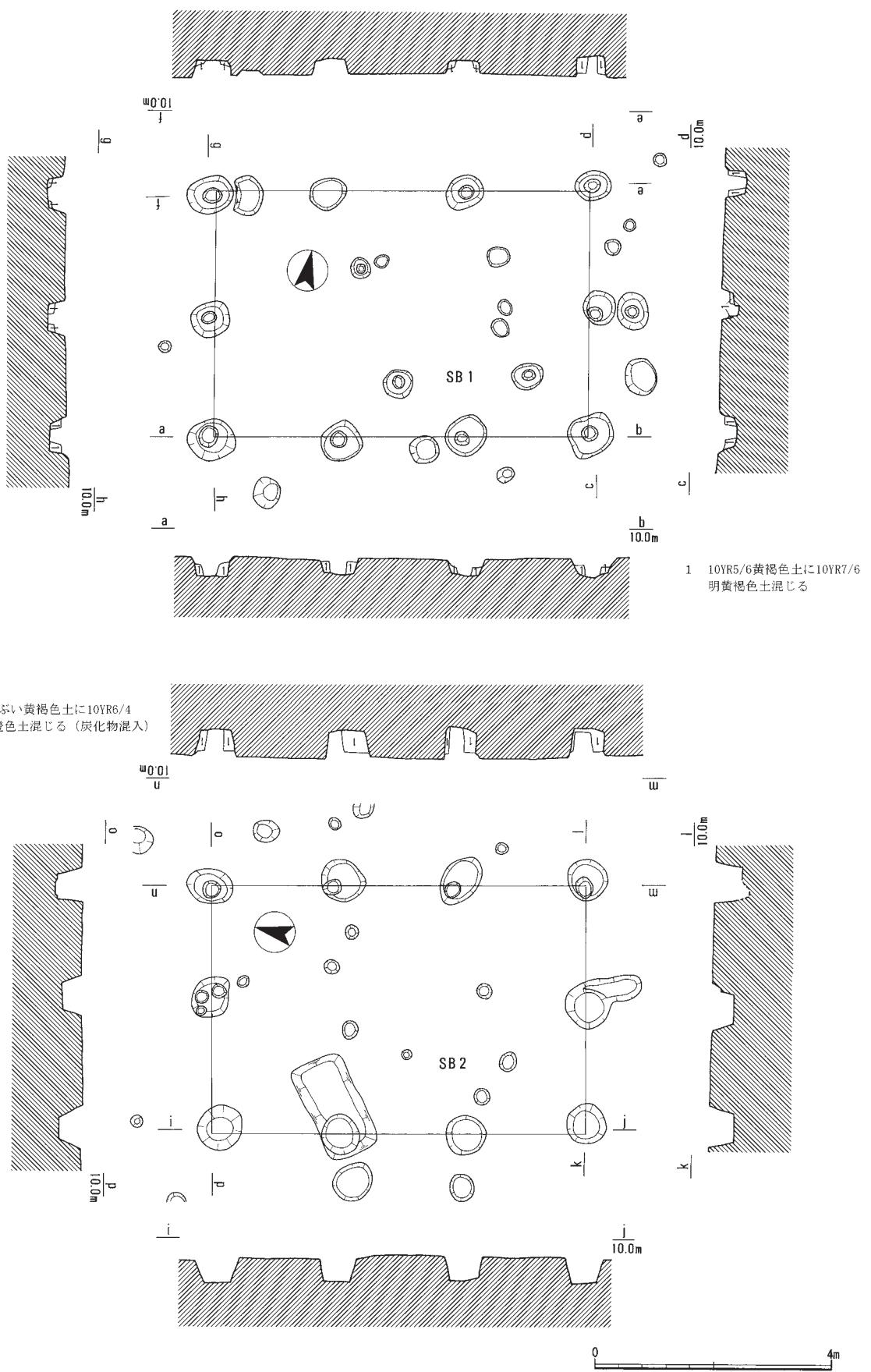
**S B 3** (第12図) C地区の調査区中央部やや北側

に位置しており、B37～D38グリッドで検出された側柱建物である。桁行3間×梁行2間の東西棟で、主軸方向はE20°Sである。桁行間は南側で、西から1.8m 1.8m 2.8m、北側で、2.1m、1.8m、3.0mとばらつきがある。梁行間は約1.8mである。特に北側桁行の最も東側の柱間が広く、西端の柱穴も複数検出されており、建てかえが行われたことも想定可能で、ゆがみのある平行四辺形の平面形となる可能性もある。主軸方向はE20°Sである。柱穴の規模は長軸40～95cm、短軸35～85cmの楕円形もしくは隅丸長方形で、確認できた柱痕跡は一部であったが、径約30cmであった。柱穴からは土師器皿や土師器甕、黒色土器杯などが出土している。出土遺物より平安時代中期～後期のものと考えられる。

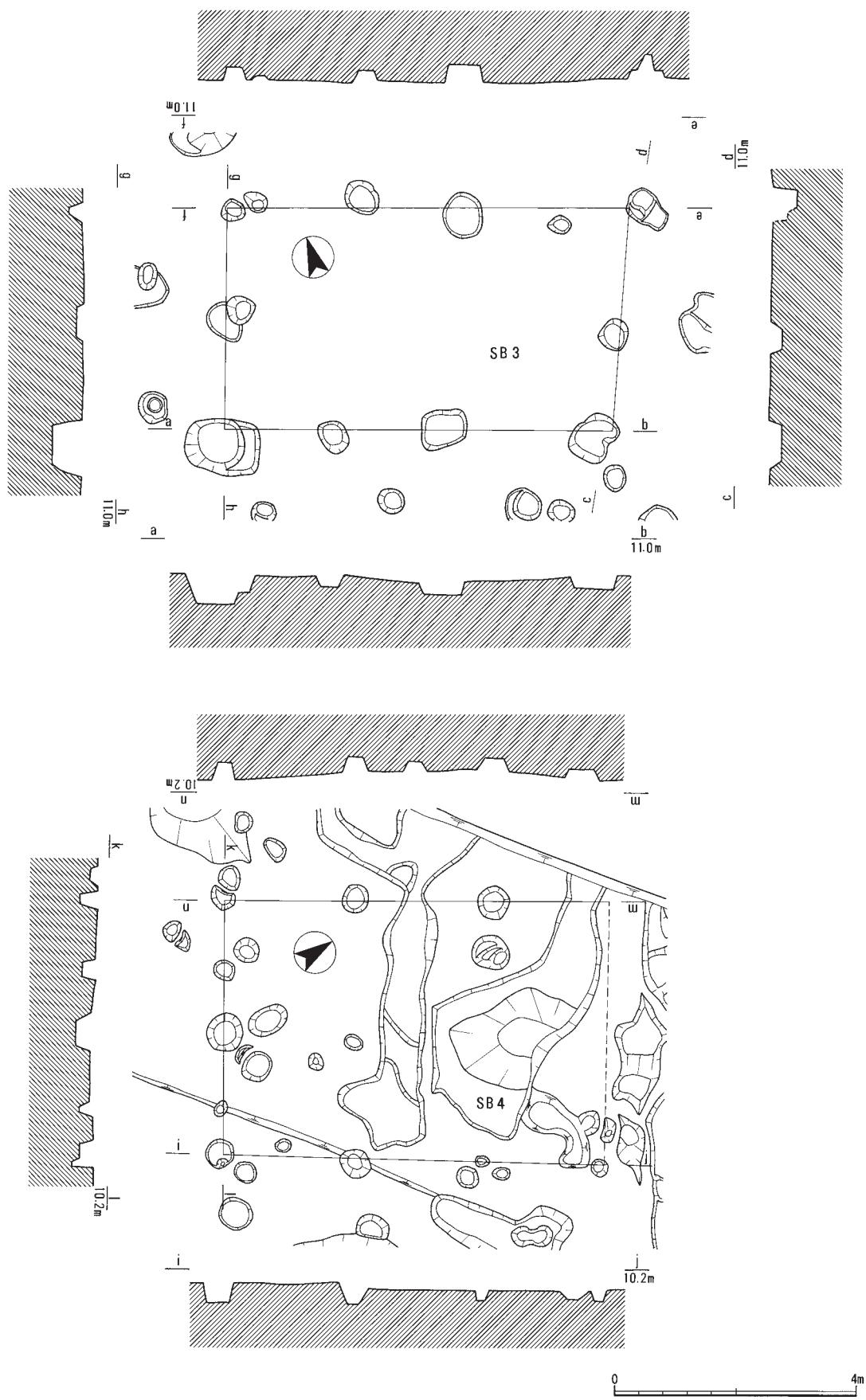
**S B 4** (第12図) A地区中央部やや南側に位置しており、D48グリッド付近で検出された側柱建物である。建物の北側は搅乱やS D79などの遺構と交錯し、全容は不明であるが、桁行3間、梁行2間の南北棟の建物と思われる。柱間は桁行梁行とともに2.1m程度のほぼ等間隔である。主軸方向はN33°Eである。柱痕跡は明瞭には検出できなかったが、柱穴は長径20～60cm、深さは最も深いもので約36cmである。柱穴からは、土師器杯、土師器甕などが出土している。平安時代後期～鎌倉時代前期の建物であろう。

**S B 5** (第13図) C地区の南東部F35グリッド付近で検出された。この建物は、大部分が調査区外へのびており、その一部分しか確認できなかったが、桁行3間、梁行2間以上の掘立柱建物であると考えられる。柱穴は長径40～50cm程度で、2つの柱穴の底には10×15cmほどの石が2～4個置かれていた。柱穴から土師器の小片が出土している。出土遺物より鎌倉時代後期～室町時代の建物と考えられる。

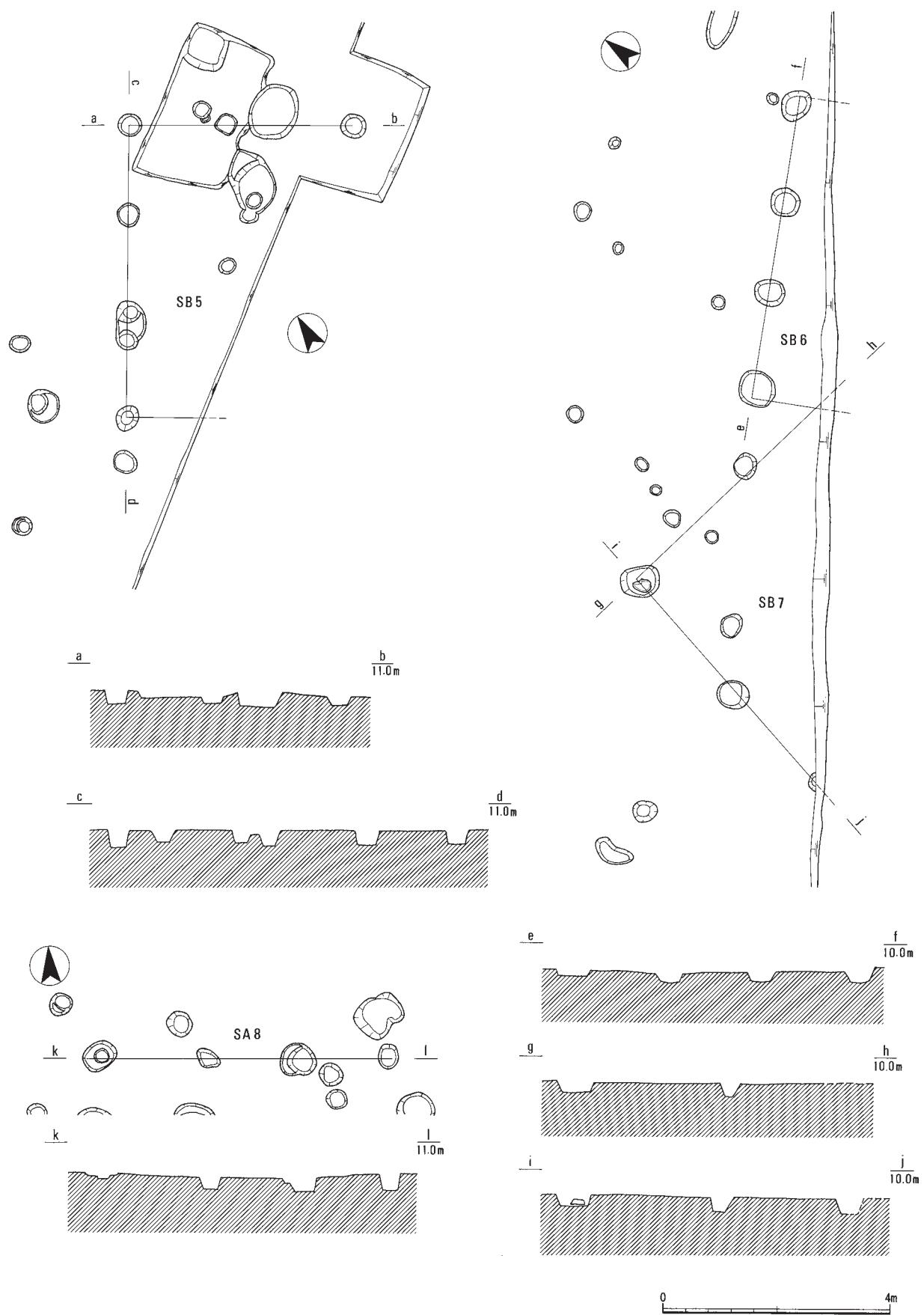
**S B 6** (第13図) B地区東側区画の南東部F13グリッド付近で検出された3間の柱列である。掘立柱建物の一辺を検出した可能性が高いが、建物の大部分は調査区外の南方向へのびていると思われるため、他の辺を構成する柱列は検出できなかった。柱穴は



第11図 SB 1・2 平面図・断面図 (1 : 100)



第12図 SB 3・4 平面図・断面図 (1 : 100)



第13図 SB5・6・7, SA8平面図・断面図 (1 : 100)

長径60cm前後、深さは最も深いもので約20cmである。各柱穴の底には根石と考えられる20cm四方もしくは20×40cmほどの石が3～5個程度置かれていた。柱穴から室町時代の陶器壢り鉢のほか図化できなかつたが土師器の小片が出土している。建物は室町時代、15世紀代以前の可能性がある。

**S B 7** (第13図) B地区東側区画の中央部南端付近で検出された。この掘立柱建物も大部分が調査区外へとのびている。根石と考えられるこぶし大強の平坦な石が置かれた柱穴があるが、調査区内では桁行・梁行が2間×1間分しか確認できなかつたため、主軸方向など詳細は不明である。柱痕は明瞭には検出できなかつたが、柱穴は長径45～65cm、深さは最も深いもので約27cmである。出土遺物はなかつたため、時期は不明である。

#### 柱列

**S A 8** (第13図) C地区中央部のS B 3の南側付近で検出された。4本の柱からなり、柱間は1.8mである。この柱列の南側にあるピットとともに掘立柱建物を構成するのではないかと当初想定したが、たくさんのピットを確認するも、掘立柱建物として復元することは出来なかつた。柱穴から出土した土師器皿などより、平安時代後期から鎌倉時代前期の遺構と考えられる。

**S A 9** C地区の南西部付近で検出された柱列である。3本の柱からなり、柱間は2.7mである。柱穴からは図化できなかつたが、青磁片が1点出土している。

#### 墓

**S X 10** (第14図) C地区の南側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸3.24m・短軸1.58mで、中央部でやや膨らんだ隅丸長方形を呈している。検出面からの遺構の深さは、約10cmと浅く、後世の耕作などによりかなり上面を削平されていると考えられる。埋土中からは人骨などの有機物は確認できなかつたが、人体を埋葬するのに十分な規模があり、底部もほぼ平坦に整形されていることから、墓と考えた。南東部上層より、土師器甕の口縁部(58)が、中央部からは山茶椀底部、北西部周辺からも土師器鍋や山茶椀などが出土している。平安時代後期から鎌倉時代前期の遺構と考えられる。検出

面上面から鉛玉が1点出土しているが、後世の混入と考えられる。

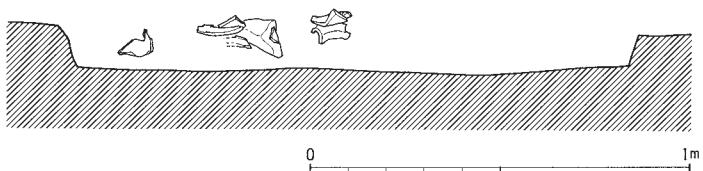
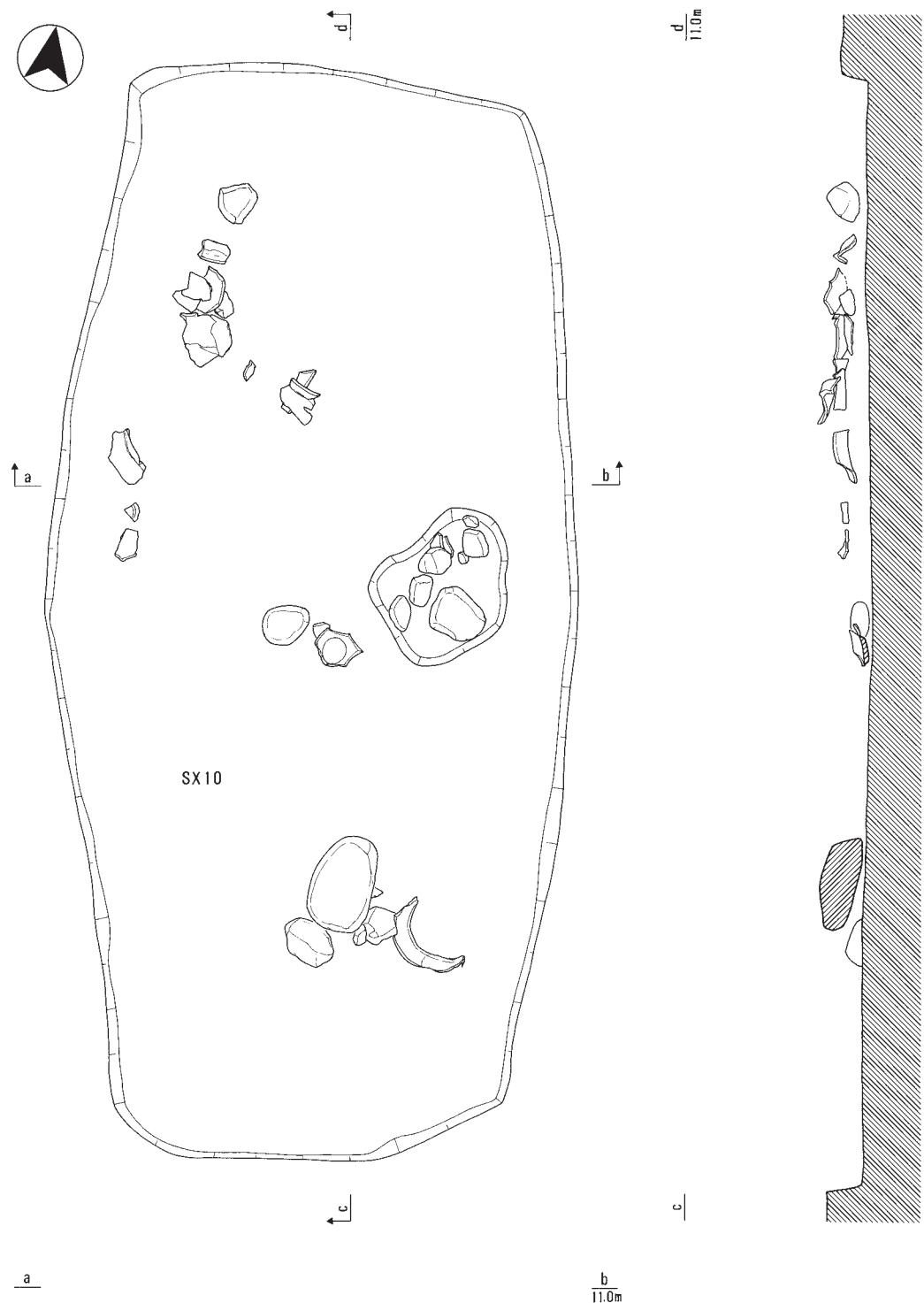
**S X 11** (第15図) C地区の最南西部で、S X 10の西9mに位置する。平面形は隅丸長方形で、主軸は概ね南北方向である。長辺1.8m、短辺1.2m、検出面からの深さは約0.6mである。墓壙の中央部底付近から土師器皿(65)が1点、土師器小皿(59～64)が6点出土している。また釘が1点(66)出土しており、やや規模の小さい木棺墓の可能性がある。S X 10と同時期の遺構であろう。

**S X 12** (第16図) C地区の南西部S X 13の南東1.7mに位置し、主軸は概ね南北方向である。平面形は楕円形で、長辺約1.2m、短辺0.8m、検出面からの深さは約0.2mである。墓壙内の北端から北西端にかけて副葬品と思われる完形もしくはほぼ完形の土器・陶磁器が4点出土した。最北端に、口縁部を下に向けた陶器小皿(69)が1点、その手前に正立した竜泉窯系の青磁碗(70)が1点、さらにその手前に陶器小皿(68)とその上に重なるように土師器小皿(67)1点がそれぞれ正立した状態で出土した。鉄釘は出土しておらず、墓壙の規模からも、木棺を使用したものではなく、土壙墓であった可能性が考えられる。3×2cm程度の鉄滓1点が出土している。鎌倉時代中期から後期の遺構と考えられる。

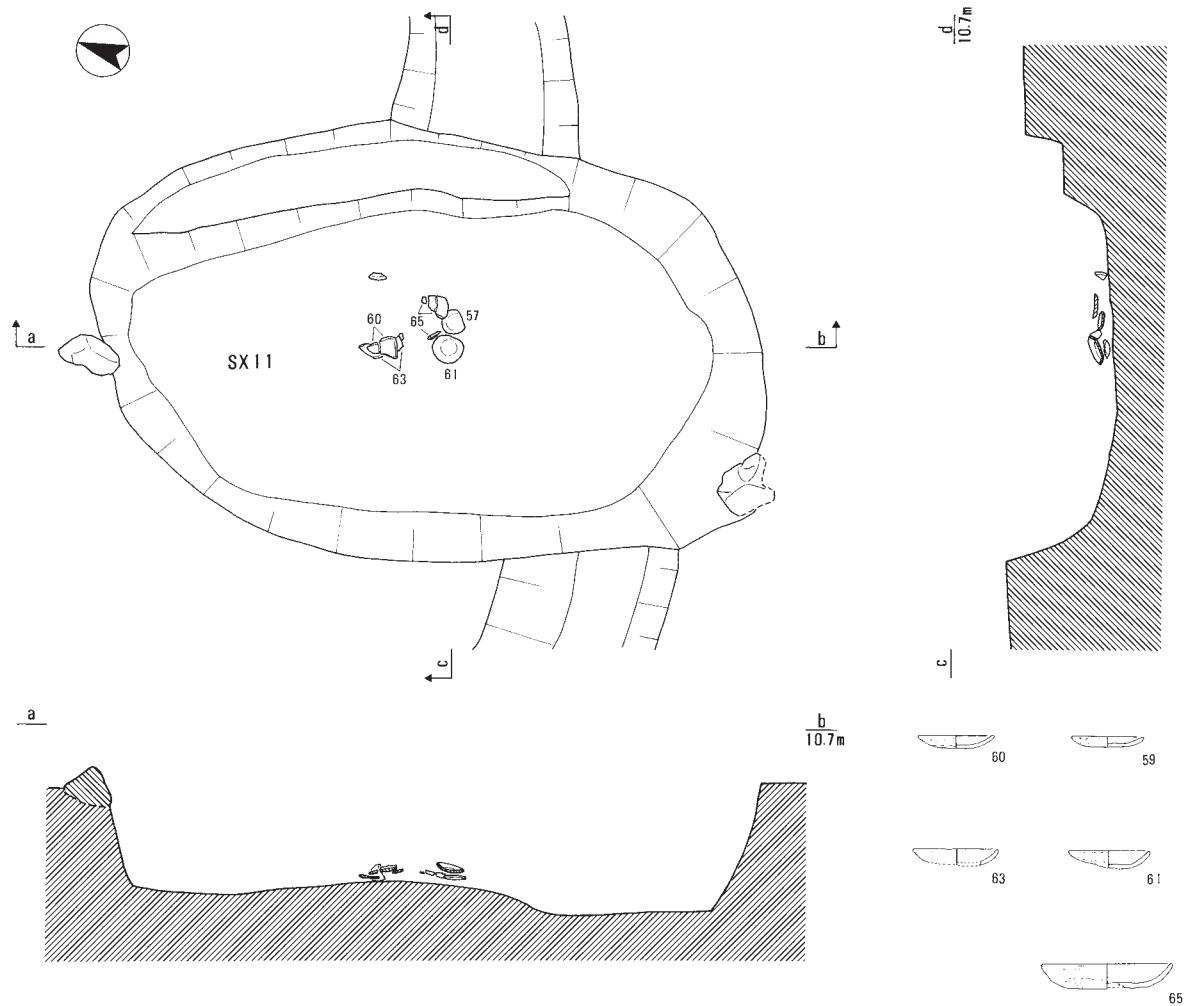
**S X 13** (第17図) C地区の南西部に位置する。平面形は隅丸長方形で、長辺約3.2m、短辺約2.3m、検出面からの深さ約0.2mである。墓壙内から鉄釘が2点(84・85)出土しており、木棺墓である可能性がある。そのほか土師器皿、陶器小皿、陶器碗、土師器鍋、土錘などが出土しており、副葬品として納められたものと思われる。また図化できなかつたが青磁片も2点出土している。出土遺物より鎌倉時代後期の遺構と考えられる。

**S X 14** (第17図) C地区のS X 13の北東1.2mに位置する。平面形は略楕円形で、長辺約1.5m、短辺約1.1m、検出面からの深さは約0.2mである。山茶椀の底部(86)が出土している。

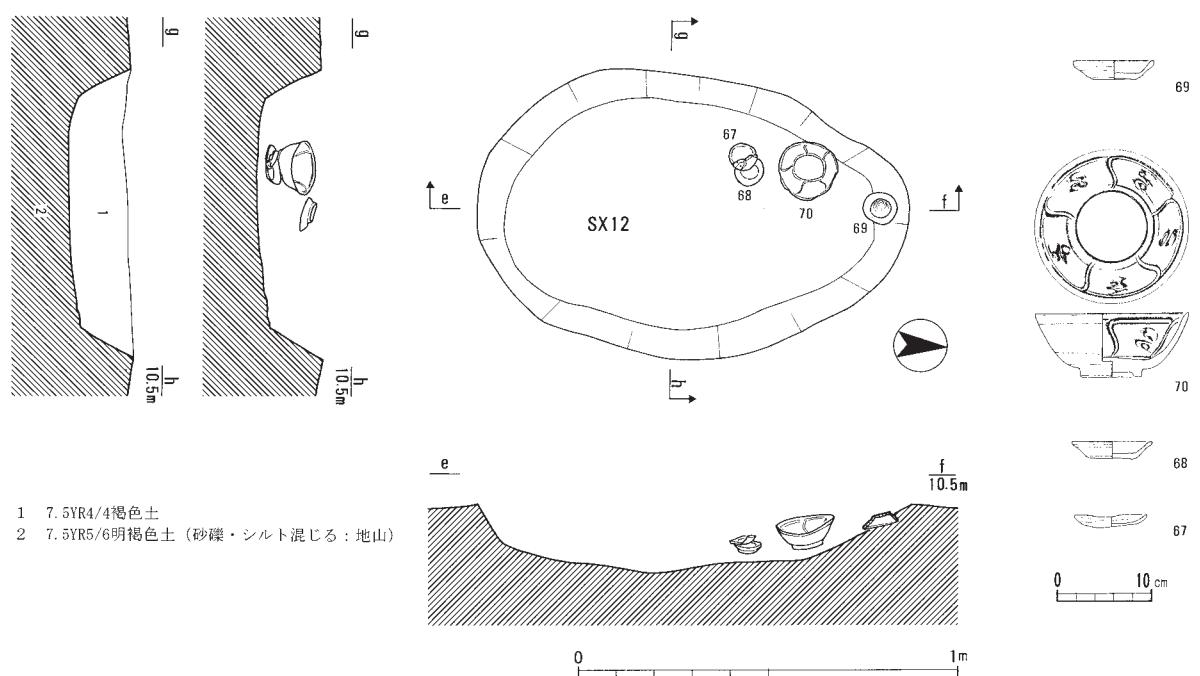
**S X 15** (第17図) C地区のS X 16の東1.2mに位置する。平面形は隅丸長方形で、長辺3.52m、短辺1.44m、検出面からの深さは0.42mである。西北部の上層より山茶椀の底部(87)が出土した。底部は



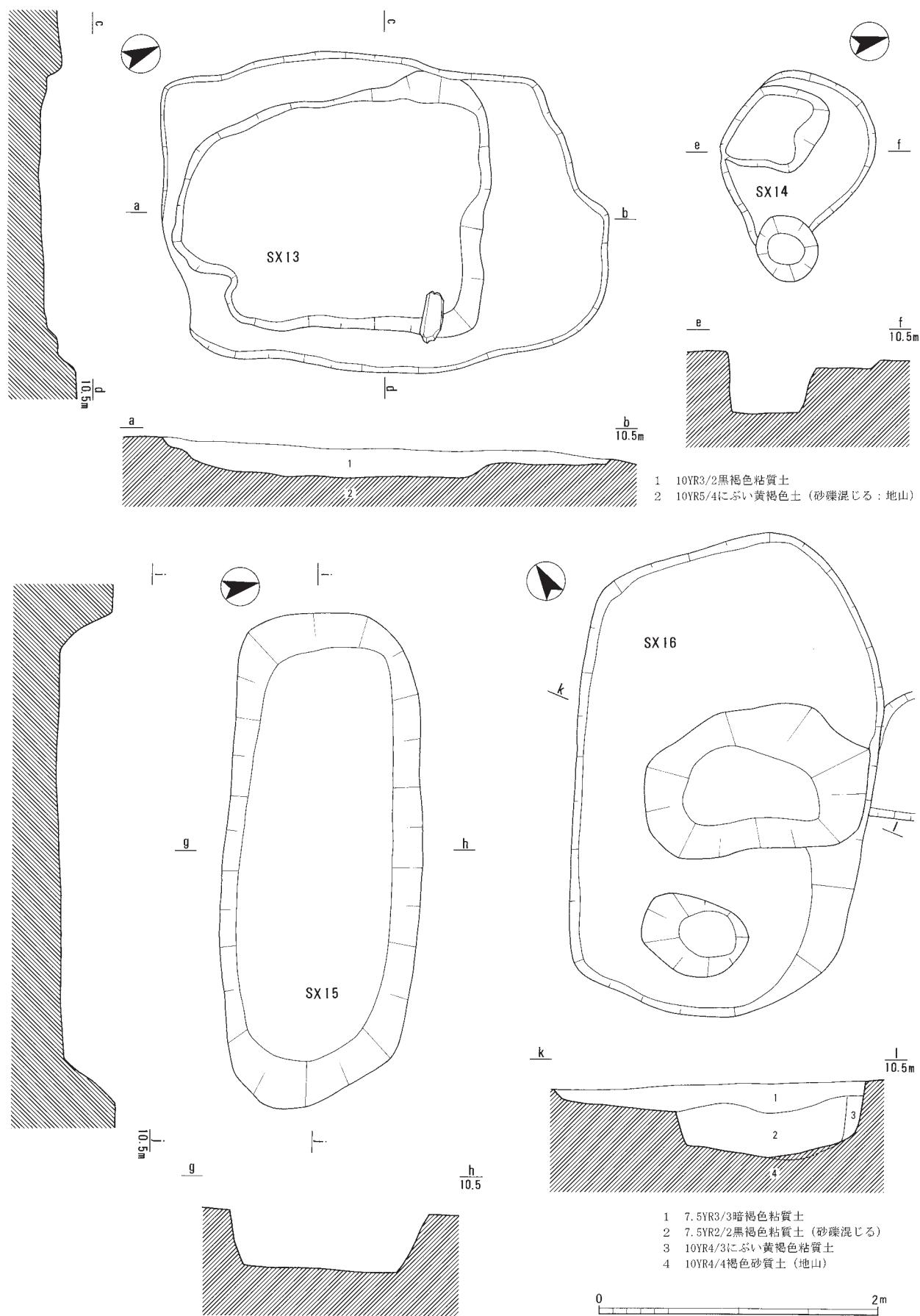
第14図 SX10遺物出土状況図・断面見通し図（1：20）



第15図 SX11遺物出土状況図・断面見通し図（1：20, 土器実測図は1：8）



第16図 SX12遺物出土状況図・断面見通し図・埋土土層断面図（1：20, 土器実測図は1：8）



第17図 SX13・14・15・16平面図・断面図 (1 : 40)

全面に平坦であった。

**S X16** (第17図) C地区の中央部で検出されたS B 3の北側に位置する。長辺3.50m、短辺2.14mの隅丸長方形で検出面からの深さは約0.28mである。鉄釘は出土していないが、墓石とも考えられる緑色片岩の板石が出土している。墓壙内の浅い面から、土師器の皿や鍋、陶器の皿や椀などが出土し、灰釉陶器や青磁椀（105）の小片もある。

#### 土坑

土坑や落ち込み等の遺構は51基を検出したが、楕円形、隅丸長方形、それらに近い形状のものほか不整形のものなど多様であり、性格が推定できないものが多い。A地区の土坑は、宮川からやや離れた東～南の調査区壁に近い側に多く、また形の整わないものがほとんどである。いくつかの土坑から縄文土器が出土しているが、縄文時代の遺構と断定できるものはない。

C地区においては、最も宮川に近いA32～36グリッドを除いて、ほぼ全面に土坑が検出された。形状はやはり多様であるが、A地区に比べると楕円形状のものの割合が多い。その中にはここでは土坑としたが、前述した墓群の一部としてとらえられる可能性のあるものもある。またA地区同様、調査区の東～南東側で検出されたものには不整形な土坑で縄文土器が出土したものもある。

最も上流側にあたるB地区は、先の2地区に比べ、遺構の密度は低く、掘立柱建物の近くにわずかに確認される程度である。時期不明の焼土坑1基を検出したのでここで合わせて報告する。

**S K20** A地区の中央部よりやや北東部に位置し、搅乱で北側を切られており全体の形状は不明である。遺構の北側底面からこぶし大の石が5個検出され、その石に被さるように山茶椀（115）が1点出土している。鎌倉時代前期の遺構と考えられる。

**S K35** C地区の北東端に位置する。長軸0.76m、短軸0.56m、深さ0.22mの楕円形の遺構である。こぶし大ほどの石が20個ほど集積した状態で検出された。そのなかから弥生土器甕、山皿（117）などが出土したが、弥生土器は混入したものと思われる。平安時代末から鎌倉時代前期の遺構と考えられる。

**S K50** C地区の中央部、S B 3の東側で、中央部

のせばまったく隅丸長方形、もしくは楕円形状の穴が結合したような平面形である。長軸は1.90m、短軸は1.00m、検出面からの深さは約0.22mである。図化できなかったが、土師器や陶器の小片が出土している。また鉄素材として再利用するために集められた可能性のある釘状の鉄片や鉄錢（120）と思われる遺物も出土している。

**S K57** C地区の南部、S B 5の北側の柱列に接するように位置している。平面形は楕円形で、長軸1.04m、短軸0.82m、深さ0.30mである。図化できた土師器小皿（121）のほか、土師器甕などの小片が出土している。平安時代後期から鎌倉時代の遺構と考えられる。

**S K59** C地区の南西部、S X12の北側に位置する。長軸1.14m、短軸0.84m、深さ約0.34mの楕円形の土坑で、図化できなかったが土師器小片が多数出土している。S X12、S X13、S X14の間に位置し、形状や規模から、墓の可能性もある。

**S K60・61・62** S K60は、C地区の南西部、S X13の南側に位置し、長軸1.14m、短軸1.10m、深さ約0.47mの略楕円形の土坑である。図化できない土師器小片が出土している。S K61は、S K60の南東2mに位置し、長軸1.70m、短軸1.10m、深さ約0.30mの楕円形の土坑である。遺物は出土していない。S K62は、S K61から南東4mの位置にあり、またS X10とS X11の間にある。長軸1.54m、短軸1.38m、深さ約0.2mの円形の土坑である。遺物は図化した土錐のほか、土師器小片も相当数出土している。S K60・S K61・S K62は、いずれもC地区南西部の墓と考えられる一群の土坑が存在する地区にあり、形状や規模から、墓の可能性も否定できない。

**S K63** C地区の最南部で、S B 5の南側に位置する。遺構の南側を調査区壁に切られており、検出した平面形は三角形状である。底面は北にいくほど深くなり北端ではPit状に落ち込んでいる。出土遺物には土師器小皿、山茶椀、土錐のほか2.5cmほどの鉄釘の破片が4点ある。鎌倉時代の遺構であろう。

**S F67** B地区南西端E1グリッドで検出された焼土坑である。遺構は調査区外にのびており、調査区内の平面形は半楕円形で、検出した部分は、長辺

0.56m、短辺0.38m、底の深さは0.15mである。壁面は部分的に被熱し、埋土には焼土ブロックが混じっていた。出土遺物はなく時期不明の遺構である。

#### 溝

**S D69** A地区の調査区北部に位置しており、北西から南東へのびる溝である。最大幅1.90m、深さ約0.55mである。両端は調査区外へのびている。溝の南東部で東からのびるS D68を、中央部では西側からのびるS D70を切っており、これらからS D68・70より新しい溝と考えられる。1条の溝として掘削を進めたが、土層断面の検討の結果、時期の異なる2条の溝が重複していることが判明した。南東部の南よりの部分で、やや浅めの深さ約0.4mの古い溝の底も検出され、新しい溝は、この古い溝を一部壊して掘り直したものと考えられる。またこの溝の埋土にはこぶし大前後の石が多数含まれていた。出土遺物のうち古墳時代の遺物はS D68など古い溝に伴うものである可能性がある。平安時代以降の出土遺物としては、土師器皿・椀・鍋・陶器椀・鉢などが多数出土している。出土遺物から平安時代後期から鎌倉時代頃の溝と思われる。

**S D70** A地区の調査区北部に位置し、最大幅1.4m、深さ0.5mの、概ね東西方向の溝状遺構である。西側は攪乱によって破壊され、東側はS D69に切られている。同様にS D69に切られる古墳時代の溝S D68の延長上にあり同一の溝である可能性も想定されたが、出土遺物がなく埋土の状況からは判断がつかなかった。

**S D72** 調査区中央よりやや北側に位置する溝状遺構で、概ね東西にのび中央部の攪乱に切られる。最大幅0.70m、深さ0.13～0.58mの溝である。土師器鍋が出土している。

**S D73** S D74と攪乱に切られる。最大幅1.0m、深さ0.2m東西方向の溝状遺構である。

**S D74** A地区の調査区中央部に位置し、最大幅0.64m、深さ0.15mの、北西から南東にのびる溝であり、南端部は攪乱によって切られている。出土遺物としては、土師器皿があり、図化できなかったが、山茶椀の小片もある。

**S D75** S D74の南側に沿うように位置し、S D74を切っている。最大幅0.48m、深さ0.18mの溝であ

り、埋土にはこぶし大の石が多数含まれていた。出土遺物には山茶椀がある。

**S D76** A地区の調査区中央部でS D74の南側に位置する。最大幅0.7m、深さ0.08～0.26mの、北東から南西にのびる溝である。山茶椀の底部のほか図化できなかったが土師器や陶器の小片が多数出土している。

**S D80** A地区やや南よりのS B 4にむかって流れ込むような位置にあり、最大幅約1.4m、深さ0.27mの、概ね東西方向の溝である。出土遺物には土師器皿のほか図化できなかったがクロ土師器などもある。

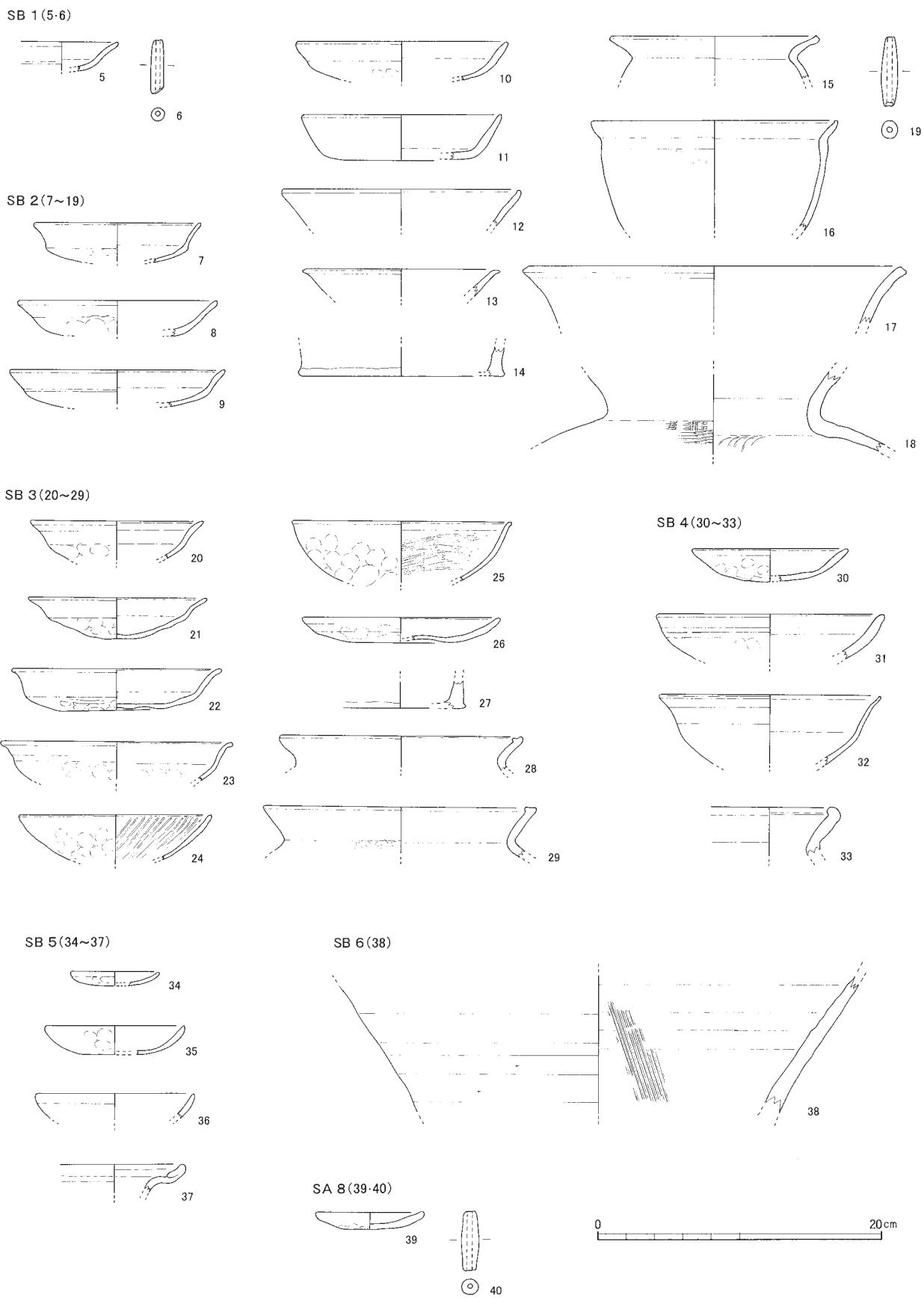
## 2 遺物

万所遺跡の平安時代から室町時代の遺構から出土した遺物は土器類が中心で、少量の土製品、鉄製品が含まれている。以下では出土遺物の特長を主に遺構単位で記述する。遺物個々の詳細については遺物観察表（第5～23表）を参照されたい。

**S B 1 出土遺物（5・6）** 5は土師器杯。胎土は赤色粒を含みやや粗く、口縁部はゆるやかに外反する。内外面ともにミガキはみられない。6は土師質の土錐である。

**S B 2 出土遺物（7～19）** 7～11は土師器杯または皿である。口縁部は外反するものが多い。特に7・9は強いナデ調整によって体部中位から口縁端部にかけて鋭く外反する。斎宮編年<sup>①</sup>の第II期第4段階に相当か。また7・8・10は体部下半にユビオサエが若干残る。15・16は土師器甕。口径は約15～17cmとやや小ぶりである。16は、口縁部はヨコナデが施されるが、部分的にハケメが残る。17は須恵器甕で、口径は27cmと大きい。18は須恵器壺で、頸部から肩部にかかる部分である。肩部にはタタキが施され、内面にはあて具痕が見られる。19は土師質の土錐である。

**S B 3 出土遺物（20～29）** 20～24は土師器皿または杯である。20～23は口縁端部が外反し、外面体部下半には指オサエが見られる。斎宮編年で第II期第4段階もしくは第III期第1段階に属するものと思われる。24は胎土が精良で内面に放射状の暗文が施されている。25は黒色土器椀である。内面のみ黒色を



第18図 出土遺物実測図② (1 : 4)

呈する。24と同様胎土は精良で、内面にはヨコミガキが施される。26は土師器皿。底部外面からのユビオサエにより凹んでいる。27は志摩式製塩土器である。外面と底部にわずかに粉殻痕が残る。小片のため径が復元できなかった。28・29は土師器甕である。28の頸部内面には炭化物のような黒い付着物がある。

**S B 4 出土遺物 (30~33)** 30は土師器皿。31は土師器杯で、体部外面にユビオサエが少し残る。器壁はかなり厚い。32は土師器碗で、本来高台付きのものであろう。33は土師器甕で、口縁部の器壁はやや厚く内側に肥厚する。斎宮編年で第III期第2段階に相当か。

**S B 5 出土遺物 (34~37)** 34は土師器小皿、35・36は土師器皿で、34・35はともに体部外面にユビオサエが残る。37は土師器鍋で、口縁端部を内面に折り返したものである。伊藤氏の編年による南伊勢系土師器鍋の第2段階か。

**S B 6 出土遺物 (38)** 38は瀬戸美濃産の擂鉢の体部で、確認できる擂り目は10条である。全体に暗赤灰色の釉薬が施される。

**S A 8 出土遺物 (39・40)** 39は土師器小皿で、底部外面付近にユビオサエが見られる。40は土師質の土錐である。

**S X 10 出土遺物 (41~58)** 41~43は土師器小皿である。41・42は体部下半にユビオサエが残る。43はロクロ土師器である。44もロクロ土師器の底部片で口縁部は欠損している。皿もしくは碗であろうと思われる。底部の器壁は厚い。45は陶器小皿(山皿)で口縁内面に自然釉が付着しており、高台がある。46~54は山茶碗あるいは灰釉陶器碗である。48・49・50・51の山茶碗は底部内面の摩滅が明瞭である。49は硬質で、胎土や高台の形状より藤澤良祐氏の編年(以下藤澤編年)による尾張第5型式であろう。51の山茶碗の高台は形状がややいびつで畳付には砂粒が付着している。52は体部内面に自然釉が付着している。外面には灰釉が施されており灰釉陶器碗と考えられる。54は灰釉山茶碗である。内外面に灰釉が施してあり、輪花が見られる。おそらく4箇所に施されていたものと思われる。藤澤編年の渥美第4型式であろう。

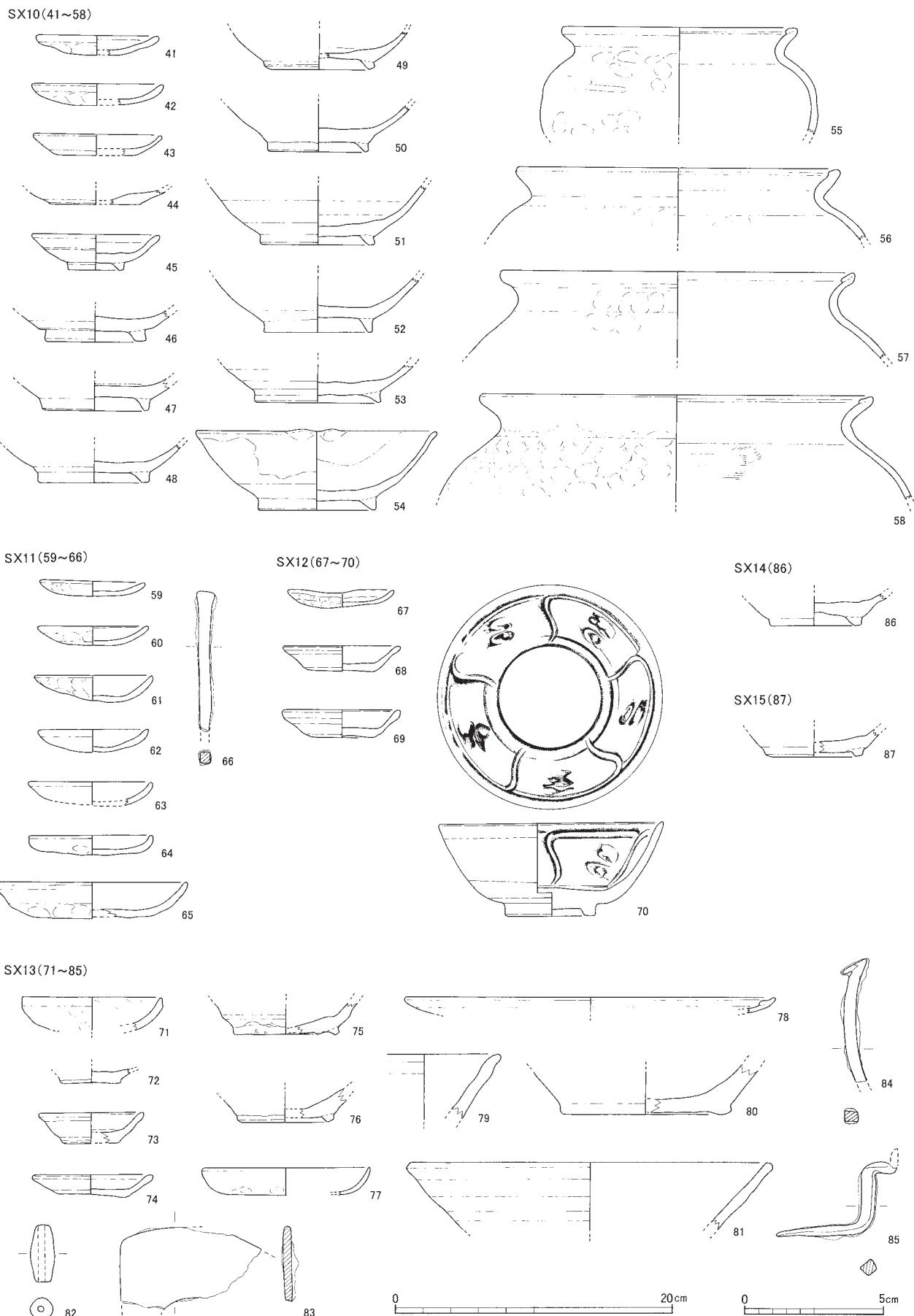
55~58は土師器甕・鍋である。56は折り返した口

縁端部が肥厚し、頸部外面に煤が付着している。57も口縁部に煤が付着している。口縁端部は内面に大きく折り返されている。58は全体に煤が濃密に付着し摩耗が激しいため調整が不明瞭であるが、体部外面は指オサエやナデ、内面はハケメが見られる。

**S X 11 出土遺物 (59~66)** 59~64は土師器小皿である。径は7.6~9.0cmで、ユビオサエの残るものが多い。64は他のものに比べ底部が平らで口縁はつまり上げられるように上方に立ち上がる。65は土師器皿である。口縁部は底部から緩く内弯しながら立ち上がる。体部下位にはユビオサエが見られる。66は鉄釘である。

**S X 12 出土遺物 (67~70)** 遺物は4点ともに完形である。67は土師器小皿。口径は7.5~8.1cmでゆがみが大きく、器高は1.3cmと低く扁平な形態である。ナデの施されたたは弱い。体部にはユビオサエが見られる。南伊勢系土師器A形態である。68・69は陶器小皿である。口径はともに8.5cmと同サイズである。ともに高台はなく底部内面と体部内面の境は明瞭に屈曲し、69は一部外面に自然釉が付着する。藤澤編年渥美第6もしくは第7型式に相当するか。70は青磁碗である。片切り彫りによって器面に模様を彫り込む。文様は、花弁状に内面を5分割し、その中に飛雲文を描く。見込みには模様はない。口径16.1cm、器高6.7cmの龍泉窯系で森田勉氏による分類のI~4類に相当すると思われる。高台畠付には一部釉がかかるが意図的なものではなく、高台内側は露胎である。外面には文様がなくやや暗い緑色を呈する釉が厚くかかり、器壁も厚い。輪花はない。

**S X 13 出土遺物 (71~85)** 71は土師器小皿で口縁部内面には工具によるナデが見られる。72~74は山皿。いずれも高台はない。72は底部のみで器壁は厚い。73も底部の器壁は厚く、自然釉がかかっている。75・76は山茶碗。75は高台のつぶれが著しく、底部は厚い。粉殻痕が残る。尾張第6もしくは第7型式か。76の底部も厚く高台は75よりややしっかり残っている。77は土師器皿。底面中央は失われているが、底部から口縁部にかけて緩く内弯しながら立ち上がる。78は南伊勢系土師器鍋の口縁部小片。外面に煤が付着している。79は須恵器鉢。底部の破片で、器壁がかなり荒れている。80は陶器鉢の底部、81は陶



第19図 出土遺物実測図③ (66・83~85は1:2, その他1:4)

器鉢の口縁部である。82は土師質の管状土錐。83～85は鉄製品。83は鋳鉄片だが詳細は不明。鉄製鍋の鍔部か。84・85は鉄釘である。85は頭部、先端とも残存。中程より屈曲している。

**S X 14出土遺物 (86)** 86は山茶椀の底部である。重ね焼きのため焼成時に下の個体と融着したためか高台には剥離部分が多い。底部内面は平らな形状で、内外面の一部に自然釉の付着がある。渥美産であろう。

**S X 15出土遺物 (87)** 87も山茶椀の底部である。高台は角ばり低く、底部の器壁は厚い。渥美産と思われる。

**S X 16出土遺物 (88～114)** 88～98は土師器皿類である。ほとんどのものに指オサエ痕が残る。90・91は口縁のゆがみが大きい。225もゆがみがあり、指オサエが強く底部は内側に凹んでいる。98の立ち上がりは他のものに比べゆるやかであるが、体部中位に不明瞭な稜線もつ。平安時代末期のもので、混入したものか。

99～104は陶器椀。99～102は底部。高台はいずれも低めであるが、100の高台は特に低くつぶれてい。103・104は口縁部である。103は口縁内外面とも自然釉がかかり、外面に一部煤が付着している。105は青磁碗である。内面に草花文が描かれている。106は陶器鉢。注口付である。107は陶器壺である。口縁内外面に釉がかかっている。灰釉陶器壺としてもよいか。混入と思われる。108～110は南伊勢系土師器鍋である。110は口径約31.4cmの大型鍋である。111は陶器甕。押印のある常滑甕体部片で13世紀後半～14世紀前半のものか。112～114は管状土錐である。

**S K 20出土遺物 (115・116)** 115は山茶椀。外面部に自然釉が、高台には粉殻痕が見られる。内面底部と体部の境に屈曲はない。尾張第4～5型式か。116は土師器鍋である。

**S K 35出土遺物 (117)** 117は山皿。高台があり、口縁まで直線的に立ち上がる。

**S K 50出土遺物 (118～120)** 118～120は鉄製品。118・119は鉄釘である。120は無文の鉄錢と思われる。

**S K 57出土遺物 (121)** 121は土師器小皿で、体部

外面にユビオサエがみられる。

**S K 62出土遺物 (122)** 122は管状土錐である。ほぼ完形で、残存長4.1cmである。

**S K 63出土遺物 (123～130)** 123は土師器小皿小片である。124は山茶椀。大きめのしっかりした高台で、内面には自然釉が見られる。渥美第5型式IIの新に相当か。125・126は土師質の管状土錐である。127～130は鉄釘である。

**S D 69出土遺物 (131～145)** 131～133は土師器の皿・椀類。131・133はロクロ土師器である。体部下位にユビオサエが残る。134～141は陶器椀類。135・137は灰釉陶器椀。136は底部が厚く高台がつぶれぎみである。渥美第6型式相当か。140の底部には墨書が見られるが解説は困難である。やや外側に開いた高めの高台に粉殻痕が残る。141は、緩やかに体部が立ち上がり口縁はかすかに外反する。渥美第5型式IIの新に相当すると思われる。

142・143は土師器甕。ともに煤が付着している。口径は約20cm前後で小型である。144は須恵器壺の口縁部片。口径は推定約30cmである。145は陶器鉢。外面に自然釉がかかる。

**S D 72出土遺物 (146)** 146は土師器鍋。

**S D 73出土遺物 (147)** 147は土師器小皿で、ゆがみが大きい。

**S D 74出土遺物 (148)** 148は土師器小皿。小さめの底部からやや直線的に斜め上方に立ち上がる口縁を持つ。

**S D 75出土遺物 (149)** 149は山茶椀で、口縁がやや外反する。

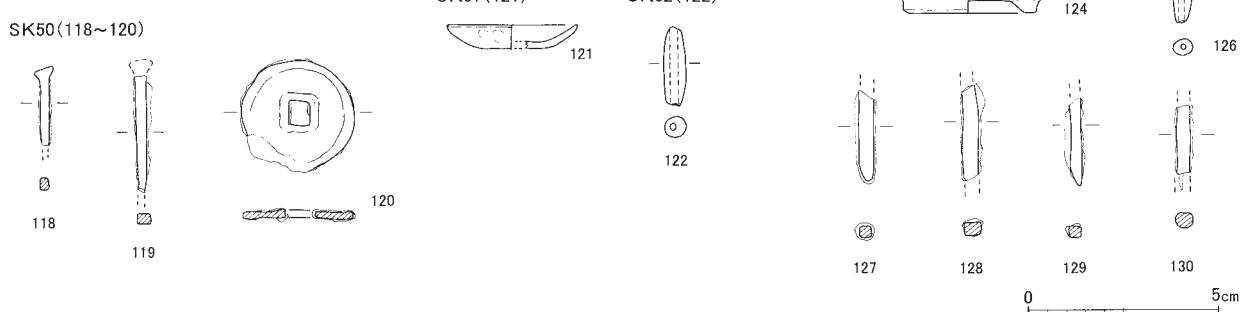
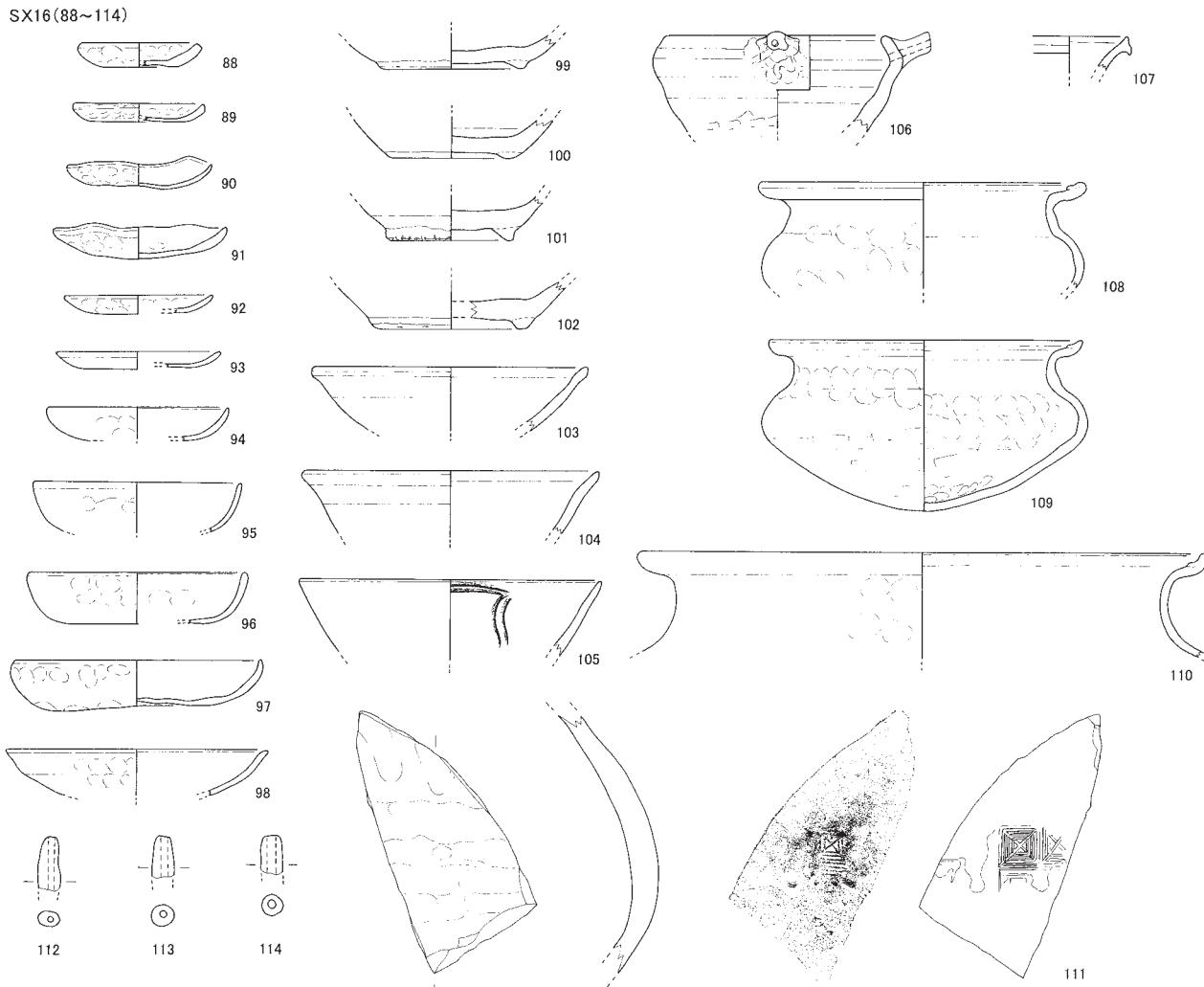
**S D 76出土遺物 (150)** 150は山茶椀。高台は低く潰れぎみで、粉殻痕がみられる。底部の器壁は厚い。

**S D 78出土遺物 (151)** 151は土師器鍋。

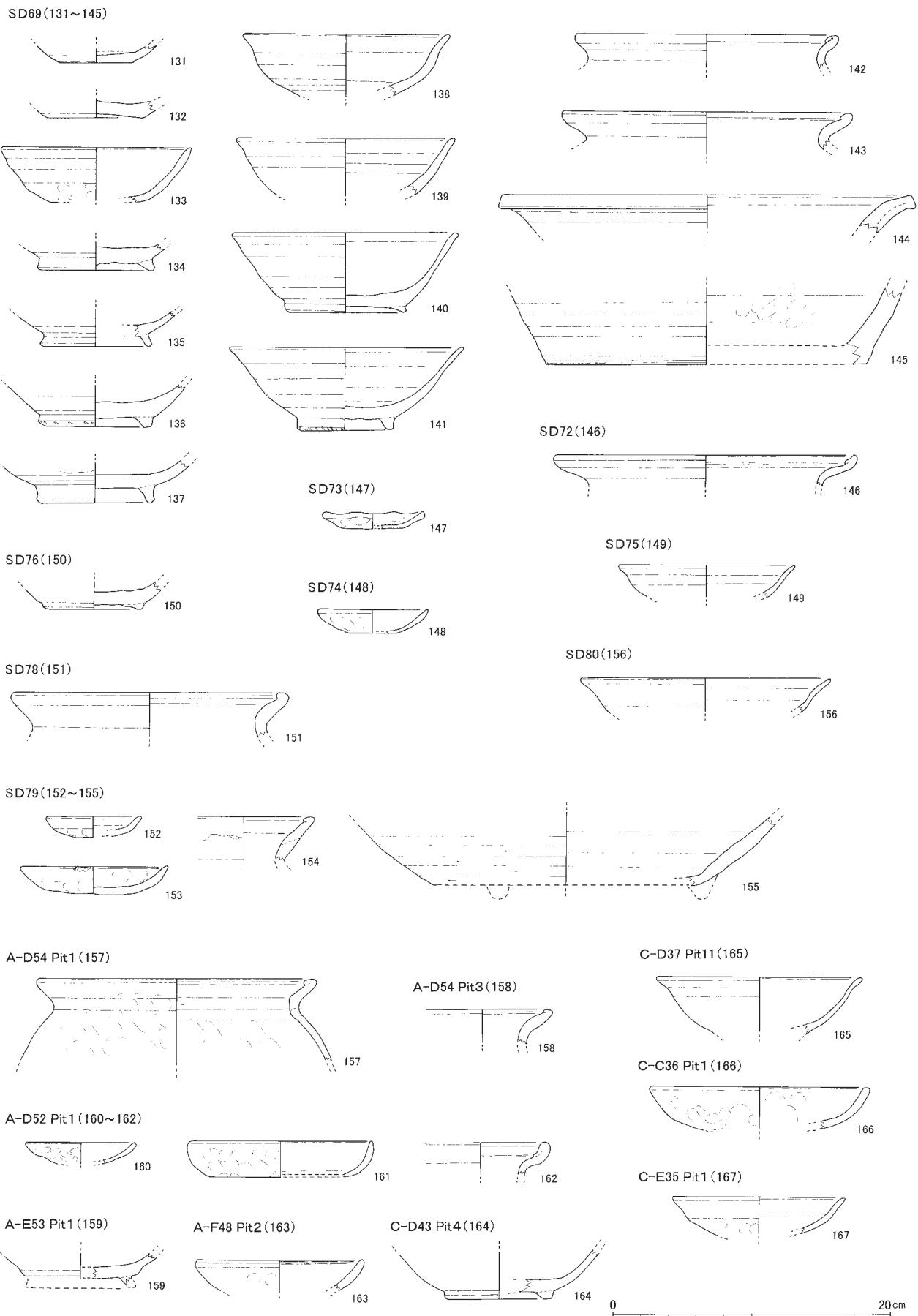
**S D 79出土遺物 (152～155)** 152は土師器小皿。153は土師器皿で口縁部先端の一箇所に油煙痕があり、灯明皿と考えられる。全体に器壁は厚い。154は土師器甕の口縁部。接合痕が見られ、外面には煤が付着する。155は3足の土師器火鉢か。内面に被熱痕が見られる。

**S D 80出土遺物 (156)** 156は土師器皿。底近くで稜をもち口縁は外反する。

**P i t 出土遺物 (大地区名を先頭に付与)**



第20図 出土遺物実測図④ (118~120・127~130は1:2, その他1:4)



第21図 出土遺物実測図⑤ (1 : 4)

**A—D54 Pit 1 出土遺物 (157)** 157は土師器甕。内外面にユビオサエがみられ、内面にはハケメが一部残る。

**A—D54 Pit 3 出土遺物 (158)** 158は土師器甕。

**A—E53 Pit 1 出土遺物 (159)** 159は山茶椀底部。内面に自然釉がかかる。

**A—D52 Pit 1 出土遺物 (160～162)** 160・161は土師器皿。160は体部外面にユビオサエが、161は外面に工具ナデが残る。162は土師器鍋の口縁部。外面に煤が付着する。

**A—F48 Pit 2 出土遺物 (163)** 163は土師器皿。

**C—D43 Pit 4 出土遺物 (164)** 164は山茶椀。内面底部は摩滅している。

**C—D37 Pit 11 出土遺物 (165)** 165は山茶椀。口縁は外反する

**C—C36 Pit 1 出土遺物 (166)** 166は土師器皿。内外面にユビオサエが残る。

**C—E35 Pit 1 出土遺物 (167)** 167は土師器皿。稜をもち口縁はかすかに外反する。

**C—E38 Pit 1 出土遺物 (168～172)** 168～170は土師器杯・皿類。168・169は体部中位に稜をもち口縁部は外反する。171は土師器鍋。外面にユビオサエ、ハケメが見られる。172は志摩式製塙土器である。

**C—D36 Pit 14 出土遺物 (173)** 173は土師器皿。体部下位にユビオサエがあり、口縁は外反する。

**C—E37 Pit 3 出土遺物 (174)** 174は土師器皿。体部下位にユビオサエがある。

**C—D35 Pit 2 出土遺物 (175～177)** 175は灰釉陶器椀。176は土師器鉢。内外面にユビオサエが見られる。口径は約18.6cmである。177は志摩式製塙土器。

**C—D35 Pit 9 出土遺物 (178)** 178は土師器甕。口径17cmの小型のもので、口縁内面に黒色の炭化物状のものが付着する。

**C—E35 Pit 3 出土遺物 (179)** 179は完形の管状土錐。長さ2.7cm、口径1.25cmの小型のもの。

**C—E34 Pit 1 出土遺物 (180～182)** 180は土師器小皿で、ゆがみが大きい。体部外面にユビオサエがある。181は山茶椀。高台は小さめで底部中央にいくほど器壁は薄くなる。高台に粉殻痕の付着があ

る。182は土師器鍋。口径約30.4cmの大型品である。

**C—E33 Pit 1 出土遺物 (183・184)** 183・184は山茶椀。183は口縁部付近に自然釉がかかる。184は厚い底部をもつ。

**B—C15 Pit 1 出土遺物 (185)** 185は土師器皿。全体に風化が著しい。

**B—D12 Pit 1 出土遺物 (186～188)** 186は土師器杯。187・188は土師器皿。188は内外面ともユビオサエのちナデ調整が施されている。底部付近にユビオサエが残る。

**B—D11 Pit 4 出土遺物 (189・190)** 189は土師器皿。口縁は外反する。190は土師器鍋の口縁部小片。外面に煤が付着する。

**B—D11 Pit 5 出土遺物 (191)** 191は口径12.7cm、器高3.2cmの土師器杯である。斎宮編年の第Ⅱ期第4段階に相当し、10世紀代に所属するものと思われる。底部に墨書があるが、一部が消失しており判読が困難である。「具」もしくは「良」の上の点のない文字のように見える。後者である場合、「丑寅」=東北の方角を現し、それは当時の陰陽道の鬼門にあたる。丁寧に仕上げられていることからも方位鎮めの祭りごとに使われたものと考えることも可能である。偶然の所産か、出土したPitはS B 1 の建物中央部よりやや東北に位置する。

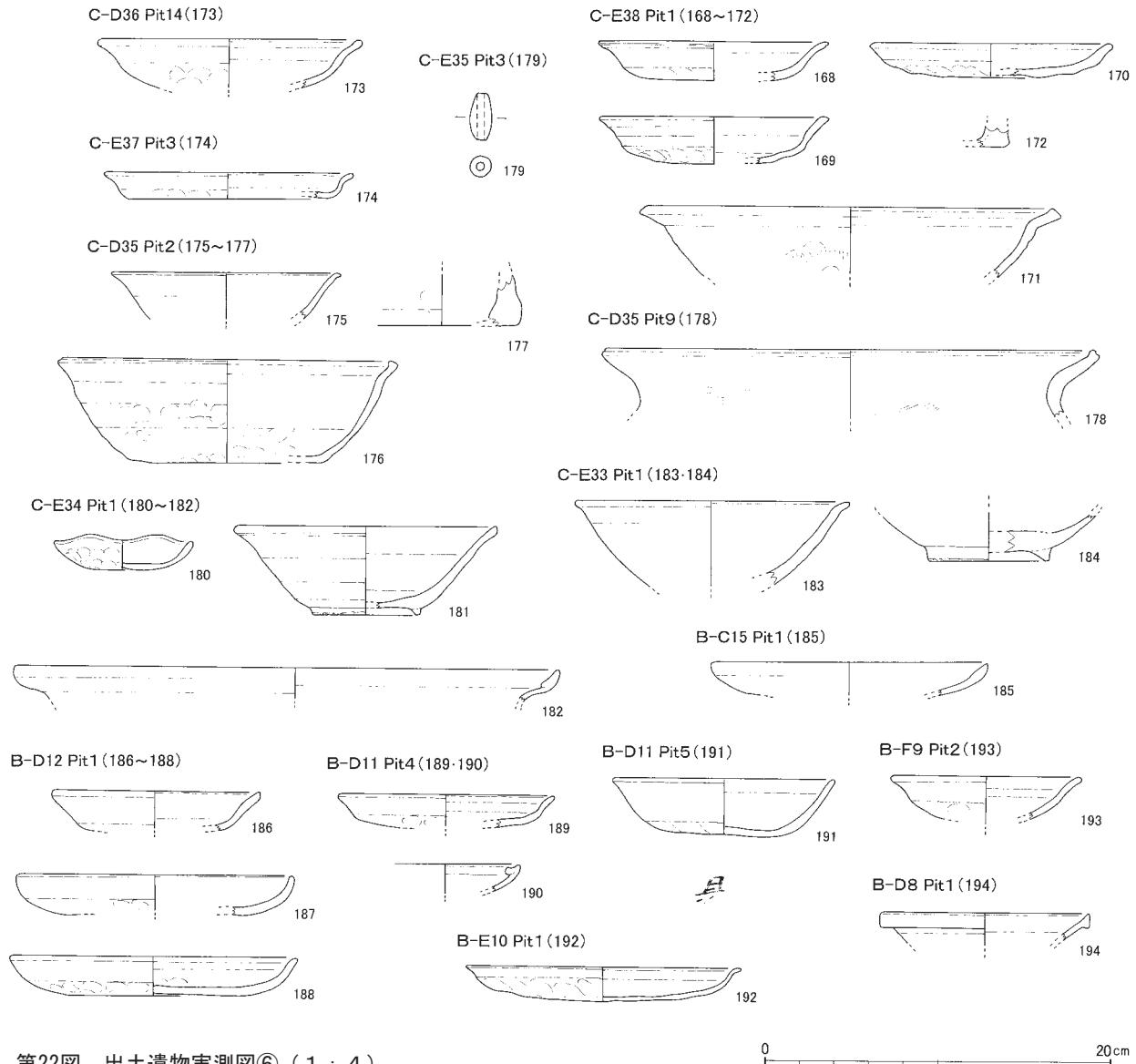
**B—E10 Pit 1 出土遺物 (192)** 192は土師器皿。口縁は外反する。内面の摩耗は著しく、外面にはオサエが見られる。

**B—F9 Pit 2 出土遺物 (193)** 193は土師器杯。体部中位に稜が見られ、口縁は外反する。

**B—D8 Pit 1 出土遺物 (194)** 194は陶器壺の口縁部。外面に釉が施されている。

**包含層・その他出土遺物 (195～300)** 195～231は皿・杯類である。195・196は土師器小皿。198はほぼ完形で、口縁端部に強い横ナデが施され、体部下半に指頭痕が多数残る。203・204は山皿。205は白磁皿で、口縁端部は露胎である。206・208の杯は、ユビオサエが強く底部は内側に凹んでいる。

207は外面に工具ナデ痕が残る。213の杯はほぼ完形で、内面全体に工具ナデが施され、体部外面にもユビオサエが明瞭に残る。また体部上位に黒班がみられる。215は体部外面にユビオサエとともに爪痕



第22図 出土遺物実測図⑥ (1 : 4)

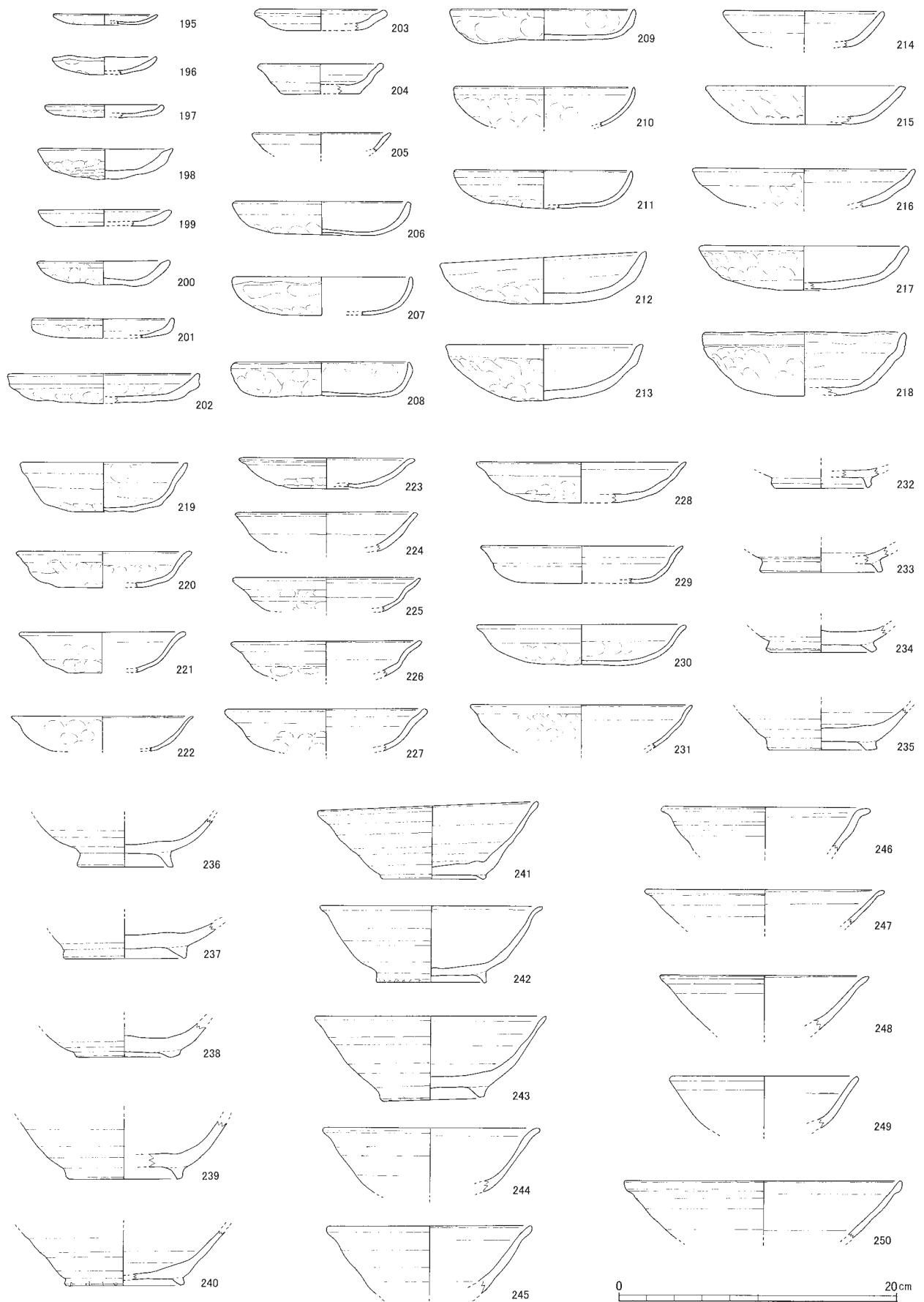
も残る。218の土師器杯は、口縁部に沈線が施されている。219～231の杯は口縁部が外反する。

232～247は陶器椀（山茶椀）類である。234～236・238・239は見込部分が著しく摩耗している。236は高台が高い。237は内面に自然釉がかかる。底部が厚いものが多いが、240は底部中央に近づくほど徐々に器壁は薄くなる。242は内面に自然釉がかかり、器壁は全体に薄い。また240・241・242は高台に粉殻痕が残る。247は口縁部の小片であるが灰釉陶器椀。244・248も灰釉陶器椀の可能性がある。244は口縁部内外面、248は外面口縁部と内面全面に釉がかかるが、使用による摩耗、風化による剥離が激しく釉は一部残るのみである。249は青磁碗、250は白磁碗である。

251～255は土師器皿。扁平で高さの低いもので、254・255は強いヨコナデにより口縁部が明瞭に外反する。256～267は製塩土器。摩滅が激しいものが多い。ユビオサエとナデの調整が施されているもののがほとんどだが、256は不明瞭ながら内面にハケ状の痕跡が、また外面には接合痕が認められる。267は器壁に粘土接合痕が明瞭に認められる。

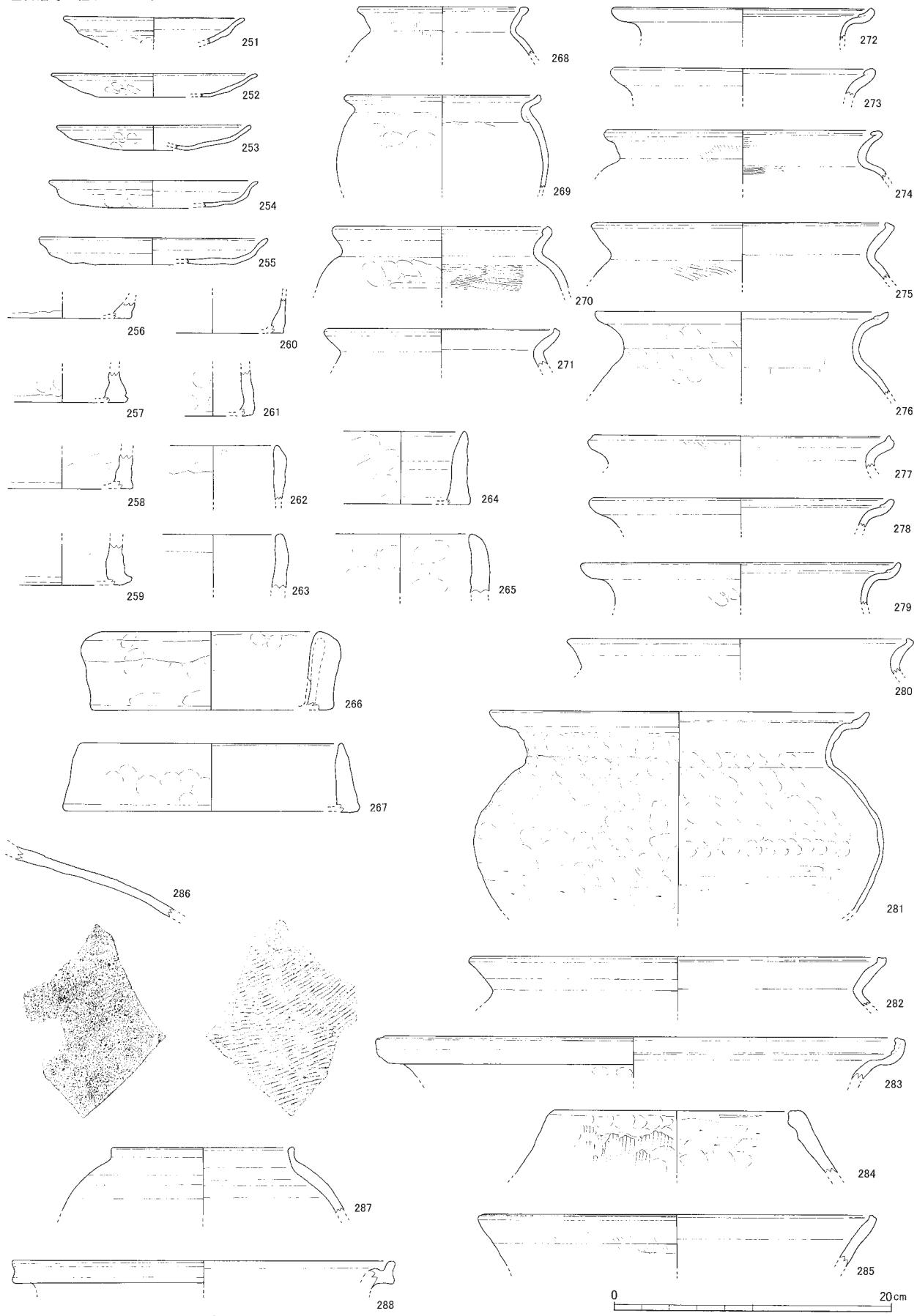
268～283は土師器甕・鍋類であるが、口縁部小片の出土がほとんどで、小型～中型のものが多い。268・269の外面にはハケメが見られる。269は粗いハケメ後さらに、ユビオサエが施されている。270は器壁が厚く、口縁部は短い。体部外面はオサエやナデで、内面はハケメで調整されている。272～283は口縁端部を内側に折り返すものがほとんどである。

包含層その他(195~250)

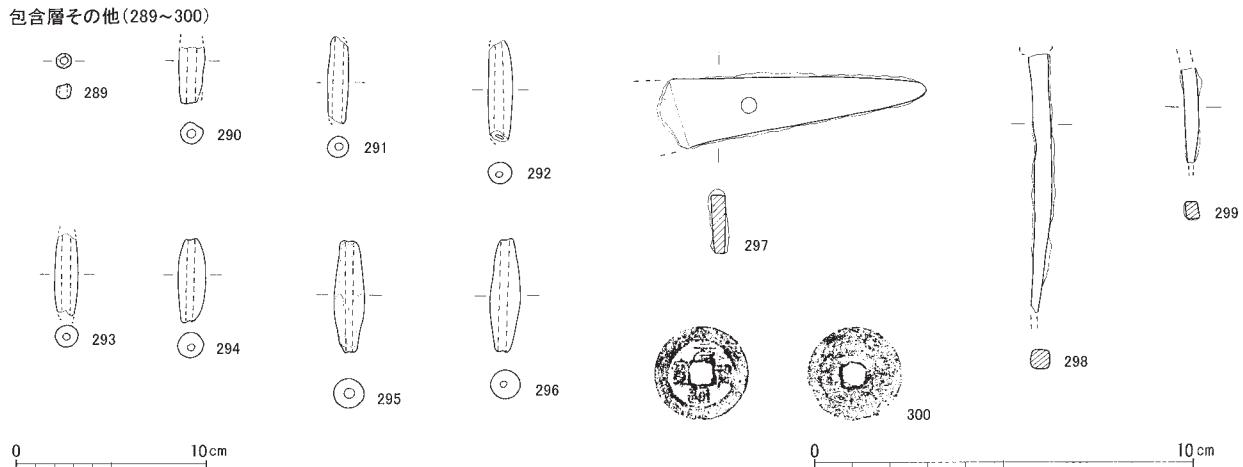


第23図 出土遺物実測図⑦ (1 : 4)

包含層その他(251~288)



第24図 出土遺物実測図⑧ (1 : 4)



第25図 出土遺物実測図⑨ (297~300は1:2, その他1:4)

274は内外面に、275は外面にハケメが施されている。276は頸部の屈曲が緩く、内面には工具痕のようなものが見られる。277は器壁が厚く、口縁部は短い。風化が著しいが、外面に粗いハケメが、内面に煤が付着している。279・281は口縁端部が上方へたち上がり、受け口状である。さらに281は頸部が長く、体部下半がケズリ調整で、体部外面全体に煤が付着している。283は頸部内面の屈曲が明瞭である。

284は土師器竈。内面に横方向のケズリが施され、工具痕も残る。外面はハケメ後もオサエが施されている。285は土師器甌か。外面体部上位に粘土の接触痕が確認される。286は須恵器甌の体部片。外面はロクロナデ後タタキが施されている。287は須恵器短頸壺。288は陶器甌口縁部小片である。ロクロナデ後施釉されている。

289は土玉、290~296は管状土錘である。297~300は鉄製品。297は刀子の茎部分。端部がやや折れ曲がっており、廃棄されたものないしは素材として再

利用のために取り置かれていたものか。目釘穴が1か所確認できる。298・299は鉄釘。300は銅錢で、ほぼ完存している。元祐通寶（1086年初鑄）である。<sup>⑥</sup>

（林 義男）

### 【注】

- ① 『斎宮跡発掘調査報告 I 内院地区の調査 本文編』  
(斎宮歴史博物館 2001年)
- ② 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」  
(『Mie history』 vol. 1 三重県歴史文化研究会 1990年)
- ③ 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994年)
- ④ 森田 勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」  
(『大宰府陶磁研究』森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会 1995年)
- ⑤ 斎宮歴史博物館・榎村寛之氏のご教示による。
- ⑥ 永井久美男編『中世の出土銭 一出土銭の調査と分類一』(兵庫埋蔵銭調査会 1994年)

## VI 縄文時代・弥生時代の遺物

### 1 遺構出土の遺物

今回の調査においては、明確に縄文時代・弥生時代の遺構とできるものが検出されなかつたため、遺構出土としての遺物はない。

### 2 遺物包含層等出土の遺物

#### (1) 縄文時代の遺物

全地区において明確な縄文時代の遺構は確認できなかつたが、包含層中や後代の土坑などから縄文土器片と微量の石器が出土した。これらの遺物はA～Cの3調査区のうち、主としてA地区とC地区から出土した。B地区でも1点ではあるが、中期後半の深鉢片が出土している。

A地区は全体に土層の搅乱が深くまで及んでいたが、包含層中や土坑中、あるいは風倒木による搅乱土中から早期末葉ころの纖維混土器を中心とした縄文土器が少量出土した。しかし、これらに混じって後期に属すると考えられる土器片もわずかながら認められる。したがつて、縄文時代の遺物包含層の大部分は相当古い時期に搅乱を受けたうえ流失し、わずかな窪地あるいは風倒木の根穴にだけ残つたものと考えられる。

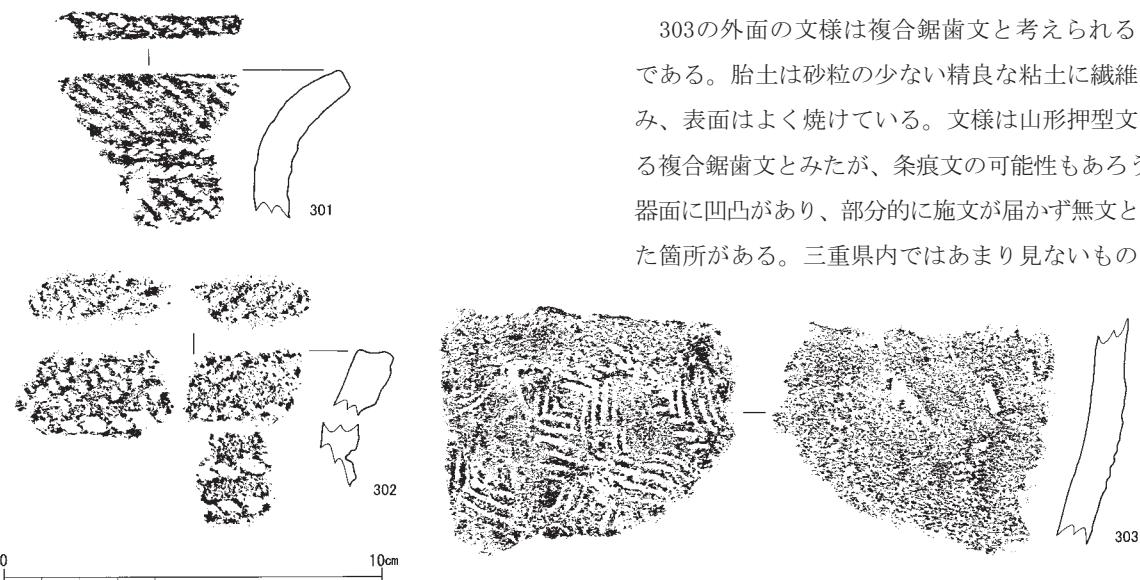
A地区に隣接するC地区ではごく狭い範囲の包含層中から集中的に中期末葉の土器片がやまとまつて出土したほか、調査区全域にわたつて早期から中期の遺物がわずかであるが出土した。

以下に縄文土器を中心にみていく。

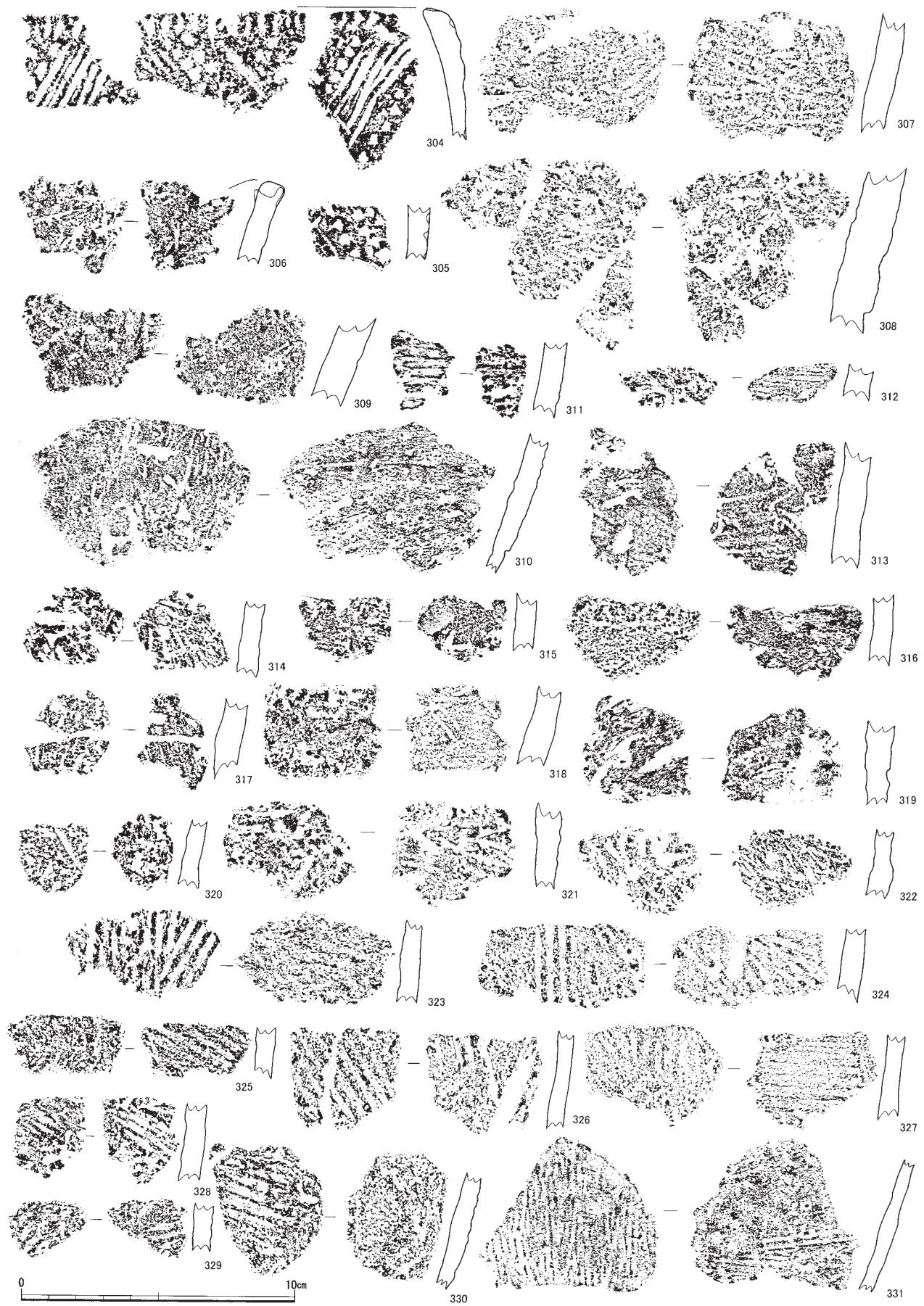
**早期の土器 (301～331)** 出土したほぼすべてを図示した。早期初頭の大鼻式が2個体4点、複合鋸歯文と考えられる押型文土器1点、刺突文と条線文を組み合わせた早期後半条痕文系土器が1個体4点、纖維混土器および内外条痕の土器片が26点ある。大鼻式はC地区南半の風倒木痕や後世の土坑から、早期後半の土器はA地区南半の風倒木痕であるSK23や25を中心とした付近から集中的に出土した。

301・302は大鼻式土器の口縁部破片。301は面をもつ口縁端部にR L縄文を回転施文し、外面にも同じ縄文が施され、頸部には二条の縄元体が横位に押圧されるものである。口縁は短く外反する。302は3片の細片に分かれて出土した同一個体で、口縁部と頸部の一部である。301に較べて口縁部が短く、直線的に斜め外方にむかつて開くようである。面を持つ端部と口縁部外面には複節の回転縄文、頸部には原体の縄による横位の押圧が残存部位からは三条確認できる。2点とも風化が進むが、焼成は良好で堅致である。

303の外面の文様は複合鋸歯文と考えられるものである。胎土は砂粒の少ない精良な粘土に纖維を含み、表面はよく焼けている。文様は山形押型文による複合鋸歯文とみたが、条痕文の可能性もあろうか。器面に凹凸があり、部分的に施文が届かず無文となつた箇所がある。三重県内ではあまり見ないものであ



第26図 出土遺物実測図⑩ (1 : 2)



第27図 出土遺物実測図⑪ (1 : 2)

る。穂谷式に並行するころのものであろうか。

304・305は同一個体。ゆるく内弯する口縁部は内傾し、端面には刻みが連続して施される。口縁部外面には3～5条で一単位をなす条痕文を挟んで細い角棒状工具による連続刺突文が二条施され、これを基本的単位として鋸歯状に口縁部外面を飾っている。胎土に砂粒と纖維を含み、焼成は不良。このような器形とモチーフの類例は県内には見当たらない。早期後半の鶴ヶ島台式から茅山下層式に近い時期のものであろうか。

306は口縁部片である。小波状というか小さな突起状となった部分の端部には指頭の押圧による楕円状の窪みが3カ所残る。内外面とも無文でナデ調整、胎土に纖維を含む。東海条痕文系の粕畠式の新しい段階から上ノ山式のころのものか。

307～331は早期条痕文系土器の体部片である。厚手のもの（307～309）と、それよりはやや薄いもの（310～330）とがある。纖維を多く含むものには内外面とも条痕が残るものは少なく、含まれる纖維が少ないものには条痕が目立つものが多い。

331は最も器壁の薄いもので、内外面に条痕が残る。胎土に細粒の砂と金雲母を多く含み、焼成は堅致である。時期がやや下るものかもしれない。

**中期の土器（332～410）** C地区の北端部F42～43区付近でまとまって出土したもので、発掘区より南側にその中心が広がる気配であった。すぐ近辺に一時的な居住の場所が存在したものと思われる。全体の出土量が少なく、型式組成の全体像がわかるところまではいかないが、後期初頭を含まない中期末葉の良好な一群である。

332～334は深鉢口縁部の主文様部に渦文を描くものである。332はB地区で唯一出土した縄文土器であるが、渦文は幅広の沈線と比較的しっかりした隆帶で表出されており、やや古相を呈するものか。器表面の摩滅が著しく、縄文等は確認できない。他の2点は沈線も細く隆帶表出もない。333は器表面が摩滅しているため不詳であるが、沈線施文後に器表への縄文等施文による粘土のはみ出しがみられるところから、渦文部には縄文が施文されたものと思われる。334には渦文部に縄文が見られる。

335～349は、口縁部に沈線による横長の楕円形区

画をつくり、内部には斜沈線や刺突文を施すものである。当遺跡出土土器中、この横長の楕円形区画文を隆帶が取り囲むものでは、痕跡的なもの（342～345・347～349）が多い。また、口縁部を縁帶状に段状肥厚させ、横長楕円形区画文の部分をやや深く施文するために、結果として隆帶区画に似る効果を得ているもの（335～338）もある。さらに口縁部文様帶が狭まり、頸部あるいは体部への屈曲部を厚くすることにより口縁部とそれ以下を分けているもの（344・345・351）もある。

340は区画内にく字状の沈線が施される唯一のもの。他は、335～337・339・347に斜沈線列が、342～346・348・349には平行斜沈線よりも退化傾向を示す刺突文列が見える。

346は口縁部の主文様部と思われ、細い円棒状工具による刺突文を施した円文もしくは渦文となるようである。349の口縁部小片は同一個体か。

341は口縁部付近の破片であるが、曲線的な隆帶というより突起が平行斜沈線部を取り巻くように配される。しかし、この破片からは上下左右とも位置関係の判定に苦しむ資料である。どのようなモチーフを描くのかわからない。

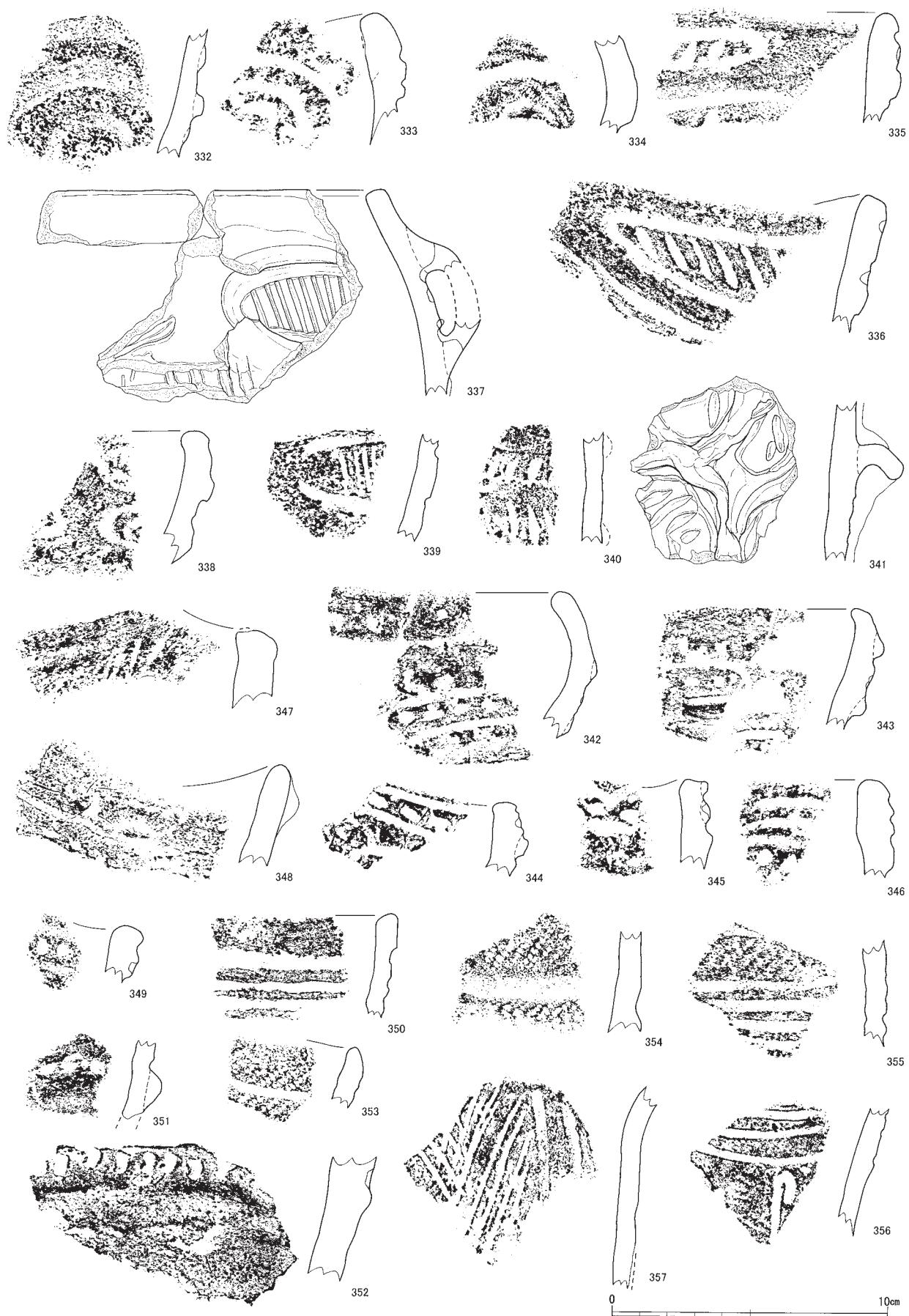
351・352は口縁部付近の区画内に棒状工具による押し引きを施したもの。

350は口縁部に沿って四本の平行沈線が横走するものの。353は口縁に沿って細い沈線を横走させ、縄文LRを施文するものである。口縁端部は丸くおさめる。この土器は沈線も細く他のものとはやや異質な感じを受け、後期に下る可能性も考えられるが、磨消縄文ではない点から一応中期とした。

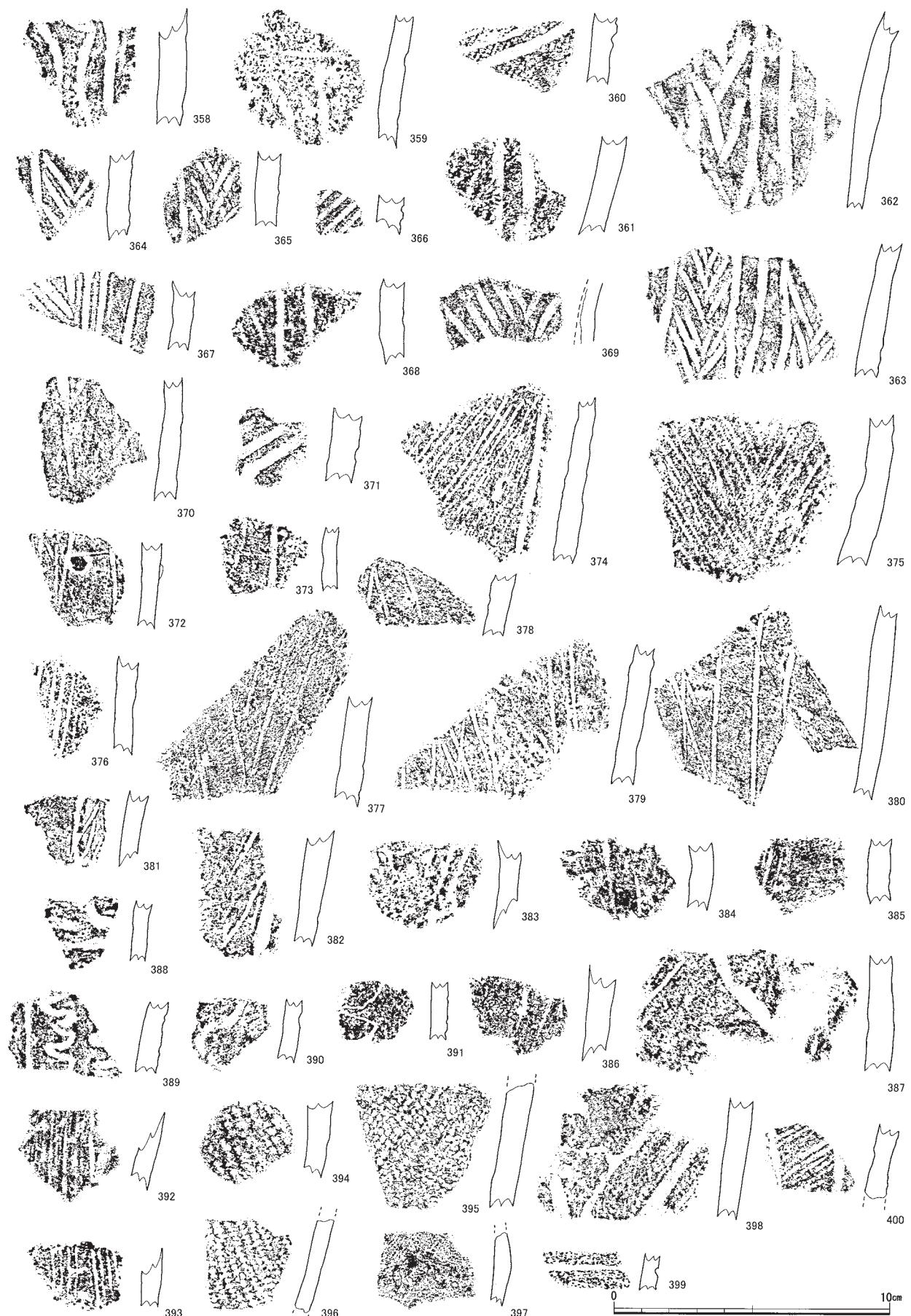
354以下は口縁部下部から頸部、体部片、その他を集めた。

354・355は口縁部に近い部位。354は幅広の浅い沈線をはさんで縄文LRが残る。下部は隆帶状に厚くなってしまい、沈線がやや曲線を描くようなので、楕円形区画文になるのかもしれない。

355は横長の楕円形区画内に縄文LRが充填施文され、その下に3本の平行沈線が見えるものである。器表面の摩滅のためこの平行沈線部にも縄文が施文されているかどうかはわからない。なお、この平行沈線は356にも見られるような、口縁部文様帶と体



第28図 出土遺物実測図⑫ (1 : 2)



第29図 出土遺物実測図⑬ (1 : 2)

部文様を分ける多条沈線であろう。同様の沈線は360にも認められる。

356・358・359は頸部下部（体部上半部）に蕨状沈線文が認められるもの。359は摩滅がひどく器表面の観察が難しいが、356には縦位施文の縄文（LR）が見られる。358は沈線のみのようである。なお、垂下沈線と縄文の縦位施文は361にもみられる。

357・362～387は垂下する平行沈線と矢羽状沈線が施されるもの。このうち、357・362～373がやや太い沈線、374～387はやや細い沈線により描かれるものである。ほとんどがヘラや細い丸棒状の工具によるとみられるが、374・376は櫛状工具によると思われる。いずれも書き方は粗雑で、381などから無文部が体部全体の中で相当広い割合を占めると考えられるような個体もある。

388～391は矢羽状沈線に代えて蛇行沈線文が施されるものである。392・393は条線文が施されるもの。394～397は縄文が施されるもの。397の縄文は非常に細い縄文LRが見える。

398は平行沈線帶が見えるが、器表面摩滅のため縄文の有無は不明。400は沈線文帶の中に櫛状工具による条線文が充填される。いずれも後期的な資料である。399は細い沈線が見えるが詳細不明。

401～403は無文の粗製土器の口縁部片。404の内面には巻貝による条痕が残る。

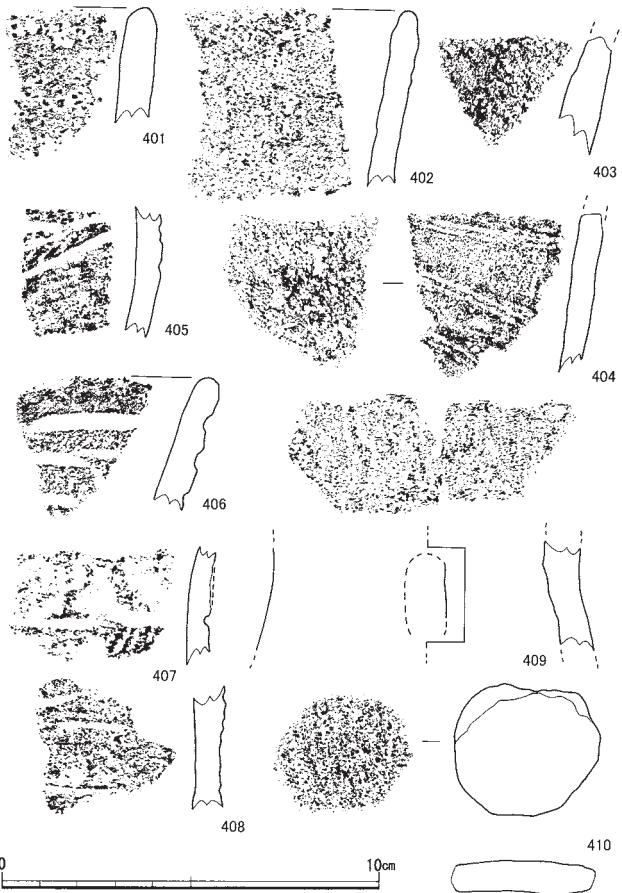
405～407は後期に属すると思われる資料である。405は幅狭の沈線帶間に細かな縄文を施す。沈線帶が途中から分岐するもので、後期前葉以降のものであろう。406には三本の平行沈線が見え、途中で一部が途切れてカギ状になるような部分である。口縁部のように見えるが、擬口縁のようでもある。407は器表面の剥離が著しいが、横走する沈線と細かな縄文LRが残る。408は文様不明。409は脚台の付く深鉢の小破片で、脚部に設けられた長楕円形の円孔部がわずかに残存する中期末葉のものである。410は無文土器の体部片を利用した加工円盤未成品と思われる。全周の三分の二ほどは研磨が未完のままである。

以上110点の土器を概観した。ここでは中期末葉の土器について改めて整理しておく。

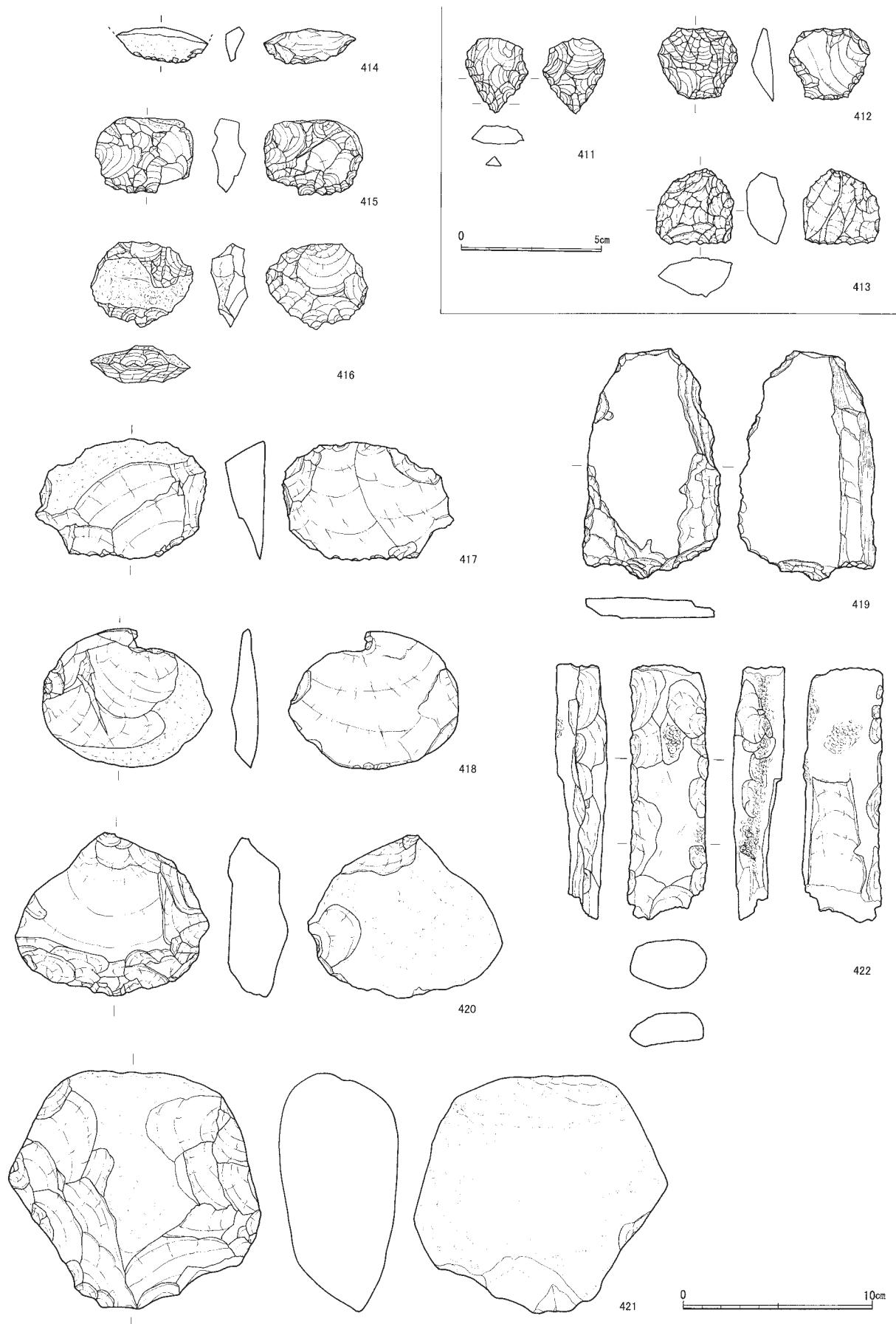
この一群は加曾利E式の系譜につながる在地色の

強い土器群で、末葉でも新しい時期に位置づけられるだろう。主体をなす深鉢は、水平もしくは波状口縁で口縁下に渦文と楕円形区画文が施されるものと、水平口縁で口縁からやや下がったところに楕円形区画文を横位に配し、繋ぎに橋状把手がつくものの2類に分けられる。その特徴は、有文深鉢では沈線文を主体とし、口縁部に渦文もしくは渦文が退化した円文を置き、その両側に楕円形区画文を配する口縁部文様帯を形成している。楕円形区画内部にく字状あるいはハ字状沈線が施されるものはほとんどなく、短沈線や連続刺突文が充填される後出的なものが多い。頸部には多重の弧状沈線、体部に縦位の羽状沈線文や蛇行沈線、蕨状沈線を配するというもので、概して縄文の使用は低調である。

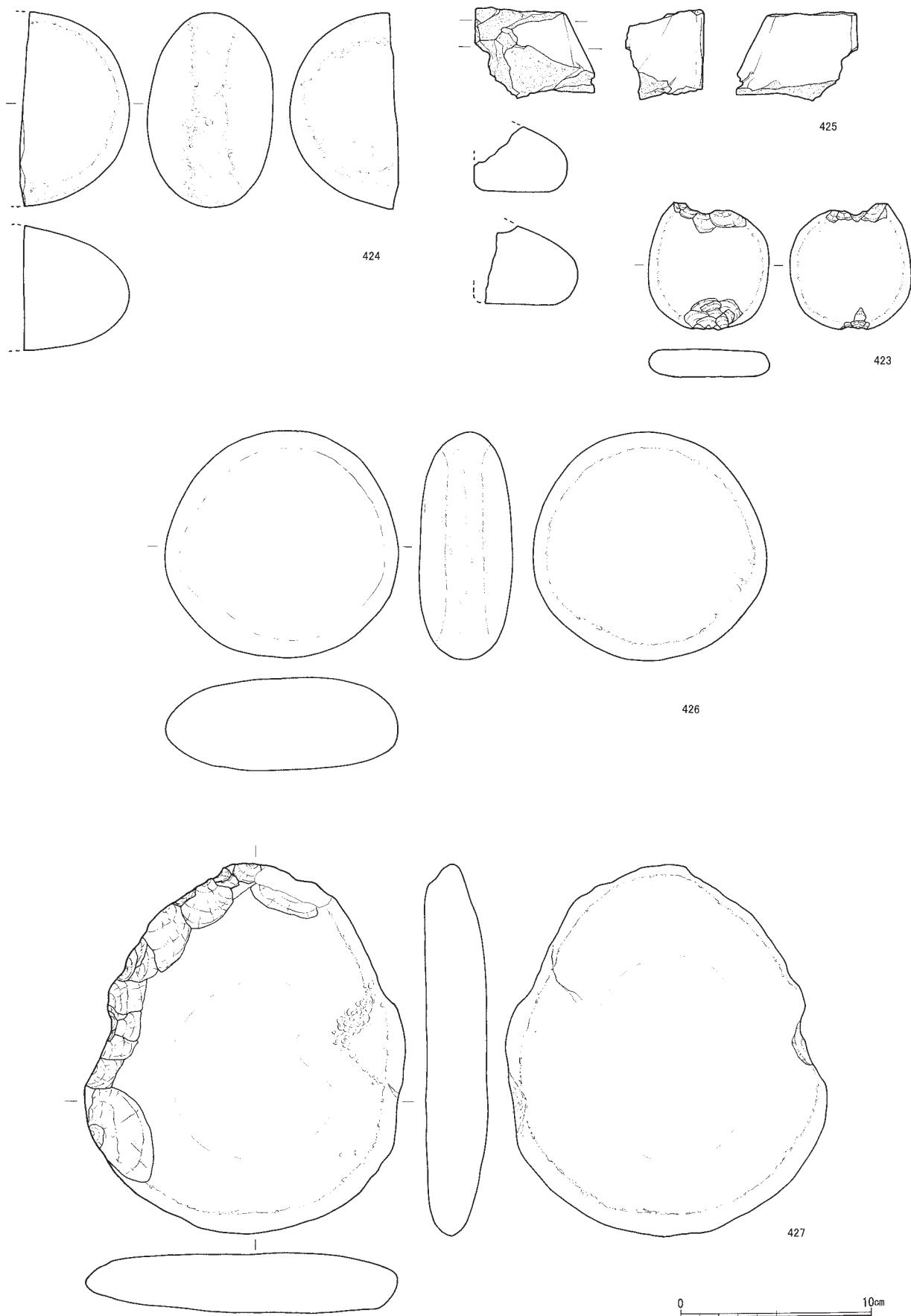
口縁部文様で型式的に古いものでは楕円形区画はしばしば隆帯で沈線に沿って周囲を区画し、その延長が渦文へ繋がり一体の文様をなすが、当遺跡出土土器には一体化するものはないと思われ、渦文もし



第30図 出土遺物実測図⑭ (1 : 2)



第31図 出土遺物実測図⑯ (411~413は1:2, その他1:3)



第32図 出土遺物実測図⑯ (1 : 3)

くは円文と楕円形区画に分離しているものが多いと考えられる。また明確な隆帯で区画するものはほとんどなく、痕跡的なものがわずかに見られる程度である。むしろ、口縁部を縁帶状に段状肥厚させることにより沈線区画を立体的に見せようとしている例が多い。頸部には多重の弧状沈線が施されるものもあるが数的には少なく簡略化される。体部文様として垂下沈線による平行線や逆U字状文、蕨手文、蛇行沈線が引かれ、沈線間に羽状沈線を施すものが多い。この中には帶状に縄文を縦位施文するものもわずかながらある。また、文様施文部が少なくなり無文部が広いもの、全く無文のものもある。

さらに羽状沈線文についても、太くて整然とした施文のものは少なく、細いものが多い。櫛状具やヘラ状具によるものは細くて粗雑な施文のものが多い傾向がうかがえる。このように、当遺跡出土の中中期末葉の土器には型式学的にみて簡略化・粗雑化の傾向が著しいといえよう。

なお、当遺跡出土土器には北白川C式系の富士山形をした山形の口縁を有する器種がみられないことを指摘できるが、全体の出土量が少ないためでもあろうか。明和町池村の斎宮池遺跡出土の一群に類似する土器群である。

**石器（411～427）** 出土した石器類には石錐・楔形石器・使用痕有薄片・打製石斧・礫器・石刀未成品・打欠石錐・磨石・石皿・剥片がある。いずれも遺物包含層や後代の遺構中から出土したものや表面採集によるものである。詳細は観察表を参照されたい。

411はチャート製の石錐、412・413は楔形石器である。412はチャート製、413の石材は流紋岩。いずれも上下二方向に潰れが残る。

414は使用痕有剥片。砂岩の剥片の鋭い端部を利用したもので、刃こぼれが認められる。

415は連続的な刃部を形成しないが、粗雑な削器と判断した。チャート製で、板状に剥離した鋭利な端部を刃とし粗雑な二次調整を加えている。415は

嶺の部分に礫皮面を残す。416はチャート製の石核である。

417は細粒砂岩の、418は砂岩の円礫から剥離された剥片を使用した粗製剥片石器および剥片である。

419は緑色片岩の板状石を加工した打製石斧と考えられる。

420は泥岩、421は砂岩製の礫器。いずれも片面調整で、421は円礫の片面周囲三分の一強を大きく剥離したのち、やや細かな調整を加えている。

422は石剣もしくは石刀の未成品の一部と考えられるものである。棒状の緑泥片岩を粗く剥離加工して形を整えたのち、敲打を加えて成形する段階のもので、剥離面とともに一部敲打痕もみることができる。受熱し色調はにぶく赤みがかっている。

423は打欠石錐。長円形の扁平な安山岩の上下端に打ち欠きが明瞭に残る。

424・425はともに砂岩製の磨石。424は半欠、425は小さな破片であるが、礫面には明瞭な磨痕が認められる。426は表裏面ともによく使い込んで平滑になった磨石。側面も研磨痕が少し残る。

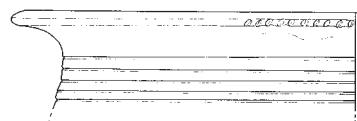
427は無縁石皿。扁平な面の中央部を中心に明瞭な研磨痕が残る。表面全周のおよそ半分ほどに剥離痕が残る。

以上のほか、十数点のチャート剥片、2点の砂岩剥片、2点のサヌカイト剥片が出土している。

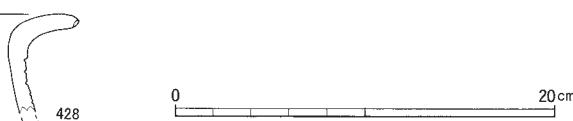
## (2) 弥生時代の遺物

1点のみである。SK35の集石内部から出土しているが、ほかに中世以降の陶器や磁器片とともに混入品として出土したものであり遺構に伴うものではない。

第33図428は推定口径35cmの甕口縁部片である。口縁部内面が水平に近い状態まで強く外反する。端部にはヘラ刻みが連続して施される。頸部の括れ部から体部にかけてゆるやかに張り出し、頸部に5条の平行沈線が残る。弥生時代前期末葉ないしは中期初頭に位置付けられるものであろう。（田村陽一）



第33図 出土遺物実測図⑰（1：4）



## VII 結語

今回の発掘調査によって明らかになったこと、また推測できることを整理し、以下の4点に分けて記述する。

### 1 万所遺跡の変遷について

縄文時代の遺構は確認できなかつたが、遺物は観察表に掲載したとおり、A・C地区で縄文土器や石器類が相当数出土した。特に縄文土器は、早期、中期、後期の各時期のものが出土した。安定的に居住してはいなかつたものと思われるが、弥生時代以降の遺跡と考えられていた当遺跡で、縄文時代を通じて人間が活動した痕跡を確認することができた。

今回の調査では弥生時代の遺構は確認できず、遺物も甕1点のみの出土であった。調査区は万所遺跡の一部であり断定はできないが、活動の痕跡は希薄であった。やはり弥生時代の生活は対岸の汁谷川左岸の段丘上の集落群が中心であったと思われる。また古墳時代の遺構も溝1条の検出にとどまり、遺物も他の遺構への混入品を含め4点のみであった。奈良時代の遺構・遺物は確認できなかつた。これらの時期にも活動の痕跡は希薄であったとみられる。

当遺跡における活動は、平安時代から室町時代を中心であるとみられ、さらにその時期の中で大きくみて三段階の変遷が考えられる。(第34図)

平安時代中期頃の遺構として、SB1、SB2、SB3の掘立柱建物3棟を検出した。B地区のSB1・SB2は主軸方向を直交させるようにL字型に配置されており同時期の建物と考えられる。C地区的SB3は出土遺物からみてSB1・2からやや遅れて建てられたと考えられ、第二段階に所属する可能性もある。いずれにしてもこの時期にB地区からC地区にかけて小規模な集落が存在したことが推定できる。

次に平安時代後期(斎宮編年の平安末を含む)から鎌倉時代の主な遺構としてA地区に掘立柱建物1棟、溝1条、C地区に墓6基、柱列2条を検出した。SD69はA地区的北東部を北西から南東方向にのびて調査区外へ続くしっかりした溝で、何らかの区画

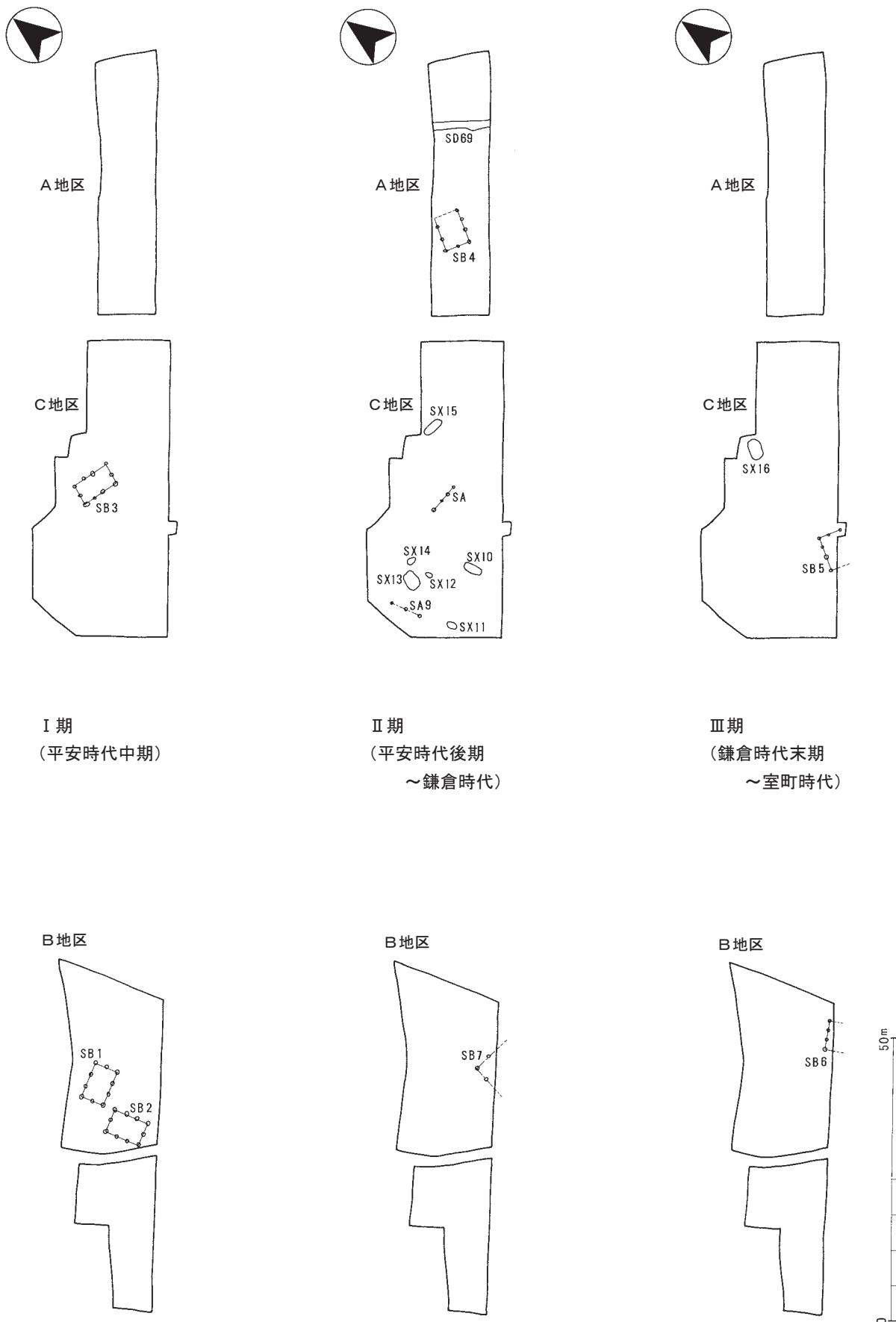
溝であった可能性もある。C地区には6基の墓が集中しており、この時期C地区は南西部を中心に墓域となっていたと考えられる。B地区のSB7は建物の軸方向からみて、第一段階・第三段階のいずれの時期の建物とも異なっているため、この第二段階の建物の可能性もあるが、出土遺物がなくはつきりしたことはわからない。ただB地区には遺物を伴うこの時期の遺構は検出されず、主な集落域ではなくなっている。B地区が洪水や土石流の被害を受けたかあるいは受けやすい環境にあった可能性がある。調査時にB地区の南壁土層において、平安中期の掘立柱建物を検出した面の上に土石流の可能性のある層を確認している。こぶし大のやや角張った礫混じりの層で、宮川から流れ込んだものというより山側から流れ込んだ土砂のような層である。いずれにしても当時洪水や土石流被害の可能性のより少ない場所を求めてA地区もしくは調査区よりさらに内陸側に集落域を移した可能性がある。

鎌倉時代末から室町時代の遺構としては、B地区とC地区にそれぞれ掘立柱建物1棟、C地区中央部北寄りに墓1基がある。検出した建物は大部分がともに調査区外の東側に向けてのびている。集落域はやはり今回調査した宮川寄りの部分から東側の方向(現県道伊勢南島線寄り)にのびていき徐々に河岸から離れていった可能性がある。 (林 義男)

### 2 縄文時代の遺構・遺物について

今回の調査では縄文時代の明確な遺構は確認できなかつた。多くの遺物は歴史時代の遺物包含層中に混在したり、風倒木痕中の黒色土中から出土するなどしたものである。土層の観察からは縄文早期の遺物包含層は、河川の氾濫などにより古くに流出していると考えられる。今回出土した大鼻式や条痕文系の土器は、わずかなくぼみや風倒木痕中に残されたものである。

一方、中期末葉の遺物はC地区F42~43グリッド周辺の比較的狭い範囲に集中してまとまって出土しており、今回の発掘区のすぐ東南側に1ないし2棟



第34図 万所遺跡遺構変遷図 (1 : 1,000)

の住居からなる小規模な集落の存在を想起させる。精査したにもかかわらず、石器や剥片も極めて乏しく、短期間の居住であったことを示しているものと思われる。

さて、今回の調査で最古の押型文土器として早期初頭に位置づけられる大鼻式土器が2個体4片出土した。当遺跡を含めて三重県内での大鼻式土器出土遺跡は13遺跡を数える。<sup>①</sup>宮川中～下流域では石川遺跡<sup>②</sup>（伊勢市小俣町新村）、栢垣外遺跡<sup>③</sup>（度会町麻加江）、登り遺跡<sup>④</sup>（度会町火打石）と万所遺跡で4遺跡がある。右岸側では最下流の遺跡となるが、旧石器時代的な景観が色濃く残る当時の宮川下流域において、人々の生活領域がどの程度の広がりを有するものであったかということは、今後の研究を待たねばならないが、少なくとも移動生活ルートの一端がこの地にあったことは間違いない。以降早期には断続的な居住があったことを、少量の条痕文系土器の出土が物語る。これら早期後半条痕文系土器の位置づけについては、いまだ県内でまとまった量の土器を出土する遺跡がほとんどなく、実体はよくわかつていない。今回の出土土器についても全部で40片ほどあるものの、口縁部片はわずかに1点であり、個々の型式認定は難しい。本遺跡から約4.5km上流左岸の段丘面に営まれた度会町上ノ垣外遺跡では、当該期の土器が多量に出土しており、当遺跡との関連が注目される。

中期末葉の土器については遺物の項で詳しく扱つたが、斎宮池遺跡出土土器に類似するものである。良好な一括資料が乏しい伊勢湾西岸地域においては、いまだ当該時期の土器編年が整備できていない状況が続いているが、斎宮池遺跡の資料とともに、伊勢湾西岸南部地域の基準資料として重要である。今後のさらなる資料の蓄積に期待したい。

（田村陽一）

### 3 中世墓S X12と青磁碗

ここでは青磁碗を副葬するS X12について見ていく。S X12は長軸1.20m、短軸0.74mの小規模な橢円形の土壙墓である。隅丸長方形のS X11やS X13で出土したような鉄釘は検出されなかった。万所遺跡と同じ伊勢市内では佐八藤波遺跡、中新田遺跡な

どでも、穴を掘っただけで埋葬された土壙墓と考えられるものが、建物跡の近くでいくつか検出されている。なかには、輸入陶磁器（青磁・白磁）や鏡・小刀などを副葬したものがある。またこの時期の墓地は、集落から離れた位置に作るのではなく、宅地内あるいは近傍に設定したと考えられ、これらは万所遺跡においても言えることである。

S X12出土の青磁碗は、龍泉窯系青磁である。高台疊付およびその内面は露胎である。釉の発色は青味を帯びた深めの緑色を主体とし、底部の器壁は厚い。文様は、2本の沈線によって体部内面を5分割し、その中に飛雲文を片彫りしたものである。同タイプのものが津市一志町の井ノ尻・浦ノ戸遺跡<sup>⑤</sup>で出土している。ともに森田勉氏分類のI-4類で、口縁部に輪花のない万所遺跡の青磁はI-4・a、輪花のある井ノ尻・浦ノ戸遺跡のものはI-4・bに分類されている。

このタイプの青磁碗は、日本の各地から出土している。下関市秋根遺跡ではI-4・a類が、京都市西芳寺境内ではI-4・b類が出土している。<sup>⑥</sup>それぞれのサイズは第2表のとおりである。いずれもよく似たサイズのものであり、龍泉窯系の窯で大量に生産されたものであろうと思われる。

12世紀後半の頃、平氏政権の積極的な施策により中国の宋の貿易船が瀬戸内海を通って摂津の大輪田泊まで入るようになったが、万所遺跡の青磁碗はどんなルートを通じてもたらされたのかは不明である。ただ、宋（南宋）で焼かれた磁器は第2表の青磁碗をはじめ、多量に日本各地へ流通している。輸入陶磁器を墓に供献する風習が広がるのは12世紀後半頃からであるが、一般的に、中世墓に輸入陶磁器を副葬する例は決して多いとはいえない。

三重県内でも中世墓からこのような輸入陶磁器を

遺跡名	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)
万所遺跡	6.7	16.1	6.5
井ノ尻・浦ノ戸遺跡	6.8	15.8	5.8
下関市秋根遺跡	6.9	16.2	6.0
京都市西芳寺境内	6.8	16.1	6.1

第2表 森田勉氏分類I-4類相当出土青磁サイズ

副葬しさらにそれが完形で残っている例は10例余りであろう。またその中で今回の万所遺跡のS X12と同様に青磁碗・山茶碗（山皿）をセットにして副葬したと思われる例は、四日市市伊坂町の菟上遺跡と松阪市嬉野平生町の平生遺跡に見られる。ただし、菟上遺跡の場合は範囲確認調査においてNo.5 トレンチの西端から、龍泉窯系青磁碗1点と陶器小皿（山皿）3点が出土したものであり、中世墓として検出された遺構からの出土ではない。ただ出土場所の周囲には石列もあり、中世墓が存在したことを想起させるものである。次に平生遺跡のS X15は、規模が0.6×2.1m、深さ20～37cmで平面形が長方形を呈するものである。小片だが土師器、山茶碗が出土しており、この付近の包含層よりやはり龍泉窯系と考えられる青磁碗2点が出土している。両青磁碗の遺存状態は良好で、S X15の副葬品であった可能性は十分ある。

そのほか、三重県内で完形の輸入陶磁器を含む豪華な副葬品をもつ中世墓は、桑名市多度町の宮地中世墓群③号墓（青磁碗2、青磁小皿4）、津市雲出島貫町の雲出島貫遺跡S X329（青磁碗2、白磁碗1、白磁小皿4、腰刀1、漆塗り小箱1、方形鏡1）、津市一志町の井ノ尻・浦ノ戸遺跡土壙墓1（青磁碗3、青磁小皿4）などがある。宮地中世墓群では多度大社の非常に有力な神官クラスが、また雲出島貫遺跡では渡河地点を押さえた居館に住むかなりの有力者が被葬者として想定されている。井ノ尻・浦ノ戸遺跡に葬られた人物にも、伊勢平野から山間に入る要所に居館を構えた、鎌倉時代の在地有力者が考えられている。このような類例からすると、万所遺跡に葬られた人物は、副葬品の内容からみて上記の3者ほど高位の人物ではないにしても、少なくともこの地域において一般民衆より階層の高い人物であったことは確かであろう。

#### 4 万所遺跡の位置づけについて

今回の調査の結果、万所遺跡の性格をどうとらえればよいであろうか。

出土遺物の多い平安中期から鎌倉時代にかけての建物としては、掘立柱建物が4棟検出されている。いずれも3間×2間の側柱建物で、桁行6.3～6.4m、梁行3.7～4.2mと、特に規模の大きなものとは言え

ない。ただし特に注目すべきは、この集落では、副葬品を伴う墓を屋敷近くに作っており、完形の青磁碗が副葬されるような人物が居住していたということである。前述したように万所周辺においては当時一定の実力をもった人物であったであろう。万所遺跡からはS X12の青磁碗の他に、S X13に副葬された可能性のある青磁の破片が2点、そのほか図化できなかった青磁の破片が包含層などから10点ほど出土している。また白磁片や灰釉陶器類が数点、緑釉陶器片も1点出土している。こうした高級品ともいえる陶磁器類を一定量保有していたことは注意しておくべきであろう。

また万所遺跡では、C地区を中心に製塩土器が、図化できた16点のほか細片を含めると30点ほど出土している。今回の調査においては、この万所遺跡が特別な役割を担った施設や集落であったとする確かな証拠はない。ただし、製塩土器の出土が比較的目立つことが気にかかる。万所遺跡にも当時、ある程度の量の塩を手に入れることができた人物がいたことは確かである。万所遺跡より東方3.5kmの位置にある伊勢市倭町の隱岡遺跡<sup>⑤</sup>は、大規模な掘立柱建物が計画的に建てられ、10～11世紀の神宮補宜の居宅との関わりが考えられており、出土遺物には灰釉陶器や大量の緑釉陶器、そして40個体ほどに相当する志摩式製塩土器が出土している。S X12に埋葬された人物は、隠岡に居を構えて神宮に直接深く関わったような高位の人物ではないにしても、神宮や斎宮にも献納される志摩地方の塩の流通ネットワークの末端に関わりを持つことができた人物であり、在地の有力な人物であったことは指摘できるのではないかと思われる。現時点で報告できることは以上のようなことであるが、今後万所遺跡の周辺地域の調査がさらに進んでいけばより詳細な情報が得られるかもしれない。またさらに踏み込んだ被葬者像や集落の性格については歴史学や文献史学からの考察も含めて今後の検討に委ねたい。

今回の調査は宮川の築堤に伴って実施されたことから、調査区は万所遺跡の宮川よりの縁辺部にあたり、遺跡の全容を明らかにすることはできなかった。しかし縄文時代1万数千年の各時期を通じて人々が活動していた場所であったことがわかったことは大

きな成果であった。また万所遺跡の古代から中世の集落の一部についてその様相を垣間見ることができ、いくらかの資料を得ることができた。今後、この発掘調査によって得られた資料がさらに有効に活用されること、本報告が万所遺跡やその周辺の遺跡の理解のための一助となることを願って、まとめに代えたい。

(林 義男)

### 【註】

- ① 奥 義次ほか「三重県の押型文土器集成」(『押型文土器期の諸相』関西縄文文化研究会 2011年)
- ② 岡田 登「106 石川遺跡」(『三重県史資料編考古1』三重県 2005年)
- ③ 岡田 登「麻加江栢垣外遺跡とその遺物」(『歩跡』第3号 皇學館大学考古学研究会 1976年)  
岡田 登「110 栢垣外遺跡」(『三重県史資料編考古1』三重県 2005年)
- ④ 奥 義次「三重県登り遺跡採集の縄文早期遺物について」(『研究紀要』第16-1号 三重県埋蔵文化財センター 2007年)
- ⑤ 御村清治『上ノ垣外遺跡発掘調査概報』(度会町遺跡調査会 1991年)
- ⑥ 『長谷町遺跡・斎宮池遺跡・真木谷遺跡・与五郎谷遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 2010年)
- ⑦ 『伊勢市史 考古編』(伊勢市 2011年)
- ⑧ 『井ノ尻・浦ノ戸遺跡』(一志町教育委員会 2003年)
- ⑨ 森田 勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」  
(『大宰府陶磁器研究』森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会 1995年)
- ⑩ 『日本出土の中国陶磁器』(東京国立博物館 1978年)
- ⑪ 「VII 菅上遺跡範囲確認調査出土・地表面採集遺物」  
(『西ヶ広遺跡(第3・4次)発掘調査報告』 2008年)
- ⑫ 『平生遺跡発掘調査報告』(平生遺跡発掘調査団 1976年)
- ⑬ 『宮地中世墓群発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 1997年)
- ⑭ 『嶋抜II』(三重県埋蔵文化財センター 2000年)
- ⑮ 前掲註⑧
- ⑯ 『隱岡遺跡発掘調査報告』(伊勢市教育委員会 1987年)  
『伊勢市史 考古編』(伊勢市 2011年)

## 附章 その他調査遺跡

### ① 小田古遺跡

小田古遺跡は伊勢市佐八町字小田古に所在する。宮川に面する河岸段丘縁辺部に位置し、標高は13mほどである。遺跡の立地する段丘には大倉町の集落が立地しており、周囲の段丘面でも最も高所の場所となっている。付近の畑地には土師器や須恵器・陶器類が微量散布しており、古代から中世の遺跡と考えられている。

2007年5月24日に第1次調査を実施した。調査地は段丘崖の直近で、調査時には畑地に隣接する雑木林となっていた。

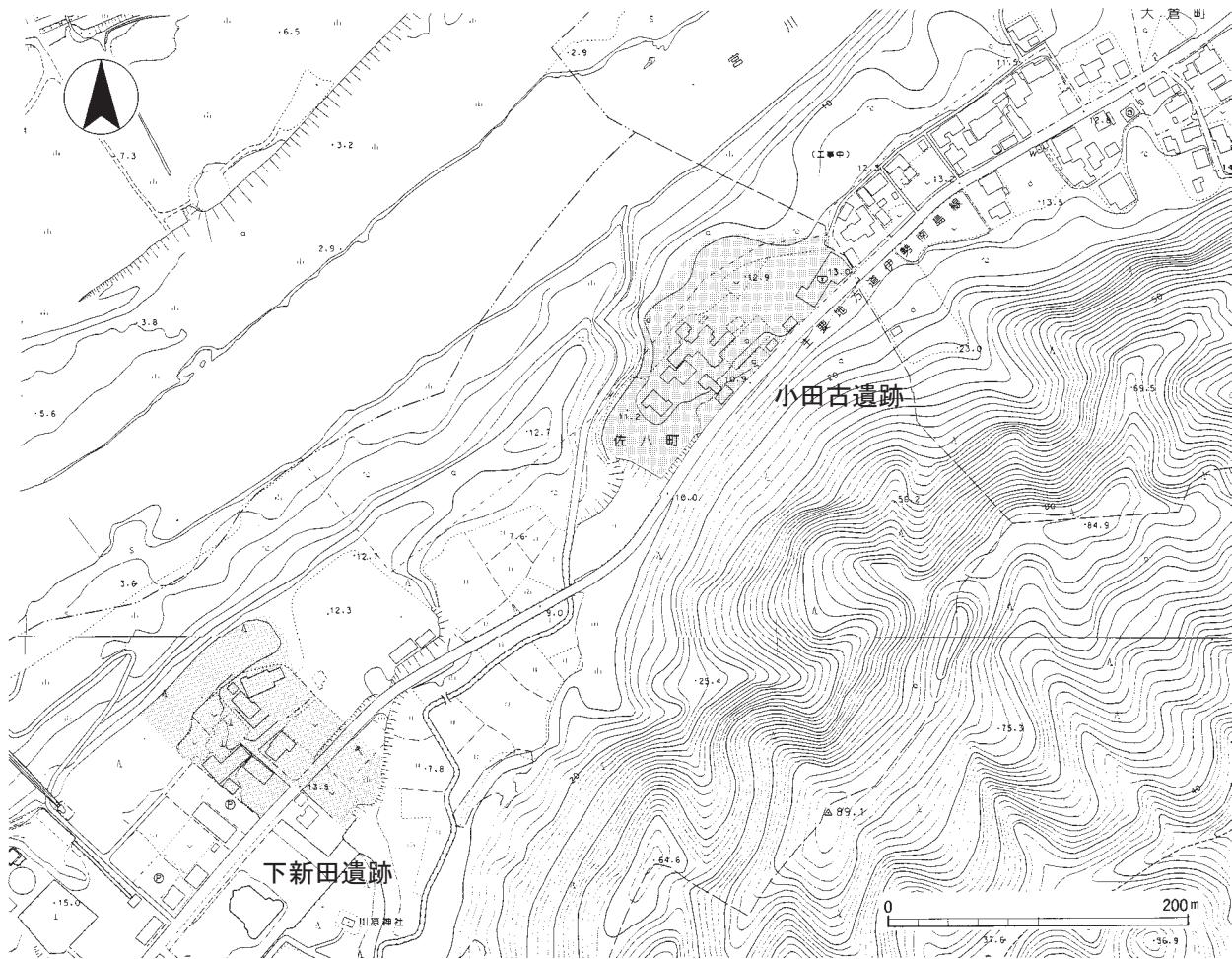
2箇所の調査坑およびトレーニング（合計30m<sup>2</sup>）を設定したが、表土直下に段丘堆積物の礫層が現れ、いずれの調査坑からも遺構・遺物は確認できなかった。よって、小田古遺跡は今回の調査地までは広がらないことが判明し、本調査には至らなかった。

### ② 下新田遺跡

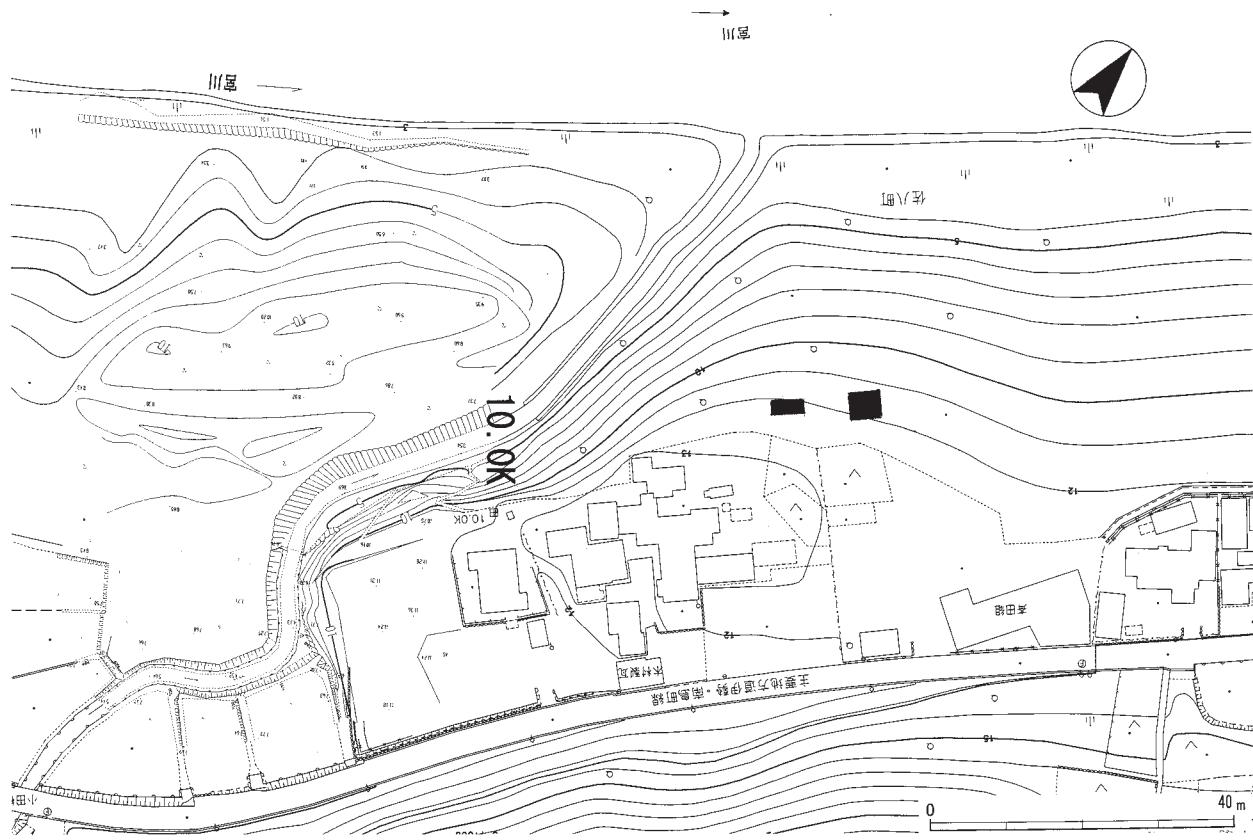
下新田遺跡は伊勢市佐八町字下新田に所在する。宮川に合流する支流の合流点に面する河岸段丘縁辺部末端の緩傾斜地に位置し、標高は13～13.5mほどである。県道伊勢・南島線の南側の畑地には土師器や陶器片が散布しており、古代もしくは中世以降の遺跡と考えられている。

2007年5月15日に第1次調査を実施。調査地は宮川に面する緩斜面地で、調査時には荒廃した竹林となっていた。

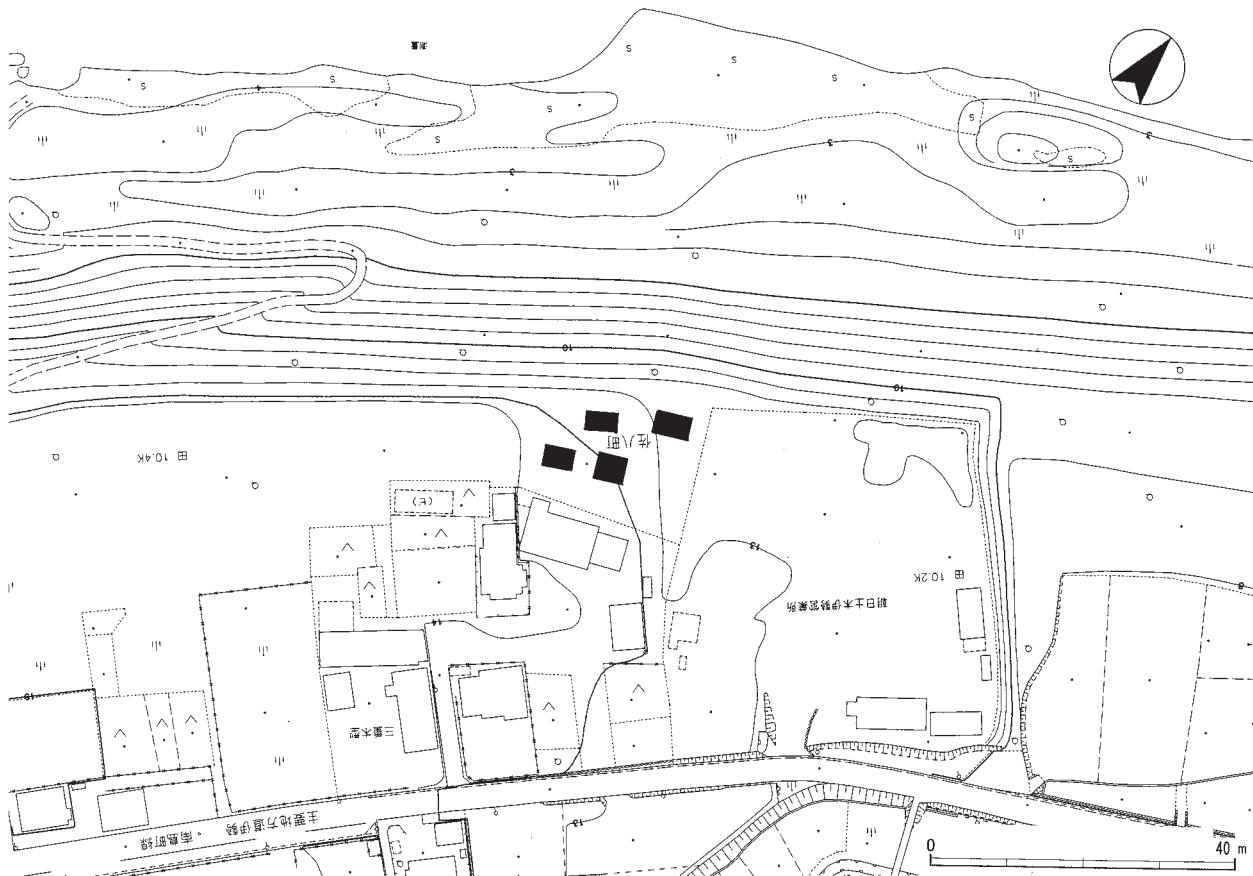
4箇所の調査坑を設定して調査したが、いずれの調査坑からも遺構・遺物は確認できなかった。よって、下新田遺跡は今回の調査地までは広がらないことが判明し、本調査には至らなかった。（田村陽一）



第35図 第1次調査遺跡地形図 (1 : 5,000)



第36図 小田古遺跡調査坑位置図 (1 : 1,000)



第37図 下新田遺跡調査坑位置図 (1 : 1,000)

### ③ 松井孫右衛門人柱堤

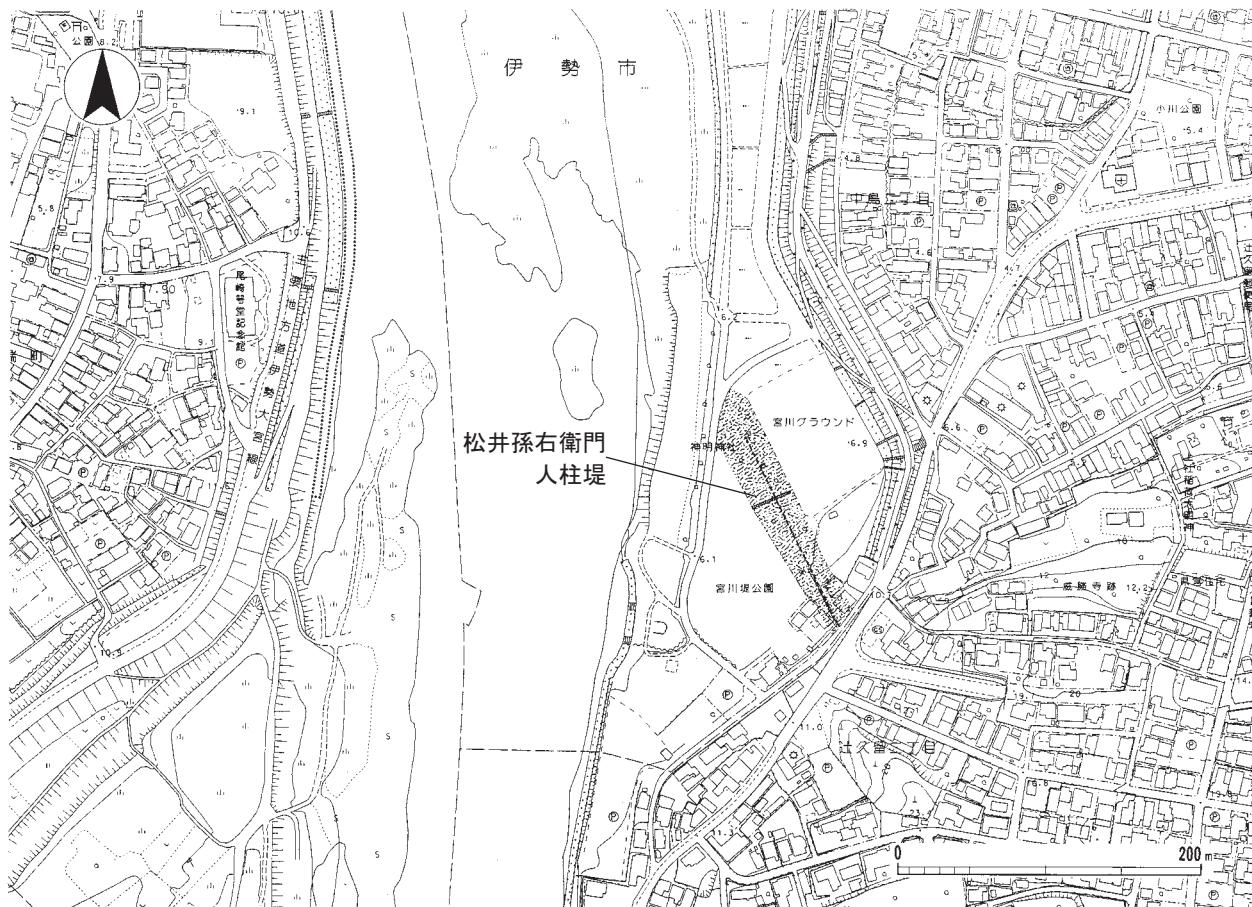
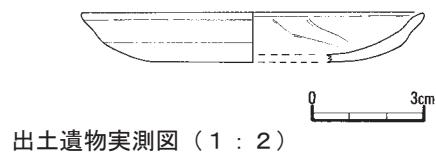
松井孫右衛門人柱堤は、伊勢市中島2丁目に所在する。宮川下流右岸の度会橋より上流500mほどの位置にある。長さ150m、上幅3m、下幅6～9mの土堤である。標高は10mほどである。延享5年(1748)に山田惣中より資金を出し浅間堤を築いた折、難工事の完成を願って自ら人柱となって堤防に埋められたという由来を持つ。<sup>①</sup>

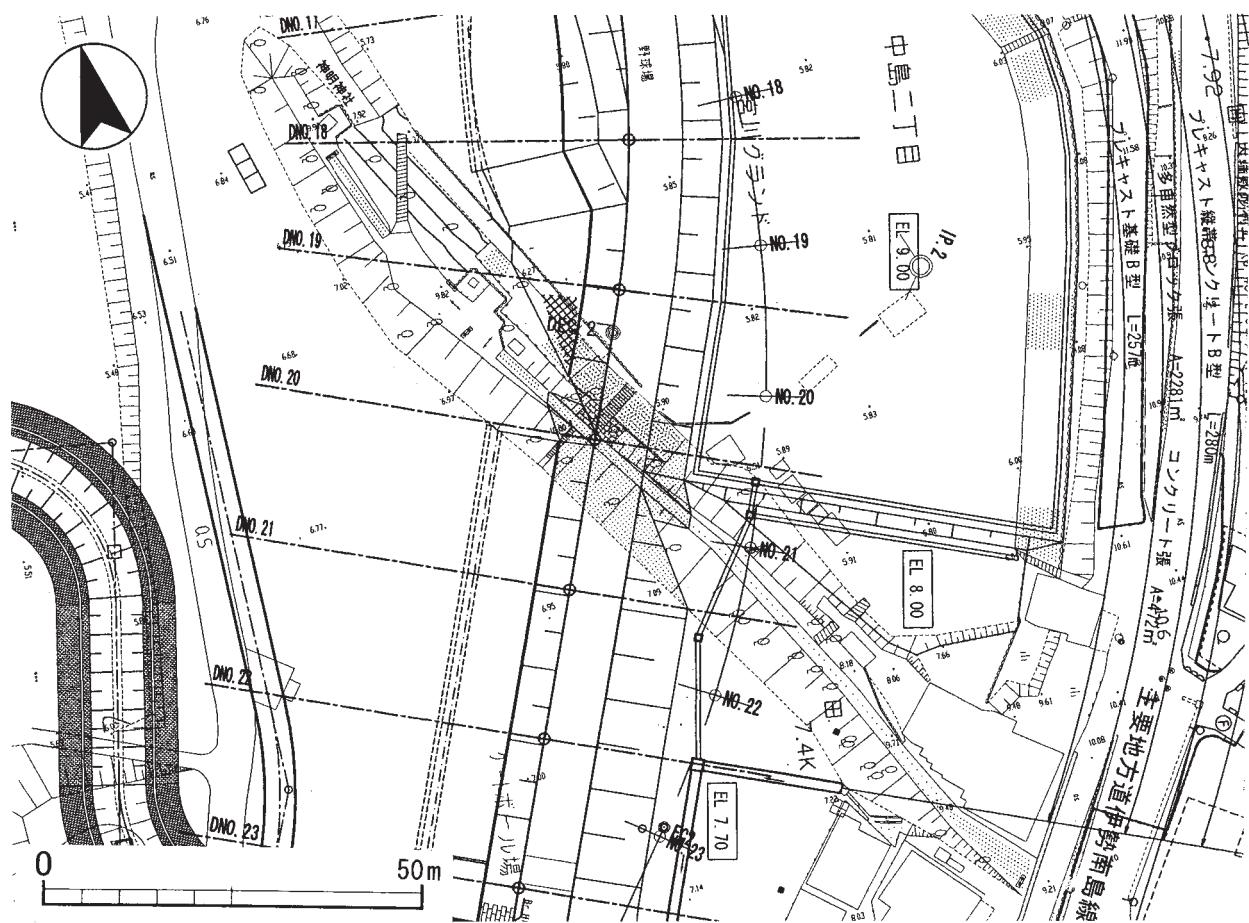
2012年1月17日に工事立会を行い、表土直下に褐色土の堤防の盛土を確認した。土師器細片1点が出土したが、堤防建設に関わる石垣跡や杭跡などの遺構は確認できなかった。

(林 義男)

#### 【註】

①『伊勢市史 考古編』(伊勢市 2011)





第39図 工事立会調査位置図 (1 : 1,000)



写真2 松井孫右衛門人柱堤 (南東から)

## 掘立柱建物

報告時の遺構番号	調査時の遺構番号	地区	規模			柱間寸法		棟方向	軸方向	時期
			間数	桁行(m)	梁行(m)	桁行(m)	梁行(m)			
S B 1	S B 6	B	3×2	6.3	4.2	2.1	2.1	東西	E 13° N	平安時代中期
S B 2	S B 5	B	3×2	6.3	4.2	2.1	2.1	南北	N 13° W	平安時代中期
S B 3	S B 仮1	C-1	3×2	6.4	3.7	2	1.8	東西	E 20° S	平安時代中期～後期
S B 4	S B 26	A	3×2	6.3	4.2	2.0～2.4	2.1	南北	N 33° E	平安時代後期～鎌倉時代前期
S B 5	F 34・35掘立	C-1	3×2以上	5.4	4.1	1.8	1.8～2.1	南北	N 33° E	鎌倉時代後期～室町時代
S B 6	S B 2	B	3×?	5.4	—	1.8	—	—	—	室町時代
S B 7	S B 7	B	2×1以上	4.9	2.7	2.2～2.7	2.7	—	—	不明

## 柱列

報告時の遺構番号	調査時の遺構番号	地区	間数	柱間寸法(m)	軸方向	時期
S A 8	—	C-1	3	1.8	E 3° S	平安時代後期～鎌倉時代前期
S A 9	—	C-1	2	2.7	N 10° W	鎌倉時代？

## 墓

報告書遺構番号	地区	調査時の遺構番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)	平面形	時期	備考
S X10	C-1	S K25	E 34	324×158	10	隅丸長方形	平安時代後期～鎌倉時代前期	
S X11	C-1	S K27	D 31・32	172×112	30	隅丸長方形	平安時代後期～鎌倉時代前期	
S X12	C-1	C 34Pit 1	C 33・34	120×74	17	楕円形	鎌倉時代中期～後期	
S X13	C-1	S K26	B C 33・34	310×210	19	隅丸長方形	鎌倉時代後期	
S X14	C-1	B 34Pit 1	B C 34	150×110	22	楕円形	鎌倉時代	
S X15	C-2	S K8	C D 40	352×144	42	隅丸長方形	鎌倉時代	
S X16	C-2	S K11	B C 39	350×214	28	隅丸長方形	鎌倉時代末～室町時代	

## 土坑・落ち込み等

報告書遺構番号	地区	調査時の遺構番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)	平面形	時期	備考
S K17	A	S K 4	D E 54	260以上×108	41	不明		
S Z18	A	S K10	E 54・55	—	—	不整形	不明	風倒木痕か
S K19	A	S K 3	E F 54・55	280以上×130	18	不明	鎌倉時代～室町時代	
S K20	A	S K 5	E F 52	166×60	42	不整形	鎌倉時代前期	
S K21	A	S K 9	E F 51・52	270×118	27	不整楕円形	古代～中世？	
S K22	A	S K17	E 51	250×126	46	不整楕円形	古代～中世？	
S K23	A	S K14	C 50	180×128	47	不整形	不明	S D 76に切られる
S Z24	A	S K22	E 49・50	350×140	40	不整形	平安時代末期～鎌倉時代	風倒木痕か
S K25	A	S K20	E F 49	310以上×234	55	不明	鎌倉時代	
S K26	A	S K21	C D 47・48	240以上×154	46	不明	不明	
S Z27	A	S K23	D E 47	274×120	30	不整形	不明	風倒木痕か
S K28	A	S K25	D E 46	240×116	41	不整楕円形	不明	
S Z29	A	S K24	E F 46	?×90	20	不整形	不明	風倒木痕か
S K30	C-2	S K 1	C 43・44	116×66	36	楕円形	不明	
S K31	C-2	S K 4	D 42・43	114×88	18	隅丸長方形	鎌倉時代～室町時代	
S K32	C-2	S K 5	D 42	106×92	16	略楕円形	不明	
S K33	C-2	S K 3	E 43	140×40	42	不整形	不明	
S K34	C-2	S K 6	E 42・43	162×98	10	楕円形	不明	
S K35	C-1	S Z 1	F 43・44	76×56	22	楕円形	平暗時代末～鎌倉時代前期	
S K36	C-1	S K 3	F 42・43	110×146	65	楕円形	鎌倉時代？	

第3表 遺構一覧表①

報告書 遺構番号	地区	調査時の 遺構番号	グリッド	規模 (cm)	深さ (cm)	平面形	時期	備考
S K37	C-1	S K 4	F 42	132×92	49	不整形	不明	
S K38	C-2	S K 7	D 41	172×84	24	隅丸長方形	不明	
S Z 39	C-1	S K 5	E F 41	220×160	35	不整形	平安時代中期～鎌倉時代	
S K40	C-1	S K 7	F 40・41	120×70	23	隅丸長方形	平安時代～鎌倉時代	
S K41	C-2	S K13	D 39・40	150×100	27	楕円形	不明	
S K42	C-2	S K 9	E 40	140×108	26	楕円形	不明	
S K43	C-2	S K10	E 40	330×160	18	不整形	不明	
S K44	C-2	S K12	C D 39	180×114	35	楕円形	鎌倉時代？	
S K45	C-1	S K 8	F 39	134×80	44	楕円形	不明	
S K46	C-1	S K 6	F 39	170×120以上	41	不明	鎌倉時代？	
S K47	C-1	S K11	B 38	110×64	25	楕円形	不明	
S K48	C-1	S K17	B 37・38	124×68	31	楕円形	不明	
S K49	C-1	S K18	B 37	142×76	7	楕円形	平安時代後期～鎌倉時代	
S K50	C-1	S K12	D E 38	190×100	22	不整形	平安時代中期～平安後期	
S K51	C-1	S K13	D E 38	170×110	38	不整形	平安時代末期～鎌倉時代	風倒木痕か
S K52	C-1	S K16	E 38	190×132	20	略楕円形	平安時代後期～鎌倉時代	
S K53	C-1	S K14	F 8	256×100	38	不整形	不明	
S K54	C-1	S K19	E F 37	340×110	15	不整長方形	不明	
S K55	C-1	S K20	E F 36	204×56	32	長楕円形	平安後期	
S K56	C-1	S K21	E F 36	172×94	26	略長方形	平安時代後期～鎌倉時代？	
S K57	C-1	S K24	F 35	104×82	30	楕円形	平安時代後期～鎌倉時代	
S K58	C-1	S K23	F 35	114×74	29	略楕円形	平安時代後期～鎌倉時代	
S K59	C-1	S K31	C 34	114×84	34	楕円形	鎌倉時代末～室町時代	
S K60	C-1	S K32	C 32・33	170×110	47	略楕円形	平安時代後期	
S K61	C-1	S K33	C 32・33	144×88	30	楕円形	不明	
S K62	C-1	S K34	D E 32・33	154×138	18	略楕円形	平安時代中期～後期	
S K63	C-1	S K30	F 33	210×110以上	43	不明	鎌倉時代	
S K64	B	S K 4	E 13	90×74	24	略楕円形	不明	
S K65	B	S K 3	F 10	86×62	16	不整長方形	不明	
S K66	B	S K 1	F 8・9	134×70	37	不整楕円形	鎌倉時代	
S F 67	B	S F 8	E 1	56以上×38	15	不明	不明	焼土坑

## 溝

報告書 遺構番号	地区	調査時の 遺構番号	グリッド	規模 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
S D68	A	S D 2	E F 53・54	幅84	40	古墳時代	S D69に切られる
S D69	A	S D 1	C～F 53	幅140～180	50～60	平安時代後期～鎌倉時代	
S D70	A	S D27	D E 53	幅140	56	不明	S D69に切られる
S D71	A	S D 6	C D 52	幅100～140	36～50	不明	
S D72	A	S D 7	C 51・D 51・52	幅70	58	平安時代末～鎌倉前期	
S D73	A	S D15	D 51・52	幅70～100	10～20	鎌倉時代	
S D74	A	S D 8	C D 51	幅32	10～17	室町時代	S D75より古
S D75	A	S D12	C D 51	幅30～50	13	室町時代以降	S D74より新
S D76	A	S D11	C D E 50・51	幅40～70	10～26	鎌倉時代	S K53より新
S D77	A	S D13	C D E 49・50	70～130	18	不明	S D78より新
S D78	A	S D16	D 49・50	幅80	46	平安時代後期	S D77より古
S D79	A	S D19	C D 49	幅50～200	24	平安時代後期	
S D80	A	S D18	C D 48・49	幅80～140	27	平安時代中期～後期	
S D81	C-1	S D28	C D 31・32・33	幅40	11	室町時代以降	

第4表 遺構一覧表②

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
1	006-04	土師器台付甕	A	F53	S D69	15.9	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密（1mm以下の砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	S字状口縁台付甕 煙付着頭部に工具痕
2	065-01	土師器台付甕	C-2	C39	S X16	—	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	小片	S字状口縁台付甕 煙付着
3	001-05	土師器台付甕	A	E53	S D69	—	—	台部径10.0	外面：ナデ 内面：ナデ・オサエ	密	にぶい橙7.5YR7/4	台部1/12	
4	022-03	土師器壺	A	—	包含層	—	—	底径6.4	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・工具ナデ・底部にハケメと工具痕あり	やや密（微砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/3	底部12/12	
5	016-06	土師器杯	B	D10	S B 1 (Pit 2)	—	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや粗（赤い粒含む）	橙7.5YR7/6	口縁部1/12 小片	
6	016-07	土製品土鍤	B	D11	S B 1 (Pit 1)	残存長3.9	幅1.0	孔径0.3	ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	—	重量：3.27g
7	019-01	土師器杯	B	E9	S B 2 (Pit 2)	11.8	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部1/12	
8	018-02	土師器皿	B	E9	S B 2 (Pit 1)	14.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	外面：橙5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	全体に風化
9	021-05	土師器杯	B	E9	S B 2 (Pit 2掘形)	15.2	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	橙5YR7/6	口縁部3/12	
10	018-04	土師器皿	B	E9	S B 2 (Pit 2)	15.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	にぶい橙5YR7/4	口縁部2/12	
11	018-01	土師器杯	B	E8	S B 2 (Pit 3)	14.0	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙2.5YR6/6	口縁部2/12	全体に風化
12	019-02	土師器椀	B	F9	S B 2 (Pit 1)	16.8	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ	やや密	橙5YR7/6	口縁部1/12	
13	017-05	陶器椀(山茶椀)	B	E8	S B 2 (Pit 3)	14.0	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰白2.5Y8/2 内面：浅黄2.5Y7/3	口縁部1/12	
14	016-05	土師器製塩土器	B	D9	S B 2 (Pit 1)	—	—	底径14.6	外面：ナデ 内面：ナデ	粗（2mm以下の砂粒多く含む）	橙5YR7/6	底部1/12	全体に風化
15	018-05	土師器甕	B	E9	S B 2 (Pit 2)	14.8	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12	全体に風化著しい
16	018-06	土師器甕	B	E8	S B 2 (Pit 3)	17.4	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	橙5YR6/6	口縁部2/12	全体に風化著しい
17	017-02	須恵器甕	B	D8	S B 2 (Pit 2)	27.0	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（2mm以下の砂粒含む）	オリーブ灰2.5GY5/1	口縁部1/12	
18	018-03	須恵器壺	B	E9	S B 2 (Pit 2掘形)	—	—	—	外面：ロクロナデ・タタキ 内面：ロクロナデ・あて具痕	密	灰N5/0	頸部片	
19	017-03	土製品土鍤	B	E8	S B 2 (Pit 3)	残存長5.0	幅1.2	孔径0.4	ナデ	密	黄灰2.5Y4/1	—	重量：6.05g
20	045-06	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 3)	14.2	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（金雲母含む）	橙5YR7/6	口縁部2/12	
21	044-06	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 4)	12.6	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（白い小砂粒含む）	外面：にぶい橙7.5YR7/4・黄灰2.5Y5/1 内面：浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12 以下	
22	045-01	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 3)	14.5	2.8	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（小砂粒含む）	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/4・にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	
23	045-05	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 3)	16.0	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（白い粒と金雲母含む）	外面：橙5YR7/6・にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	口縁部3/12	

第5表 出土遺物観察表①

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
24	046-06	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 1)	13.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ミガキ	密（白い粒と金雲母含む）	橙5YR7/6	口縁部 2/12	内面に暗文あり
25	046-05	黒色土器 梵	C-1	C37	S B 3 (Pit 4)	15.4	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ミガキ	密（白い粒と金雲母含む）	外面：にぶい黄褐 10YR5/4・黒10YR2/1 内面：黒10YR2/1	口縁部 2/12	外面工具痕あり
26	056-04	土師器皿	C-1	C37	S B 3 (Pit 1)	14.0	1.7	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部 2/12	
27	063-10	土師器 製塙土器	C-1	C37	S B 3 (Pit 3)	—	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	やや粗（小砂粒と金雲母含む）	橙2.5YR7/6	底部？ 小片	初殻痕あり
28	044-01	土師器甕	C-1	C37	S B 3 (Pit 3)	17.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密	淡橙5YR8/4・にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 1/12弱	
29	044-02	土師器甕	C-1	C37	S B 3 (Pit 4)	19.0	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ 内面：ヨコナデ・工具痕	やや粗	にぶい黄橙10YR7/3・に ぶい橙5YR7/4	口縁部 1/12弱	
30	014-04	土師器皿	A	D48	S B 4 (Pit 5)	11.0	2.3	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙10YR8/4	口縁部 4/12	
31	015-03	土師器杯	A	E49	S B 4 (Pit 1)	16.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(1.5mm以下の砂粒少しと 5mm以下の石含む)	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12	
32	022-02	ロクロ土師器 梵	A	D49	S B 4 (Pit 1)	15.6	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（微砂粒含む）	灰白10YR8/2より白	口縁部 2/12	
33	014-05	土師器甕	A	D48	S B 4 (Pit 3)	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	淡黄2.5Y8/3	小片	
34	076-01	土師器小皿	C-1	F34	S B 5 (Pit 2)	6.2	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	橙5YR7/6	口縁部 3/12	
35	076-03	土師器皿	C-1	F35	S B 5 (Pit 2)	9.9	2.0	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 2/12	
36	076-02	土師器皿	C-1	F34	S B 5 (Pit 2)	11.2	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	灰黄褐10YR5/2	口縁部 3/12	
37	076-04	土師器鍋	C-1	F35	S B 5 (Pit 2)	—	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12	外面煤付着
38	076-05	陶器 插鉢	B	F14	S B 6 (Pit 1)	—	—	—	外面：ロクロナデ・ロクロケズリ 内面：ロクロナデ	密	素地：浅黄橙10YR8/3 釉：暗赤灰7.5R4/1	体部 1/12	全体に施釉
39	056-05	土師器小皿	C-1	D37	S A 8 (Pit 7)	7.6	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	粗	灰白10YR8/2	口縁部 2/12	
40	068-06	土製品 土鍤	C-1	D37	S A 8 (Pit 7)	残存長 4.2	幅 1.2	孔径 0.3	ナデ	密	灰白2.5Y8/2・暗灰N3/0	完形	重量：4.69g
41	042-09	土師器小皿	C-1	E34	S X10	8.8	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 4/12	
42	042-07	土師器小皿	C-1	E34	S X10	9.8	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 6/12	
43	042-11	ロクロ土師器皿	C-1	E34	S X10	9.0	—	底径 5.4	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや粗	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12 底部 2/12	
44	042-10	ロクロ土師器 梵？	C-1	E34	S X10	—	—	底径 6.8	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや粗（2mm以下 の砂粒含む）	浅黄橙10YR8/3	底部 3/12	
45	027-01	陶器 皿 (山皿)	C-1	E34	S X10	9.2	2.6	底径 4.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部 2/12 底部 12/12	内面自然釉
46	004-05	陶器 梵 (山茶碗)	C-1	E34	S X10	—	—	高台径 7.3	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y8/1	高台部 4/12	

第6表 出土遺物観察表②

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
47	043-01	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10	—	—	底径 7.6	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密(3mm以下の砂粒含む)	浅黄2.5Y7/3	底部 6/12	
48	028-02	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10	—	—	底径 8.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや密(3mm以下の砂粒多く含む)	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白2.5Y7/1	底部 12/12	
49	043-02	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10	—	—	底径 7.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや粗	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：浅黄2.5Y7/3	底部 6/12	
50	027-02	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10	—	—	底径 7.6	外面：ロクロナデ・オサエ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	淡黄2.5Y8/3	底部 7/12	
51	027-05	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10	—	—	底径 15.6	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	底部 12/12	初期痕あり 高台底部に砂粒付着
52	028-03	灰釉陶器 梗	C-1	E34	S X10	—	—	底径 7.6	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密(2mm以下の砂粒少し含む)	灰白2.5Y8/2	底部 12/12	外面灰釉 内面自然釉
53	042-12	陶器 梗 (山茶梗)	C-1	E34	S X10 (Pit 3)	—	—	底径 9.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密(4mm以下の砂粒含む)	灰白2.5Y7/1	底部 2/12	
54	027-04	灰釉 山茶梗	C-1	E34	S X10	17.4	5.7	底径 8.4	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや粗	灰白10YR7/1	口縁部 2/12 底部 9/12	内外面灰釉
55	027-03	土師器 瓢	C-1	E34	S X10	17.0	—	—	外面：ユビオサエ・工具痕? 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	外面煤付着
56	004-04	土師器 瓢	C-1	E34	S X10	23.3	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12強	
57	028-01	土師器 鍋	C-1	E34	S X10	25.6	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ナデ	やや密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 3/12	外面煤付着
58	025-01	土師器 鍋	C-1	E34	S X10	28.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ハケメ?	やや粗(2mm以下の砂粒含む)	灰黄褐10YR6/2	口縁部 5/12	煤付着 全体に磨滅して おり調整不明瞭
59	042-02	土師器 小皿	C-1	D31	S X11	7.6	1.1	—	外面：ナデ 内面：ナデ	密	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部 9/12	
60	042-04	土師器 小皿	C-1	D31	S X11	8.0	1.4	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12	
61	042-01	土師器 小皿	C-1	D31	S X11	8.3	1.9	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 12/12	
62	042-05	土師器 小皿	C-1	D31	S X11	8.0	1.65	—	外面：オサエナデ・工具ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 4/12	
63	042-06	土師器 小皿	C-1	D31	S X11	9.0	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 7/12	
64	042-03	土師器 小皿	C-1	D31	S X11 上層	8.9	1.4	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	やや密	外面：にぶい橙7.5YR 内面：にぶい黄橙10YR8/3	口縁部 9/12	
65	043-03	土師器 皿	C-1	D31	S X11	13.8	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや粗	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰白10YR7/1	口縁部 5/12	
66	077-01	鉄製品 釘	C-1	D32	S X11	残存長 5.1	—	断面 0.4×0.4	—	—	—	—	
67	024-04	土師器 小皿	C-1	C34	S X12 (Pit1)	7.5~8.1	1.3	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	橙5YR6/6	完形	歪み大
68	024-03	陶器 皿 (山皿)	C-1	C34	S X12 (Pit1)	8.5	1.85	底径 4.7	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/1	完形	
69	024-02	陶器 皿 (山皿)	C-1	C34	S X12 (Pit1)	8.5	2.0	底径 4.6	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	完形	外面一部自然釉

第7表 出土遺物観察表③

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
70	024-01	青磁碗	C-1	C34	S X12 (Pit1)	16.1	6.7	底径 6.5	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：浅黄2.5Y7/3 釉：灰オリーブ5Y6/2	ほぼ完形	高台削り出し
71	057-04	土師器小皿	C-1	B33	S X13	9.9	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	
72	056-08	陶器皿 (山皿)	C-1	C33	S X13	—	—	底径 4.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	にぶい黄2.5Y6/3	底部 12/12	
73	057-02	陶器皿 (山皿)	C-1	C33	S X13	7.4	2.2	底径 4.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 1/12 底部 4/12	内外面自然釉
74	057-01	陶器皿 (山皿)	C-1	C33	S X13	8.4	1.7	底径 6.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	浅黄2.5Y7/3	口縁部 6/12 底部 12/12	
75	057-07	陶器碗 (山茶碗)	C-1	C33	S X13	7.4	—	—	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	にぶい黄2.5Y6/3	口縁部 3/12	初穀痕あり
76	057-03	陶器碗 (山茶碗)	C-1	C33	S X13	—	—	底径 6.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y6/2	底部 5/12	
77	058-01	土師器皿	C-1	C33	S X13	12.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	粗	灰白10YR8/2	口縁部 3/12	
78	057-06	土師器鍋	C-1	C33	S X13	26.6	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗 (2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい赤褐 5YR5/4・黒褐5YR2/1 内面：橙7.5YR7/6	口縁部 1~2/12	煤付着
79	057-09	須恵器鉢	C-1	C33	S X13	—	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰N5/・灰黄 2.5Y6/2 内面：黄灰2.5Y6/1	小片	
80	058-03	陶器鉢	C-1	C33	S X13	—	—	底径 12.2	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (2mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	底部 2/12	底部器壁荒れ 内面一部磨滅
81	058-04	陶器鉢	C-1	C33	S X13	26.4	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白2.5Y7/1・灰 黄2.5Y6/2	口縁部 1/12 以下	
82	068-03	土製品土鍤	C-1	C33	S X13	残存長 3.1	幅 1.7	孔径 0.45	ナデ	密	浅黄橙10YR8/3	11/12	重量：8.7g
83	077-02	鉄製品鍤？	C-1	C33	S X13	残存長 5.1	残存幅 3.0	厚 0.4	—	—	—	—	
84	077-03	鉄製品釘	C-1	C33	S X13	残存長 4.5	—	断面 0.5× 0.5	—	—	—	—	
85	077-04	鉄製品釘	C-1	B33	S X13	残存長 5.7	—	断面 0.6× 0.5	—	—	—	—	
86	046-01	陶器碗 (山茶碗)	C-1	B34	S X14 (Pit 1)	—	—	高台径 6.6	外面：ロクロナデ・糸切り 痕? 内面：ロクロナデ	密 (小さな白 い粒・黒い粒 含む)	灰白2.5Y7/1～灰黄 2.5Y7/2	高台部 3/12	内外面自然釉
87	055-02	陶器碗 (山茶碗)	C-2	C40	S X15	—	—	高台径 7.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	外面：灰白5Y7/1 内面：にぶい黄橙 10YR6/3	高台部 5/12	
88	054-04	土師器皿	C-2	C39	S X16	6.8	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサ エ・ナデ 内面：ヨコナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12	
89	052-01	土師器皿	C-2	C39	S X16	7.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 5/12	
90	064-04	土師器小皿	C-2	C39	S X16	8.0	1.3	—	外面：ユビオサエ 内面：ユビオサエ	密	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 11/12	
91	064-05	土師器小皿	C-2	C39	S X16	9.6	1.7	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 6/12	
92	054-03	土師器皿	C-2	C39	S X16	8.2	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ	やや密 (赤い 粒と金雲母含 む)	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 2/12	

第8表 出土遺物観察表④

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
93	052-08	土師器皿	C-2	C39	S X16	9.0	0.9	-	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや粗	橙7.5YR7/6	口縁部3/12小片	磨滅著しく調整不明瞭
94	054-02	土師器皿	C-2	C39	S X16	10.0	-	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	
95	054-01	土師器皿	C-2	C39	S X16	11.4	-	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	灰黄褐10YR6/2	口縁部1/12	
96	052-07	土師器皿	C-2	C39	S X16	12.2	2.8	-	内外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	やや密	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部1/12小片	
97	064-02	土師器皿	C-2	C39	S X16	13.4	2.8	-	外面：ユビオサエ・ヨコナデ 内面：ユビオサエ・ヨコナデ	やや密 (2mm以下の砂粒少し含む)	外面：灰褐5YR5/2(口縁部はにぶい橙5YR7/3) 内面：にぶい橙5YR7/3	口縁部10/12	
98	052-03	土師器皿	C-2	C39	S X16	14.4	-	-	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	やや密	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12小片	
99	052-06	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	-	-	底径8.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	底部5/12	初殻痕?
100	065-03	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	-	-	底径6.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰黄褐10YR6/2	底部4~5/12	
101	065-02	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	-	-	底径7.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/2	底部12/12	初殻痕あり
102	052-02	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	-	-	底径8.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	底部5/12小片	初殻痕?
103	052-05	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	15.2	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白2.5Y7/1	口縁部2/12小片	内外口縁部自然釉 外面一部煤付着
104	052-04	陶器 梶(山茶梶)	C-2	C39	S X16	8.2	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	口縁部1/12小片	
105	054-05	青磁梶	C-2	C39	S X16	16.6	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：灰白2.5Y8/2 釉：明緑灰10GY7/1	口縁部1/12	内面草花文
106	065-05	陶器鉢	C-2	C39	S X16	12.0	-	-	外面：ロクロナデ・手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	密	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：明褐灰7.5YR7/1	口縁部2/12強	注口付
107	065-04	陶器壺	C-2	C39	S X16	-	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰白5Y7/2	小片	内外口縁部自然釉
108	064-03	土師器鍋	C-2	C39	S X16	18.0	-	-	外面：ヨコナデ・ユビオサエ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ	密	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部5/12	外面煤付着
109	026-01	土師器鍋	C-2	C39	S X16	17.1	9.4	-	外面：ヨコナデ・ケズリ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや粗 (2mm以下の砂粒少しと1mm以下の砂粒多く含む)	外面：褐灰10YR4/1 内面：にぶい黄橙10YR6/3	口縁部1/12	
110	053-03	土師器鍋	C-2	C39	S X16	31.4	-	-	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	粗 (1mm以下の砂粒含む)	灰黄褐10YR6/2	口縁部1/12	
111	053-02	陶器甕	C-2	C39	S X16	-	-	-	外面：ナデ 内面：オサエ・ナデ	密	外面：(素地)灰褐5YR5/2 (釉)灰オリーブ7.5Y5/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	体部片	常滑産 押印あり
112	067-06	土製品土鍤	C-2	C39	S X16	残存長3.0	幅1.3	孔径0.3	ナデ	やや密 (1mm以下の砂粒と赤色粒含む)	浅黄橙7.5YR8/4	7/12	重量：2.72g
113	067-05	土製品土鍤	C-2	C39	S X16	残存長2.35	幅1.25	孔径0.4	ナデ	やや粗 (1mm以下の砂粒含む)	灰白10YR8/2	7/12	重量：2.62g
114	067-07	土製品土鍤	C-2	C39	S X16	残存長2.2	幅1.2	孔径0.5	ナデ	やや密 (1.5mm以下の砂粒と赤色粒含む)	浅黄橙10YR8/4	4/12	重量：2.24g

第9表 出土遺物観察表⑤

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
115	022-05	陶器 梶 (山茶梶)	A	E52	S K20	16.2	5.2	高台径 9.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ・ナデ	やや密 (3mm以下砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 6/12 高台部 8/12	初穀痕あり 外面部自然釉
116	004-02	土師器 鏊	A	E52	S K20	20.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密 (微砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
117	042-08	陶器 梶 (山皿)	C-1	F44	S K35	8.7	2.8	底径 5.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ・ナデ	密	外面：灰白2.5Y7/1 内面：暗オリーブ5Y4/3	口縁部 3/12 底部 12/12	内面部自然釉?
118	077-05	鉄製品 釘	C-1	E38	S K50	残存長 2.1	—	断面 0.2× 0.2	—	—	—	—	
119	077-06	鉄製品 釘	C-1	E38	S K50	残存長 3.1	—	断面 0.4× 0.3	—	—	—	—	
120	077-07	鉄製品 錢貨	C-1	E38	S K50	径 3.0	—	厚 0.2	—	—	—	ほぼ 完形	無文錢? 重さ3.20g
121	056-06	土師器 小皿	C-1	F35	S K57	6.8	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	外面：にぶい橙10YR6/3 内面：にぶい橙 10YR7/4・褐灰10YR6/1	口縁部 3/12	
122	068-04	土製品 土鍤	C-1	D,E 32-33	S K62	残存長 4.1	幅 1.2	孔径 0.3~ 0.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密	灰白2.5Y8/2・暗灰N3/0	ほぼ 完形	重量：4.28g
123	056-07	土師器 小皿	C-1	F33	S K63	8.6	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部 3/12	
124	058-02	陶器 梶 (山茶梶)	C-1	F33	S K63	—	—	底径 6.7	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	底部 6/12	内面部自然釉 内面一部磨滅
125	068-02	土製品 土鍤	C-1	F33	S K63	残存長 2.0	幅 1.4	孔径 0.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密	浅黄橙10YR8/3	4/12	重量：1.64g
126	068-01	土製品 土鍤	C-1	F33	S K63	残存長 2.7	幅 1.0	孔径 0.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 (雲母含む)	浅黄橙10YR8/3	11/12	重量：1.72g
127	077-08	鉄製品 釘	C-1	F33	S K63	残存長 2.5	—	断面 0.5× 0.5	—	—	—	—	
128	077-09	鉄製品 釘	C-1	F33	S K63	残存長 2.6	—	断面 0.5× 0.5	—	—	—	—	
129	077-10	鉄製品 釘	C-1	F33	S K63	残存長 2.4	—	断面 0.4× 0.4	—	—	—	—	
130	077-11	鉄製品 釘	C-1	F33	S K63	残存長 2.2	—	断面 0.5× 0.4	—	—	—	—	
131	002-04	ロクロ土師器 皿	A	E53	S D69	—	—	底径 5.3	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	底部 6/12	
132	006-07	土師器 梶?	A	F53	S D69	—	—	底径 7.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	底部 5/12	
133	005-06	ロクロ土師器 梶	A	F53	S D69	13.7	—	—	外面：ロクロナデ・オサエ・ ナデ 内面：ロクロナデ	やや密 (2mm以下砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12	
134	001-03	陶器 梶 (山茶梶)	A	E53	S D69	—	—	高台径 8.4	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (微砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	高台部 3/12	内面部自然釉
135	001-06	灰釉陶器 梶	A	E53	S D69	—	—	高台径 8.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	高台部 3/12	
136	002-02	陶器 梶 (山茶梶)	A	D53	S D69	—	—	高台径 8.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 ナデ 内面：ロクロナデ	密	灰黄褐10YR6/2	高台部 12/12	初穀痕あり
137	005-01	灰釉陶器 梶	A	E53	S D69	—	—	高台径 8.4	外面：ロクロナデ・糸切り 痕? 内面：ロクロナデ	密	にぶい黄橙10YR6/3	高台部 5/12	

第10表 出土遺物観察表⑥

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
138	005-04	陶器 梶 (山茶梶)	A	F53	S D69	14.9	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（5mm以下の小石含む）	灰黄2.5Y7/2	口縁部 1/12	
139	001-04	陶器 梶 (山茶梶)	A	E53	S D69	15.7	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y8/2	口縁部 1/12	内面自然釉
140	005-05	陶器 梶 (山茶梶)	A	D53	S D69	16.3	5.8	高台径 8.8	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密（4mm以下の小石含む）	外面：灰白2.5Y7/1 内面：浅黄2.5Y7/3	口縁部 5/12 高台部 12/12	解説不明の墨書 有 内面一部磨滅
141	022-04	陶器 梶 (山茶梶)	A	E53	S D69	16.8	6.0	高台径 7.0	外面：ロクロナデ・ナデ 内面：ロクロナデ	やや密（砂粒と8mm以下の小石含む）	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 2/12 高台部 12/12	初般痕あり
142	001-02	土師器 甕	A	E53	S D69	19.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	外面：灰黄褐色10YR6/2 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12	外面媒付着
143	002-01	土師器 甕	A	E53	S D69	21.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密（微砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/3	小片	媒付着 磨滅著しい
144	001-01	須恵器 壺	A	D53	S D69	30.0	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（微砂粒含む）	外面：灰N6/ 内面：灰白5Y7/1	小片	
145	007-01	陶器 鉢	A	F53	S D69	—	—	底径 23.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（2mm以下の砂粒含む）	外面：灰黄2.5Y6/2 内面：灰黄2.5Y7/2	底部 1/12	外面自然釉
146	002-05	土師器 鍋	A	D52	S D72	22.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
147	003-03	土師器 小皿	A	D51	S D73	7.4	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 4/12	歪み大
148	002-06	土師器 小皿	A	D51	S D74	8.0	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 3/12	
149	003-02	陶器 梶 (山茶梶)	A	D51	S D75	12.8	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰黄2.5Y6/2 内面：浅黄2.5Y7/3	口縁部 1/12	
150	003-01	陶器 梶 (山茶梶)	A	D51	S D76	—	—	高台径 7.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや密	外面：灰N5/ 内面：灰白2.5Y7/1	高台部 11/12	初般痕あり
151	003-04	土師器 甕	A	D50	S D78	20.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ	やや密（微砂粒含む）	外面：にぶい黄橙 10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2 灰褐色7.5YR4/2	口縁部 1/12	
152	003-06	土師器 小皿	A	D49	S D79	7.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12	
153	022-01	土師器 皿	A	D49	S D79	10.6	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	浅黄橙10YR8/3	口縁部 6/12	灯明皿
154	023-07	土師器 甕	A	D49	S D79	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/2	小片	外面媒付着
155	004-01	土師器 火鉢?	A	D49	S D79	—	—	—	外面：ロクロナデ・ロクロケ ズリ 内面：ロクロナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	外面：灰白10YR8/2 内面：褐灰10YR6/1	体部片	
156	003-05	土師器 皿	A	D49	S D80	18.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12 以下	
157	022-06	土師器 甕	A	D54	Pit 1	20.0 前後	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ・ハケメ	やや密（3mm以下の砂粒含む）	灰白2.5Y8/2	口縁部 1/12	全体に磨滅著し い
158	015-02	土師器 甕	A	D54	Pit 3	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密（0.5mm以下の砂粒と雲母含む）	淡黄2.5Y8/3	小片	
159	015-05	陶器 梶 (山茶梶)	A	E53	Pit 1	8.0	—	高台径 7.8	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密（1mm以下の砂粒少し含む）	浅黄2.5Y7/3	口縁部 3/12	
160	014-06	土師器 皿	A	D52	Pit 1	8.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナ デ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 2/12	

第11表 出土遺物観察表⑦

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
161	015-01	土師器皿	A	D52	Pit 1	13.2	2.5	—	外面：ヨコナデ・オサエ・工具ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	
162	014-07	土師器鍋	A	D52	Pit 1	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	外面：黒N2/0 内面：にぶい黄橙10YR6/4	小片	外面煤付着
163	015-04	土師器皿	A	F48	Pit 2	12.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密 (0.5mm以下の砂粒含む)	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	口縁部1/12	
164	055-03	陶器 梶(山茶梶)	C-2	D43	Pit 4	—	—	高台径7.8	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	高台部3/12	
165	056-02	陶器 梶(山茶梶)	C-1	D37	Pit 11	14.8	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部3/12	
166	045-02	土師器皿	C-1	C36	Pit 1	15.6	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗 (砂粒多く含む)	浅黄2.5Y7/3・暗灰黄2.5Y5/2・オリーブ黒5Y3/2	口縁部2/12	
167	044-05	土師器皿	C-1	E35	Pit 1	12.6	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密 (小砂粒含む)	外面：浅黄橙10YR8/4・黄灰2.5Y4/1 内面：浅黄橙10YR8/4・灰白2.5Y7/1	口縁部1~2/12	
168	048-03	土師器杯	C-1	E38	Pit 1 上層	13.2	2.25	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密 (5.5mm以下の小石粒・赤い粒含む)	橙5YR7/6	口縁部1/12	
169	048-02	土師器皿	C-1	E38	Pit 1 上層	13.2	2.75	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ	やや密 (1mm以下の砂粒・赤い粒含む)	橙5YR7/6	口縁部3/12	
170	048-04	土師器杯	C-1	E38	Pit 1 上層	14.0	2.0	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ	やや密 (1mm以下の小石粒・赤い粒含む)	橙5YR7/6	口縁部1/12	
171	044-04	土師器鍋	C-1	E38	Pit 1 上層	24.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密 (白い小さな粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4 橙2.5YR7/6	口縁部1/12弱	
172	048-05	土師器製塩土器	C-1	E38	Pit 1 上層	—	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：ナデ	粗 (2mm以下の小石粒多くと3mm大の赤い粒含む)	外面：淡赤橙2.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	小片	
173	045-07	土師器皿	C-1	D36	Pit 14	15.2	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密 (赤・白の粒と金雲母含む)	浅黄橙7.5YR8/4・浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12	
174	045-03	土師器皿	C-1	E37	Pit 3	14.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密 (赤い粒含む)	外面：橙5YR7/6・浅黄橙7.5YR8/3 内面：橙5YR7/6	口縁部3/12	
175	046-04	灰釉陶器梶	C-1	D35	Pit 2	13.0	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (小さい白い砂粒含む)	素地：灰白N8/ 釉：浅黄2.5Y7/3	口縁部1/12	
176	056-01	土師器鉢	C-1	D35	Pit 2	18.6	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	外面：にぶい橙7.5YR7/4・黒7.5YR2/1 内面：橙7.5YR7/6・灰褐色7.5YR4/2	口縁部3/12	
177	063-01	土師器製塩土器	C-1	D35	Pit 2	—	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗 (白い粒含む)	赤橙10R6/8・にぶい褐7.5YR6/3	小片	磨滅著しい
178	044-03	土師器甕	C-1	D35	Pit 9	28.2	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ハケメ	粗 (4mm以下の小石・砂粒と金雲母含む)	浅黄橙10YR8/4・橙5YR6/6混じり	口縁部1/12	風化著しい
179	068-05	土製品土鍤	C-1	E35	Pit 3	残存長2.7	幅1.25	孔径0.4~0.45	ナデ	密	灰白10YR8/2	完形	重量：3.2g
180	045-04	土師器小皿	C-1	E34	Pit 1	8.0	—	—	内外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	密 (小さい砂粒と金雲母含む)	外面：にぶい黄橙10YR7/2・橙2.5YR7/6 内面：浅黄橙10YR8/3・橙2.5YR7/6	口縁部5/12	
181	056-03	陶器 梶(山茶梶)	C-1	E34	Pit 1	15.0	5.2	底径6.2	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	底部3/12	初期痕あり
182	057-05	土師器鍋	C-1	E34	Pit 1	30.4	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗 (2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい赤褐色5YR5/4・黒褐色5YR2/1 内面：褐灰色10YR5/1~4/1	口縁部1/12	外面煤付着

第12表 出土遺物観察表⑧

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
183	046-03	陶器 梶 (山茶梶)	C-1	E33	Pit 1	15.6	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（小さい砂粒含む）	灰黄2.5Y7/2	口縁部 2/12	内外口縁部自然釉？
184	046-02	陶器 梶 (山茶梶)	C-1	E33	Pit 1	—	—	高台径 7.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密（小さな白い粒・砂粒含む）	灰白N7/	高台部 4/12強	
185	017-04	土師器 皿	B	C15	Pit 1	16.0	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	やや密（赤い粒含む）	橙5YR6/6	口縁部 1/12	全体に風化著しい
186	016-03	土師器 杯	B	D12	Pit 1	12.0	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	橙5YR7/6	口縁部 1/12	
187	016-02	土師器 皿	B	D12	Pit 1	16.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	橙2.5YR6/8	口縁部 1/12	外面剥離
188	016-01	土師器 皿	B	D12	Pit 1	16.6	2.3	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ 内面：ヨコナデ・ユビオサエ	密	橙5YR7/6	口縁部 3/12	
189	016-08	土師器 皿	B	D11	Pit 4	12.6	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙5YR7/6	口縁部 1/12	
190	017-01	土師器 鍋	B	D11	Pit 4	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	外面：にぶい黄橙 10YR7/2 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12 小片	外面煤付着
191	021-02	土師器 杯	B	D11	Pit 5	12.7	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	橙5YR6/8	口縁部 3/12	底部に墨書あり 歪みあり
192	021-03	土師器 皿	B	E10	Pit 1	16.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	橙5YR7/6	口縁部 7/12	内面特に磨滅著しい
193	019-03	土師器 杯	B	F9	Pit 2	11.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密	橙5YR6/6	口縁部 1/12	
194	016-04	陶器 壺	B	D8	Pit 1	12.1	—	—	外面：ロクロナデ・ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：浅黄橙2.5Y7/3 釉：にぶい黄橙	口縁部 1/12	
195	051-01	土師器 皿	C-1	E34	表土	7.5	0.75	—	外面：オサエナデ 内面：ナデ	密（微砂粒少し含む）	橙2.5YR6/8	口縁部 3/12	
196	009-04	土師器 小皿	A	—	包含層	7.5	1.2	—	外面：ヨコナデ・オサエ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 6/12弱	
197	006-06	土師器 皿	A	C55	包含層	8.6	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（1mm以下の砂粒含む）	にぶい黄2.5Y6/3	口縁部 2/12	
198	047-06	土師器 小皿	C-1	C37	表土	9.7~ 10.4	2.2	—	内外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完形	
199	049-06	土師器 皿	C-1	F42	包含層	9.5	1.1	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（0.5mm以下の砂粒少し含む）	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12	
200	064-06	土師器 小皿	C-2	C42	包含層	9.6	1.8	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗（3mm以下の小石と砂粒多め含む）	にぶい橙7.5YR7/3	口縁部 11/12	
201	049-05	土師器 皿	C-1	D31	包含層	10.2	1.4	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12	
202	069-04	土師器 皿	C-1	F42	表土	13.8	2.2	—	外面：ヨコナデ・オサエ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密（3mm以下の砂粒含む）	橙7.5YR7/6	口縁部 3/12	
203	049-04	陶器 皿 (山皿)	C-1	C39	包含層	9.4	1.5	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密（0.5mm以下の砂粒少し含む）	灰黄2.5Y7/2	口縁部 2/12	
204	064-07	陶器 皿 (山皿)	C-2	—	排土	9.0	2.2	底径 4.6	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 5/12	煤付着？
205	067-03	白磁 皿	C-1	—	排土	10.0	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：灰白5Y8/1 釉：灰白5Y7/2	口縁部 1/12	

第13表 出土遺物観察表⑨

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
206	009-07	土師器皿	A	—	包含層	12.9	2.4	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(1mm以下の砂粒含む)	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部8/12	
207	009-05	土師器皿	A	—	包含層	13.0	2.7	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部7/12	外面焼き膨れ有
208	021-04	土師器皿	A	—	包含層	12.5	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	密	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部6/12	
209	020-03	土師器皿	A	—	包含層	13.2～13.8	—	—	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密(微砂粒と5mm以下の小石含む)	橙5YR7/6	口縁部9/12	
210	009-06	土師器皿	A	—	包含層	13.1	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	橙7.5YR7/6	口縁部5/12	
211	010-01	土師器皿	A	—	包含層	12.9	3.8	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(0.5mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR7/4・暗灰N3/0 内面：にぶい黄橙10YR7/4	口縁部7/12	
212	066-02	土師器皿	C-2	C42	包含層	14.8	3.3	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや粗(2.5mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部6/12	歪み大
213	066-03	土師器皿	C-2	C42	包含層	14.0	4.0	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・工具ナデ	やや密(微砂粒含む)	にぶい橙5YR7/4	ほぼ完形	
214	006-05	土師器皿	A	—	包含層	11.7	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密(8mm以下の小石と砂粒含む)	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	全体に磨滅
215	047-02	土師器皿	C-1	D35	包含層	14.3	2.8	—	外面：ユビオサエ・ナデ(一部強いナデ) 内面：ナデ(一部強いナデ)	やや密(微砂粒含む)	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部3/12	爪痕あり
216	010-02	土師器皿	A	—	包含層	16.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密(2.5mm以下の砂粒多く含む)	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3・灰黃褐10YR6/2	口縁部2/12	外面風化
217	047-01	土師器皿	C-1	F42	包含層	15.0	3.2	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	やや粗(1mm以下の砂粒含む)	浅黄2.5Y7/3	口縁部3/12	
218	066-01	土師器皿	C-2	C43	包含層	14.6	4.6	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ナデ	やや粗(3mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部6/12	歪み大
219	047-05	土師器皿	C-1	C1	表土	12.0	3.55	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	やや密(1mm以下の砂粒・赤い粒含む)	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12	全体に風化大
220	050-01	土師器皿	C-1	E36	包含層	12.6	2.6	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部2/12	
221	066-04	土師器皿	C-2	C39	包含層	12.0	2.9	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密(赤い粒と微砂粒含む)	橙5YR7/6	口縁部2/12	風化大
222	062-06	土師器皿	C-1	E37	包含層	13.0	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(白い小さな粒少し含む)	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部2/12	歪みあり 内面工具痕あり
223	051-03	土師器皿	C-1	F37	包含層	12.7	2.2	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12以下	
224	056-09	土師器皿	C-1	D37	Pit上面	13.0	—	—	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	橙5YR6/6	口縁部1～2/12	
225	057-08	土師器皿	C-1	D38	Pit上面	13.4	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	橙5YR7/6	口縁部1/12	
226	049-07	土師器皿	C-1	E37	包含層	13.6	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(1mm以下の砂粒少し含む)	外面：橙5YR6/8 内面：浅黄橙10YR8/4	口縁部2/12	
227	062-03	土師器皿	C-1	E37	包含層	14.4	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(白い小さな粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12強	
228	049-08	土師器皿	C-1	D37	包含層	15.0	2.9	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(0.5mm以下の砂粒少し含む)	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12以下	

第14表 出土遺物観察表⑩

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
229	049-09	土師器杯	C-1	E36	包含層	14.5	2.7	-	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 1/12	
230	069-02	土師器杯	C-1	F36	包含層	15.1	3.0	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	橙7.5YR7/6	口縁部 5/12	
231	050-04	土師器杯	C-1	E37	包含層	16.0	-	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：淡黄2.5Y8/3	口縁部 2/12	
232	059-06	灰釉陶器椀	C-1	B38	包含層	-	-	高台径 6.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰白2.5Y7/1	高台部 2/12	内面自然釉
233	059-05	灰釉陶器椀	C-1	F35	包含層	-	-	高台径 8.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	にぶい黄橙10YR7/4	高台部 2/12	
234	060-03	陶器 椭(山茶椀)	C-1	-	排土	-	-	高台径 8.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	高台部 4/12	
235	060-05	陶器 椭(山茶椀)	C-1	-	排土	-	-	高台径 8.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	灰黄2.5Y7/2	高台部 10/12	内面一部磨滅
236	005-02	灰釉陶器椀	A	E53	包含層	-	-	高台径 6.9	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (2mm以下の砂粒含む)	外面：灰黄2.5Y6/2 内面：にぶい黄2.5Y6/3	高台部 6/12	内面磨滅
237	049-01	陶器 椭(山茶椀)	C-1	F42	表土	-	-	高台径 8.9	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (1mm以下の砂粒少し含む)	浅黄2.5Y7/3	高台部 6/12	内面自然釉
238	060-04	陶器 椭(山茶椀)	C-1	-	排土	-	-	高台径 7.4	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (微砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/2	高台部 7/12	内面一部磨滅
239	005-03	陶器 検(山茶椀)	A	D53	包含層	-	-	高台径 8.4	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	やや密 (2mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y6/2	高台部 4/12	内面磨滅
240	049-03	陶器 椭(山茶椀)	C-1	F41	包含層	8.7	-	-	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (1mm以下の砂粒含む)	浅黄2.5Y7/3	口縁部 5/12	初穀痕あり
241	020-01	陶器 椭(山茶椀)	A	-	包含層	16.0～ 16.6	5.0～ 5.6	底径 7.2～ 7.7	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ロクロナデ	密 (4mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 5/12 底部 12/12	歪みあり 初穀痕あり
242	064-01	陶器 椭(山茶椀)	C-2	C43	包含層	16.0	5.5	底径 4.0	外面：ロクロナデ・糸切り痕 内面：ナデ	やや密 (2mm以下の砂粒含む)	外面：灰白10YR7/1 内面：黄褐2.5Y5/3	口縁部 2～3/12 底部 12/12	初穀痕あり 内面自然釉
243	069-03	陶器 椭(山茶椀)	C-1	F42	包含層	16.5	-	高台径 7.5	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	やや密	灰黄2.5Y7/2	口縁部 3/12 高台部 12/12	F42表土から出土した遺物と接合 初穀痕あり
244	009-01	陶器 椭(山茶椀)	A	-	包含層	15.6	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (1mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 8/12	内外面自然釉
245	055-01	陶器 椭(山茶椀)	C-2	D39	包含層	14.8	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	やや粗 (1mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 2/12 小片	
246	009-02	陶器 椭(山茶椀)	A	-	包含層	15.0	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (微砂粒少し含む)	外面：浅黄2.5Y7/3 内面：灰黄2.5Y7/2	口縁部 4/12	内外面自然釉
247	059-04	灰釉陶器椀	C-1	F37	包含層	17.2	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：浅黄2.5Y7/3 釉：浅黄2.5Y7/3	口縁部 1/12	
248	009-03	陶器 椭(山茶椀)	A	-	包含層	15.0	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (微砂粒少しと2～3mm以下の小石含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 5/12	内外面自然釉
249	067-02	青磁椀	C-2	D41	包含層	13.6	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密 (微砂粒含む)	素地：灰白5Y7/1 釉：灰白10Y6/1	口縁部 2/12	
250	049-02	白磁椀	C-1	-	排土	20.0	-	-	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：灰白5Y8/1 釉：灰白7.5Y7/1	口縁部 1/12 以下	
251	062-04	土師器皿	C-1	E37	包含層	13.0	-	-	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ	密 (白い小さな粒と金雲母少し含む)	橙7.5YR7/6	口縁部 2/12	

第15表 出土遺物観察表⑪

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
252	050-02	土師器皿	C-1	E36	包含層	14.8	1.7	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(1mm以下の砂粒少し含む)	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部2/12	
253	050-03	土師器皿	C-1	E37	包含層	14.0	1.8	-	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：浅黄橙10YR8/3	口縁部1/12	
254	069-01	土師器皿	C-1	F37	表土	15.0	2.0	-	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密	橙5YR7/6	口縁部4/12	
255	051-02	土師器皿	C-1	C35	表土	16.6	1.9	-	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密(金雲母含む)	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	
256	063-09	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(小さな白い粒と金雲母含む)	橙2.5YR7/6(底部：浅黄橙10YR8/3が付着)	小片	
257	063-08	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(4mm以下の小石、金雲母、白や赤の粒、小砂粒含む)	橙7.5YR7/6	小片	磨滅激しい
258	063-06	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(白い粒含む)	橙2.5YR6/6	小片	
259	063-05	土師器製塙土器	C-1	F37	表土	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(白い粒と小さな砂粒と金雲母多く含む)	明赤褐2.5YR5/6	小片	磨滅著しい
260	063-07	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(小砂粒多くと赤い粒、金雲母含む)	外面：明赤褐5YR5/6 内面：橙5YR6/6	小片	
261	006-08	土師器製塙土器	B	E9	包含層	-	-	-	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4	小片	外面黒変
262	063-04	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(4mm以下の石と白い粒多く含む)	橙5YR6/6	小片	磨滅著しい
263	063-03	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(白い小さな粒多くと金雲母含む)	橙2.5YR6/8	小片	磨滅著しい
264	063-02	土師器製塙土器	C-1	E36	包含層	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(2mm以下の小石等砂粒と金雲母含む)	橙5YR7/6	小片	
265	066-05	土師器製塙土器	C-1	-	排土	-	-	-	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(9mm以下の小石粒多く含む)	外面：橙2.5YR6/8 内面：橙5YR7/6	小片	
266	062-02	土師器製塙土器	C-1	E36	包含層	15.6	5.6	底径17.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	粗(0.3mm以下の小石と白い粒多く含む)	橙2.5YR7/6に浅黄橙7.5YR8/4の混じり	口縁部2/12 底部2/12	
267	062-01	土師器製塙土器	C-1	E37	包含層	18.8	4.9	底径22.8	外面：ユビオサエ・ナデ 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(小砂粒多く含む)	橙2.5YR7/6・浅黄橙7.5YR8/4	口縁部1/12 底部1/12	
268	059-01	土師器甕	C-1	E37	包含層	12.3	-	-	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・オサエ・ナデ	やや密(微砂粒含む)	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	
269	047-04	土師器甕	C-1	C37	表土	14.2	-	-	外面：ヨコナデ・ハケメ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・工具ナデ	やや密(1mm以下の砂粒含む)	灰白10YR8/2	口縁部2/12	外面煤付着
270	006-01	土師器甕	A	-	包含層	15.8	-	-	外面：ヨコナデ・オサエ後工具ナデ 内面：ヨコナデ・ハケメ	密(1mm以下の砂粒含む)	橙7.5YR7/6	口縁部2/12	
271	006-02	土師器甕	B	E9	検出中	16.9	-	-	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密(4mm以下の小石と砂粒含む)	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：灰黄褐10YR6/2	口縁部1/12	
272	050-05	土師器鍋	C-1	C38	包含層	19.0	-	-	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密(1.5mm以下の砂粒少し含む)	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12 以下	
273	006-03	土師器鍋	A	E53	包含層	19.0	-	-	外面：ヨコナデ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：浅黄2.5Y7/3	口縁部1/12	外面煤付着
274	059-02	土師器鍋	C-1	E37	包含層	20.0	-	-	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ハケメ	やや密	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部1/12	

第16表 出土遺物観察表⑫

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
275	050-07	土師器甕	C-1	F36	包含層	21.8	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12 以下	
276	054-06	土師器鍋	C-2	C39	包含層	21.1	—	—	外面：ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・工具痕？	やや粗（1mm以下の砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12	
277	048-06	土師器甕	C-1	F37	包含層	22.0	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ	やや粗（赤い粒含む）	灰黄褐10YR6/2	口縁部 1/12 以下	全体に風化大 内面煤付着
278	050-06	土師器鍋	C-1	D31	包含層	22.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密（0.5mm以下の砂粒含む）	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：褐灰7.5YR4/1	口縁部 1/12 以下	
279	050-08	土師器鍋	C-1	F35	包含層	23.0	—	—	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密（1.5mm以下の砂粒と金雲母含む）	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12 以下	
280	062-05	土師器甕	C-1	E37	包含層	24.4	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	密（白い小さな粒多くと金雲母含む）	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	
281	020-02	土師器鍋	A	—	包含層	27.2	—	—	内外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・ケズリ	やや密（3mm以下の砂粒含む）	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3～10YR6/3	口縁部 2/12	外面煤付着
282	059-03	土師器甕	C-1	E36	包含層	30.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	やや密（2mm以下の砂粒含む）	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12 以下	
283	067-01	土師器鍋	C-2	D40	包含層	37.0	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗（3mm以下の砂粒多く含む）	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12 以下	
284	048-01	土師器甕	C-1	E37	包含層	17.8	—	—	外面：ユビオサエ・ナデ・ハケメ後オサエ 内面：ナデ・ケズリ	やや密（1mm以下の砂粒含む）	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 2/12	
285	051-04	土師器甕	C-1	B35	包含層	28.6	—	—	外面：ヨコナデ・ハケメ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12 以下	
286	060-02	須恵器甕	C-1	C37	表土	—	—	—	外面：ロクロナデ・タキ 内面：同心円状當て具痕・スリ消し	密	外面：黄灰2.5Y5/1 内面：灰黄2.5Y6/2	体部片	外面自然釉
287	060-01	須恵器短頸壺	C-1	F37	包含層	13.2	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	外面：灰N6/ 内面：灰白5Y7/1	口縁部 1/12 以下	
288	053-01	陶器甕	C-2	D41	包含層	27.4	—	—	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	素地：灰白5Y7/1 釉：灰オリーブ7.5Y5/3	口縁部 1/12 小片	
289	067-08	土製品土玉	C-2	D43	包含層	残存長 0.8	幅 0.8	孔径 0.4	ナデ	やや密（微砂粒と赤色粒含む）	にぶい橙5YR7/4	ほぼ完形	重量：0.28g
290	068-12	土製品土鍤	C-1	E37	包含層	残存長 3.0	幅 1.2	孔径 0.45	ナデ	密	褐灰7.5YR4/1	—	重量：2.99g
291	068-08	土製品土鍤	C-1	E36	包含層	残存長 4.6	幅 1.1	孔径 0.45	ナデ	密	褐灰10YR6/1	11/12	重量：4.32g
292	068-07	土製品土鍤	C-1	—	包含層	残存長 5.3	幅 1.2	孔径 0.35	ナデ	密	にぶい黄橙10YR7/3	11/12	重量：7.07g ヒモノあとあり
293	068-09	土製品土鍤	C-1	E37	包含層	残存長 4.3	幅 1.2	孔径 0.4	ナデ	密（雲母含む）	浅黄橙10YR8/3	11/12	重量：4.63g
294	068-11	土製品土鍤	C-1	F43	包含層	残存長 4.4	幅 1.35	孔径 0.35～ 0.4	ナデ	密	黑褐10YR3/1	ほぼ完形	重量：6.66g 面とり状のナデ痕あり
295	067-04	土製品土鍤	C-1	—	排土	残存長 5.9	幅 1.6	孔径 0.5	ナデ	密（微砂粒含む）	黑2.5Y2/1	完形	重量：12.91g
296	068-10	土製品土鍤	C-1	E37	包含層	残存長 6.0	幅 1.6	孔径 0.4	ナデ	密	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完形	重量：11.24g 工具の当たり痕あり
297	078-01	鉄製品刀子	C-2	F42	包含層	残存長 7.1	幅 1.9	厚 0.4	—	—	—	半欠	

第17表 出土遺物観察表⑬

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
298	078-02	鉄製品 釘	C-1	E38	包含層	残存長 6.9	—	断面 0.5× 0.5	—	—	—	—	
299	078-03	鉄製品 釘	C-1	E38	包含層	残存長 2.6	—	断面 0.4× 0.5	—	—	—	—	
300	078-04	銅製品 錢貨	C-2	C42	包含層	径 2.5	—	厚 0.1	—	—	—	—	元祐通寶 (1086 年初鑄) 重さ 2.60g
301	031-05	縄文土器 深鉢	C-1	E36	S K21	—	—	—	外面：縄文 (回転・押圧) 内面：ヨコナデ	やや密 (2mm以 下の砂粒含 む)	灰褐7.5YR5/2	口縁部 小片	
302	029-08	縄文土器 深鉢	C-1	D-E 32~ 33	S K62	—	—	—	外面：縄文 (回転・押圧) 内面：ナデ	密 (2mm以下の 砂粒含む)	外面：褐10YR4/4 内面：明黄褐10YR6/6	口縁部 小片	
303	035-04	縄文土器 深鉢	C-2	C39	包含層	—	—	—	外面：複合鋸歯文 内面：ナデ	やや粗 (1mm以 下の砂粒と繊 維含む)	外面：にぶい黄橙 10YR6/3 内面：にぶい黄橙 10YR6/4	小片	
304	013-02	縄文土器 深鉢	A	D46	検出面	—	—	—	外面：条痕・刺突・刻み目 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と繊維含 む)	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 小片	
	013-03	縄文土器 深鉢	A	E46	S K25	—	—	—	外面：条痕・刺突・刻み目 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と3~4mm 以下の小石と 繊維含む)	にぶい黄橙10YR5/3	口縁部 小片	
	013-04	縄文土器 深鉢	A	E46	S K25	—	—	—	外面：条痕・刺突・刻み目 内面：ナデ	密 (0.5mm以下の 砂粒と3mm以 下の小石と 繊維含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい黄褐 10YR5/3	口縁部 小片	
305	013-06	縄文土器 深鉢	A	E46	S K25	—	—	—	外面：条痕・刺突 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と繊維含 む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄橙 10YR5/3	小片	304と同一個体
306	030-05	縄文土器 深鉢	C-1	E37	包含層	—	—	—	口端部：ユビ押圧によるくぼ み 外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	密 (繊維含 む)	にぶい橙5YR7/4	口縁部 小片	
307	011-02	縄文土器 深鉢	A	D47	S K21	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (0.5mm以下の 砂粒と角の ある石と繊維 含む)	外面：にぶい黄橙 10YR6/4・橙5YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR6/4	小片	
308	031-04	縄文土器 深鉢	C-1	D35	表土	—	—	—	外面：ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密 (3mm以 下の砂粒と繊 維含む)	外面：橙7.5YR7/6 内面：褐灰10YR6/1	小片	
309	031-02	縄文土器 深鉢	C-1	F35	包含層	—	—	—	外面：ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密 (3mm以 下の砂粒と繊 維含む)	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙 10YR6/3	小片	
310	030-04	縄文土器 深鉢	C-1	D38	Pit2	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密 (2mm以 下の砂粒と繊 維含む)	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 内面：浅黄2.5Y7/4	小片	
311	014-02	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (微砂粒と 繊維含む)	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	小片	
312	011-06	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (微砂粒と 2mm以下の小石 と繊維含む)	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：灰黄2.5Y6/2	小片	
313	014-03	縄文土器 深鉢	A	D47	Pit 2	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (1mm以下の 砂粒少しと繊 維含む)	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：にぶい黄2.5Y6/3	小片	
314	014-01	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と4mm以 下の小石と繊 維含む)	外面：橙2.5YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR7/4	小片	
315	012-07	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と繊維含 む)	外面：明赤褐2.5YR5/6 内面：にぶい黄褐 10YR5/3	小片	
316	012-01	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と繊維含 む)	外面：橙2.5YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	小片	
317	012-06	縄文土器 深鉢	A	D47	S K23	—	—	—	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と3mm以 下の小石と繊 維含む)	外面：明赤褐2.5YR5/6 内面：灰黄褐10YR4/2	小片	

第18表 出土遺物観察表⑭

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
318	011-03	縄文土器深鉢	A	E 56	S K 4	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(2mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：橙2.5YR6/8 内面：橙7.5YR6/6橙5YR6/8	小片	
319	031-03	縄文土器深鉢	C-1	E 37	S K 19	-	-	-	外面：ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密(3mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：橙2.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/3	小片	
320	012-03	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：浅黄橙10YR8/4	小片	
321	030-02	縄文土器深鉢	C-1	B 36	包含層	-	-	-	外面：ナデ 内面：ナデ・オサエ	やや密(2mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：橙2.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
322	030-06	縄文土器深鉢	C-1	D 37	Pit 2	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒と繊維含む)	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
323	013-08	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(2mm以下の砂粒と3mm以下の小石と繊維含む)	外面：明褐7.5YR5/6 内面：にぶい黄褐10YR5/4	小片	
324	011-05	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(2mm以下の砂粒と微砂粒少しと白い石と繊維含む)	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
325	012-02	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：摩滅のため不明 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい褐7.5YR5/3	小片	
326	011-07	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	小片	
327	011-04	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒と繊維含む)	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
328	013-01	縄文土器深鉢	A	D 46	Pit 2	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：橙2.5YR6/8 内面：にぶい黄橙10YR6/3	小片	
329	012-04	縄文土器深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	密(1mm以下の砂粒少しと繊維含む)	橙7.5YR6/6	小片	
330	007-02	縄文土器深鉢	A	D 47	包含層	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：条痕・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒と繊維含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい黄褐10YR5/4	小片	
331	031-01	縄文土器深鉢	C-1	F 41	包含層	-	-	-	外面：条痕・ナデ 内面：オサエ・条痕・ナデ	やや密(3mm以下の砂粒と金雲母含む)	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
332	017-06	縄文土器深鉢	B	C 10	Pit 3	-	-	-	外面：隆帶・太沈線 内面：ナデ	粗(1~2mmの砂粒含む)	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 小片	
333	032-05	縄文土器深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・沈線 内面：ヨコナデ・ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	灰黄2.5Y7/2	口縁部 小片	
334	032-06	縄文土器深鉢	C-1	E 38	S K 16	-	-	-	外面：沈線・凝繩文 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	灰白10YR8/2	小片	
335	032-03	縄文土器深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・沈線・短沈線 内面：ヨコナデ・ナデ	やや粗	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 小片	
336	032-02	縄文土器深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・沈線・短沈線 内面：ヨコナデ・ナデ	粗(1mm以下の砂粒多く含む)	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄褐10YR5/4	口縁部 小片	
337	032-01	縄文土器深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：ヨコナデ・隆帶・橋状把手・沈線 内面：ヨコナデ・ナデ	粗(1mm以下の砂粒多く含む)	橙5YR6/6	口縁部 小片	
		縄文土器深鉢	C-2	E 43	S K 3	-	-	-	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗(1mm以下の砂粒多く含む)	橙5YR6/6	口縁部 小片	
338	032-04	縄文土器深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・隆帶・沈線・刺突 内面：ヨコナデ・ナデ	粗	にぶい黄橙10YR5/4	口縁部 小片	
339	033-03	縄文土器深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	橙5YR6/6	小片	337と同一個体か

第19表 出土遺物観察表⑯

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
340	037-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：隆帯・沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	橙5YR6/6	小片	
341	034-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：突帯・沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	灰黄褐10YR5/2	小片	
342	033-06	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・隆帯・沈線・刺突 内面：ヨコナデ・ナデ	やや粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 小片	外面煤付着
343	033-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	Pit3	-	-	-	外面：ヨコナデ・隆帯・沈線・刺突 内面：ヨコナデ・ナデ	やや粗	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 小片	
344	035-03	縄文土器 深鉢	C-2	E 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・隆帯・沈線・刺突 内面：ヨコナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	にぶい橙2.5YR6/4	口縁部 小片	
345	034-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線・刺突・ナデ 内面：オサエ後ナデ	やや粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 小片	外面煤付着
346	035-02	縄文土器 深鉢	C-2	E 40	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・沈線・刺突 内面：ヨコナデ・ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR5/3	口縁部 小片	
347	032-07	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・短沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：黄褐2.5Y5/3	口縁部 小片	
348	036-06	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：隆帯・沈線・刺突 内面：ナデ	やや密(1mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 小片	
349	029-07	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：沈線・刺突・ナデ 内面：ナデ	密(3mm以下の小石・砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：橙5YR6/6	口縁部 小片	
350	030-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ヨコナデ・沈線 内面：ナデ・オサエ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	橙5YR6/6	口縁部 小片	
351	039-06	縄文土器 深鉢	C-2	42 ヲイ	包含層	-	-	-	外面：隆帯・押引沈線 内面：ユビオサエ・ナデ	粗(2.5mm以下の砂粒多くと金雲母含む)	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 小片	
352	034-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 38	表土	-	-	-	外面：微隆帯・連続刺突 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい黄橙10YR6/3	小片	
353	029-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：沈線・縄文(L R) 内面：ヨコナデ・ナデ	密(2mm以下の砂粒含む)	橙7.5YR6/6	口縁部 小片	
354	029-06	縄文土器 深鉢	C-1	E 38	包含層	-	-	-	外面：隆帯・沈線・縄文(L R) 内面：ナデ	密(3mm以下の小石・砂粒含む)	外面：赤褐5YR4/6 内面：にぶい黄褐10YR5/4	小片	
355	036-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線・縄文(L R) 内面：オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	小片	
356	035-01	縄文土器 深鉢	C-2	C 43	地山直上	-	-	-	外面：沈線・縄文(L R) 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
357	033-02	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：矢羽状沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：にぶい橙7.5YR6/4	小片	
358	030-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエナデ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/8	小片	
359	029-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密(4mm以下の小石・砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄2.5Y6/3	小片	
360	039-05	縄文土器 深鉢	C-2	C 42	包含層	-	-	-	外面：沈線・縄文(L R) 内面：ナデ	やや粗(3mm以下の砂粒多くと金雲母含む)	外面：黑褐2.5Y3/2 内面：橙5YR6/6	小片	
361	004-03	縄文土器 深鉢	A	E 55	SK10 底	-	-	-	外面：ナデ・沈線・縄文(R L) 内面：ナデ・オサエ	やや粗(3mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
362	033-04	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：矢羽状沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄褐10YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	小片	

第20表 出土遺物観察表⑯

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
363	033-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：矢羽状沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：灰黄褐色10YR5/2 内面：にぶい赤褐色5YR5/4	小片	
364	037-04	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：矢羽状沈線 内面：ナデ・オサエ	やや密(4mm以下の砂粒含む)	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
365	040-03	縄文土器 深鉢	C-2	E 43	包含層	-	-	-	外面：矢羽状条線 内面：ナデ	粗(4mm以下の砂粒多くと金雲母含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	小片	
366	041-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	粗(2mm以下の砂粒多く含む)	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：にぶい橙5YR6/4	小片	
367	038-01	縄文土器 深鉢	C-1	-	排土	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(微砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：黄灰2.5Y5/1	小片	
368	036-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	橙7.5YR6/6	小片	
369	041-02	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	S K 4	-	-	-	外面：沈線 内面：ハクリ	やや粗(3.5mm以下の砂粒多く含む)	浅黄橙10YR8/4	小片	
370	037-08	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/4	小片	
371	039-04	縄文土器 深鉢	C-2	C 42	検出中	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや粗(3.5mm以下の砂粒多く含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：橙5YR6/6	小片	
372	037-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密(4mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：橙5YR6/6	小片	
373	037-02	縄文土器 深鉢	C-1	-	排土	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(1mm以下の砂粒含む)	橙2.5YR6/6	小片	
374	029-11	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：条線 内面：オサエ・ナデ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	外面：明赤褐色5YR5/6 内面：橙2.5YR6/8	小片	
375	034-04	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	粗(1mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄褐色10YR4/3 内面：灰黄褐色10YR5/2	小片	
376	038-07	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密(微砂粒含む)	外面：橙5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	小片	
377	029-09	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	密(3mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	小片	
378	037-07	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	小片	
379	036-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(3mm以下の砂粒含む)	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
380	037-06	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	小片	
381	029-10	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	密(2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：灰褐色7.5YR4/2	小片	
382	029-04	縄文土器 深鉢	C-1	D 38	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	密(4mm以下の小石・砂粒含む)	外面：橙7.5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	小片	
383	038-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
384	040-04	縄文土器 深鉢	C-2	D 43	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ	やや密(4mm以下の砂粒多く含む)	橙5YR6/6	小片	
385	038-04	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：条線 内面：ナデ	やや密(2mm以下の砂粒含む)	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR6/6	小片	

第21表 出土遺物観察表⑯

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
386	040-02	縄文土器 深鉢	C-2	E 43	包含層	-	-	-	外面：ナデ・沈線 内面：ナデ	やや粗 (3.5mm 以下の砂粒多くと金雲母含む)	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	小片	
387	038-08	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：条線 内面：ナデ・オサエ	やや密 (3mm以 以下の砂粒含む)	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR7/6	小片	
388	038-09	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	S K 3	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ・オサエ	やや密 (3mm以 以下の砂粒含む)	明赤褐5YR5/6	小片	
389	034-02	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	粗 (1mm以下の 砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：橙5YR6/6	小片	
390	002-03	縄文土器 深鉢	A	F 53	S D 69	-	-	-	外面：ナデ・沈線 内面：オサエ・ナデ	やや粗 (2mm以 以下の砂粒含む)	にぶい橙5YR6/4	小片	
391	037-03	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	やや密 (2mm以 以下の砂粒含む)	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：灰褐7.5YR4/2	小片	
392	041-04	縄文土器 深鉢	C-1	-	排土	-	-	-	外面：条線 内面：ナデ	やや粗 (2mm以 以下の砂粒多く含む)	浅黄橙10YR8/4	小片	
393	036-04	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：条線 内面：ナデ	やや密 (2mm以 以下の砂粒含む)	橙5YR6/6	小片	
394	040-01	縄文土器 深鉢	C-2	C 43	包含層	-	-	-	外面：縄文 (R L) 内面：ナデ	やや密 (1.5mm 以下の砂粒と金雲母含む)	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：にぶい黄橙 10YR7/4	小片	
395	039-08	縄文土器 深鉢	C-2	C 43	包含層	-	-	-	外面：縄文 (L R) 内面：オサエ・ナデ	粗 (4mm以下の 砂粒多くと金雲母含む)	にぶい黄橙10YR6/4	小片	
396	039-02	縄文土器 深鉢	C-2	C 41	包含層	-	-	-	外面：縄文 (R L) 内面：ナデ	やや粗 (1.5mm 以下の砂粒含む)	外面：黄灰2.5Y4/1 内面：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
397	041-01	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	S K 4	-	-	-	外面：縄文または撚糸文 内面：オサエ・ナデ	やや密 (2mm以 以下の砂粒と金雲母含む)	にぶい黄褐10YR4/3	小片	
398	029-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 41	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	密 (2mm以下の 砂粒含む)	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：橙7.5YR6/6	小片	
399	012-05	縄文土器 深鉢	A	D 47	S K 23	-	-	-	外面：沈線 内面：ナデ	密 (1mm以下の 砂粒と角のある砂粒含む)	外面：明赤褐5YR5/6 内面：橙5YR6/6	小片	
400	039-07	縄文土器 深鉢	C-2	E 42	包含層	-	-	-	外面：沈線・条線 内面：オサエ・ナデ	やや粗 (3mm以 以下の砂粒多くと金雲母含む)	外面：褐灰10YR5/1 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	小片	
401	029-02	縄文土器 深鉢	C-1	F 43	包含層	-	-	-	外面：ナデ 内面：ナデ	密 (7mm以下の 小石・砂粒含む)	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 小片	
402	036-02	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	包含層	-	-	-	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	やや密 (4mm以 以下の砂粒多く含む)	外面：にぶい黄褐 10YR5/3 内面：にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 小片	
403	039-01	縄文土器 深鉢	C-2	E 40	包含層	-	-	-	外面：縄文 (R L) 内面：オサエ	粗 (2.5mm以下の 砂粒多く含む)	外面：にぶい黄橙 10YR6/3 内面：にぶい橙7.5YR6/4	小片	
404	039-03	縄文土器 深鉢	C-2	E 41	Pit 5	-	-	-	外面：ナデ 内面：条痕・ナデ	やや粗 (3mm以 以下の砂粒多くと金雲母含む)	褐7.5YR4/4	小片	
405	013-05	縄文土器 深鉢	A	E 46	S K 25	-	-	-	外面：沈線・縄文? 内面：ナデ	密 (微砂粒と 2mm以下の小石 含む)	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/4	小片	
406	040-05	縄文土器 深鉢	C-2	D 43	包含層	-	-	-	外面：沈線・縄文・ナデ 内面：オサエ・ナデ	粗 (3.5mm以下 の砂粒多くと金雲母含む)	外面：褐7.5YR4/4 内面：黒褐10YR3/1	口縁 部? 小片	
407	013-07	縄文土器 深鉢	A	E 46	S K 25	-	-	-	外面：沈線・縄文 (L R) 内面：ナデ	密 (0.5mm以下 の砂粒含む)	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面大部分剥離
408	038-05	縄文土器 深鉢	C-1	F 42	表土	-	-	-	外面：沈線 内面：オサエ・ナデ	密 (微砂粒含 む)	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙 10YR7/4	小片	

第22表 出土遺物観察表⑯

遺物番号	登録番号	器種	調査区	小地区等	出土位置	法量 (cm)			調整(技法)の特徴	胎土	色調	残存度	備考
						口径	器高	その他					
409	011-01	縄文土器 台付深鉢	A	E 55	S K 10底	—	—	—	外面：ナデ・長楕円形透かし 孔 内面：オサエ・ナデ	密（1～3mm以下の砂粒多くと金雲母含む）	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	脚台部 1/6	
410	040-06	縄文土器 円板	C-2	E 43	包含層	—	—	—	オサエ・ナデ	やや粗（2.5mm以下の砂粒多くと金雲母含む）	にぶい橙7.5YR7/4	一部欠	体部小片を円盤として転用か
411	074-01	石製品 石錐	C-1	B 38	S K 11	残存長 2.7	残存幅 2.2	残存厚 7.0	—	—	—	完形	重量：3.61g チャート
412	074-02	石製品 楔形石器	C-1	—	排土	残存長 2.5	残存幅 2.8	残存厚 0.8	—	—	—	完形	重量：6.56g チャート
413	074-03	石製品 楔形石器	C-1	—	排土	残存長 2.7	残存幅 2.8	残存厚 1.9	—	—	—	—	重量：12.89g 流紋岩
414	075-02	石製品 使用痕有剥片	C-2	C 39	S X 16	残存長 1.9	残存幅 5.0	残存厚 1.0	—	—	—	—	重量：8.69g 砂岩
415	075-01	石製品 削器	C-2	42 ヲイ	包含層	残存長 4.0	残存幅 5.2	残存厚 2.0	—	—	—	—	重量：45.3g チャート
416	074-04	石製品 石核	C-1	—	排土	残存長 4.6	残存幅 5.4	残存厚 2.0	—	—	—	完形	重量：45.6g チャート
417	072-03	石製品 剥片	C-1	F 41	表土	残存長 6.4	残存幅 9.1	残存厚 2.2	—	—	—	完形	重量：122.5g 細粒砂岩
418	072-02	石製品 剥片	C-1	D 37	Pit	残存長 7.4	残存幅 9.1	残存厚 1.5	—	—	—	完形	重量：100g 砂岩
419	008-01	石製品 打製石斧	A	C 53	S D 69	残存長 12.2	残存幅 7.3	残存厚 1.0	—	—	—	ほぼ 完形	重量：135.54g 緑色片岩
420	073-02	石製品 磨器	C-1	F 42	表土	残存長 8.75	残存幅 10.3	残存厚 3.5	—	—	—	完形	重量：340g 泥岩
421	073-01	石製品 磨器	C-1	—	排土	残存長 12.7	残存幅 13.4	残存厚 6.3	—	—	—	完形	重量：1.25kg 砂岩
422	008-02	石製品 石劍 もしくは石刀	A	—	包含層	残存長 13.5	残存幅 4.1	残存厚 2.5	—	—	—	欠損	重量：216.7g 緑泥片岩 敲打あり、未成 品
423	071-02	石製品 打欠石鍤	C-1	F 40	表土	残存長 6.7	残存幅 6.4	残存厚 1.5	—	—	—	一部欠	重量：102g 安山岩
424	072-01	石製品 磨石	C-1	—	排土	残存長 10.3	残存幅 5.7	残存厚 3.6	—	—	—	約1/2	重量：490g 砂岩
425	015-06	石製品 磨石	A	F 54	Pit 3底	残存長 4.6	残存幅 5.5	残存厚 4.4	—	—	—	小片	重量：145g 砂岩
426	071-01	石製品 磨石	C-1	F 43	S K 35	残存長 12.0	残存幅 12.3	残存厚 4.9	—	—	—	完形	重量：1.05kg 礫岩
427	070-01	石製品 石皿	C-1	F 37	包含層	残存長 19.7	残存幅 17.0	残存厚 3.2	—	—	—	完形	重量：1.5kg 花崗岩
428	043-04	弥生土器 瓦	C-1	F 43	S K 35	35.0	—	—	外面：ナデ・ヘラ沈線・キザ ミ 内面：ナデ・工具ナデ	密	にぶい橙7.5YR7/3	口縁部 1/12	外面多条沈線

第23表 出土遺物観察表⑯

# 写 真 図 版



A地区調査前状況（北東から）



A地区調査区全景（北東から）



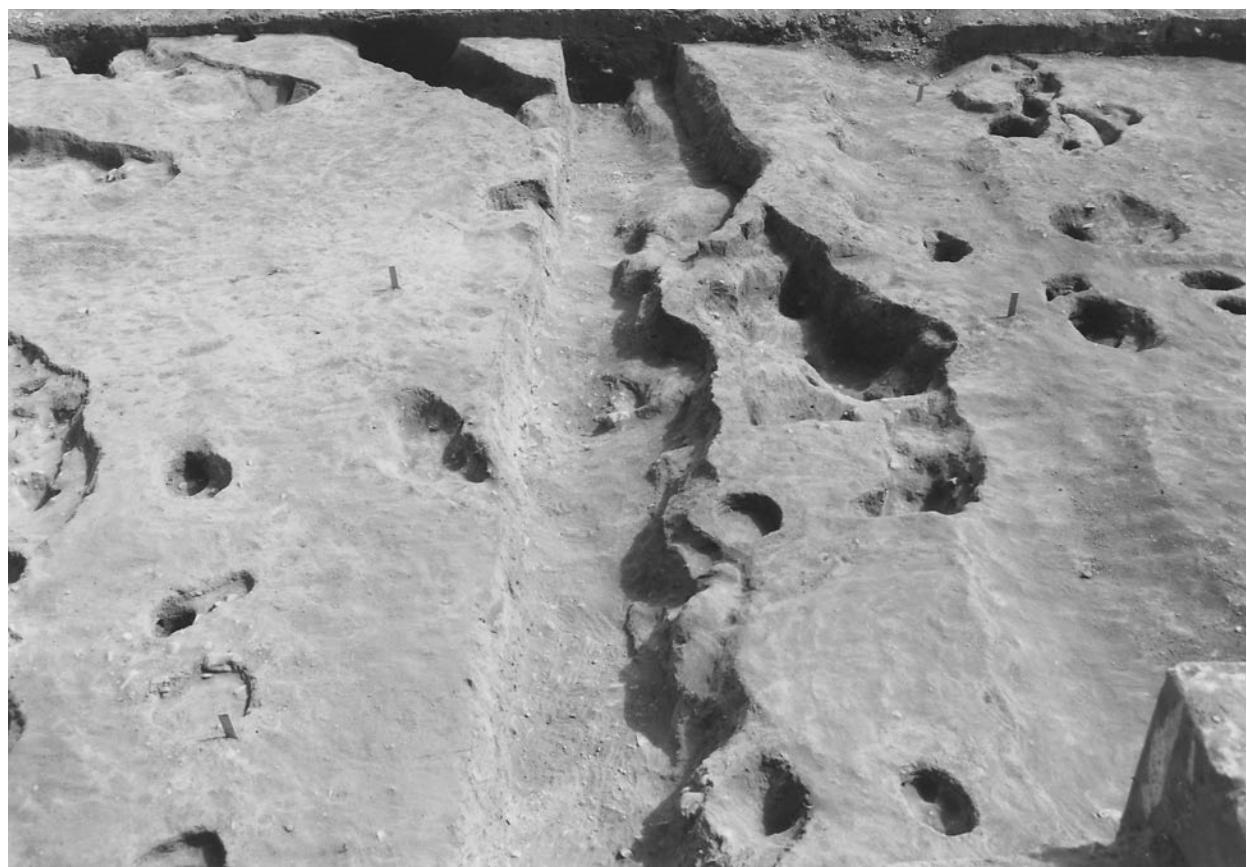
A地区調査区全景（南西から）



A地区中央部付近（東から）



A地区SB4付近（北から）



A地区SD69（北西から）



C地区調査前状況（南西から）



C-1地区調査区全景（南西から）



C-1 地区調査区全景（南上空から）



C-1 地区調査区全景（垂直写真：左下角が南）



C地区SB3（西から）



C地区SB5（南から）



C地区 S X 10遺物出土状況（南から）



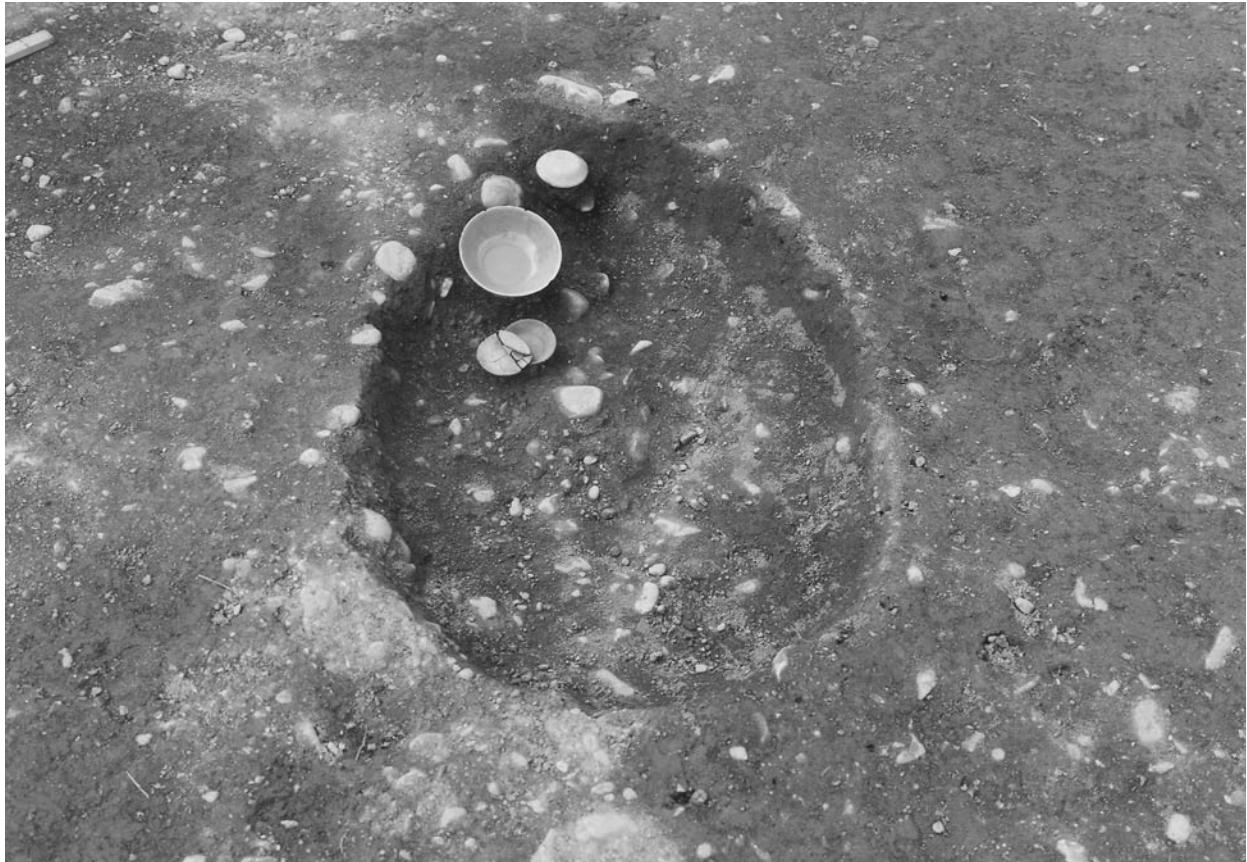
C地区 S X 10遺物出土状況（東から）



C地区 S X 11遺物出土状況（南から）



C地区 S X 11遺物出土状況（西から）



C地区 S X 12遺物出土状況（南から）



C地区 S X 12遺物出土状況近景（南東から）



B地区調査前状況（南西から）



B地区調査区全景（南西から）



B地区調査区全景（北東から）



B地区SB1（東から）



B地区SB2（東から）



B地区SB2（北から）



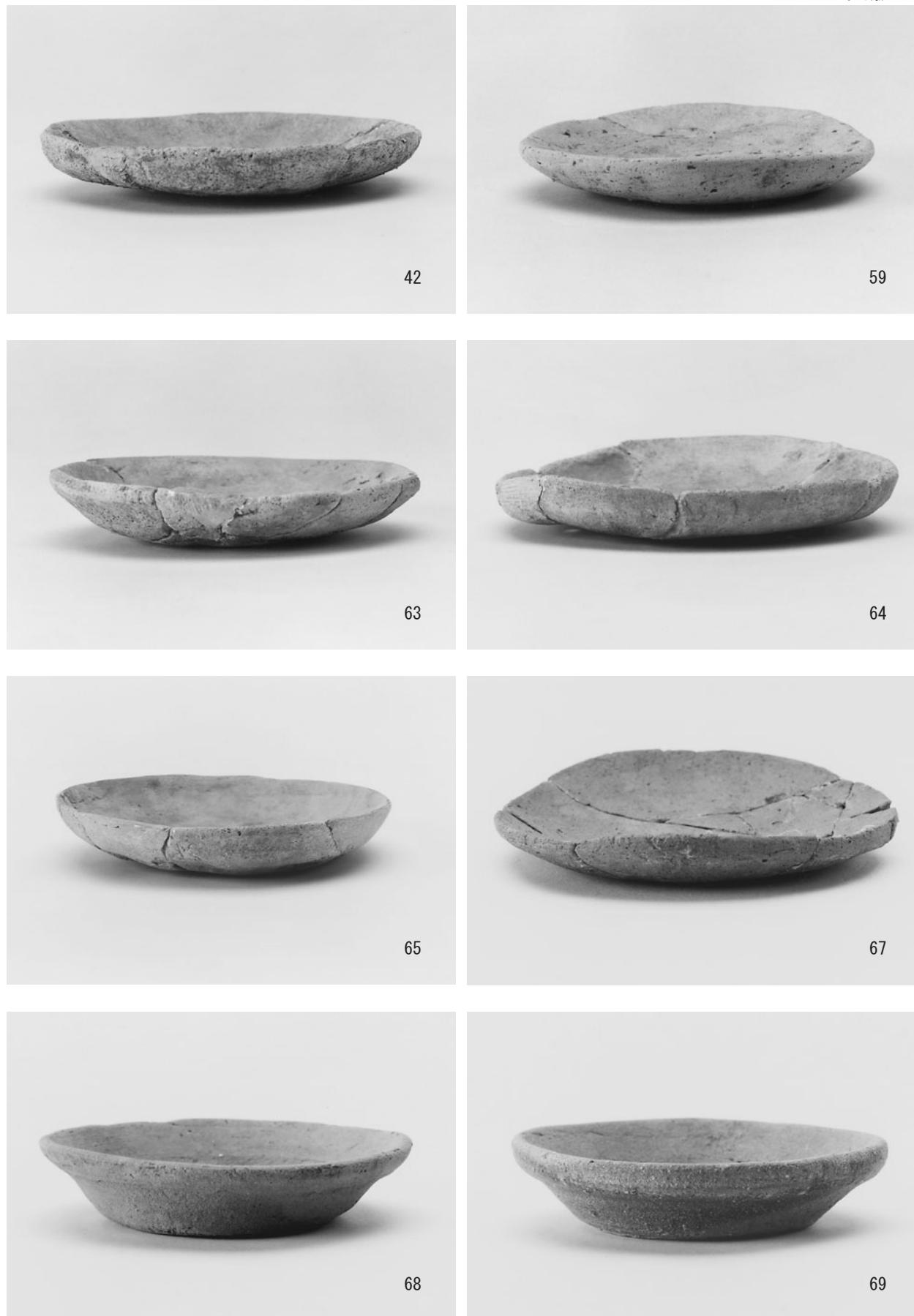
B地区SB6（南西から）



B地区SB7（北から）



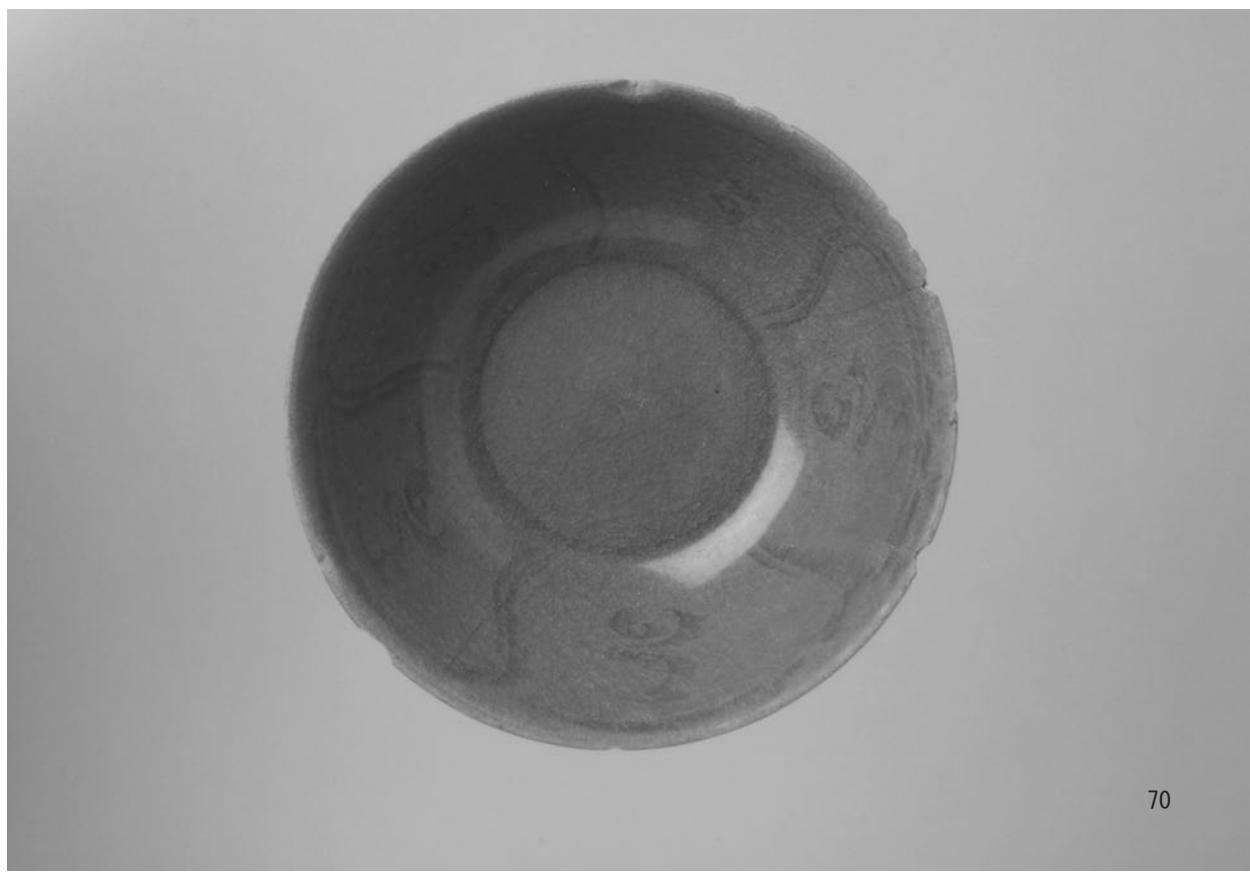
出土遺物①



出土遺物②



70



70

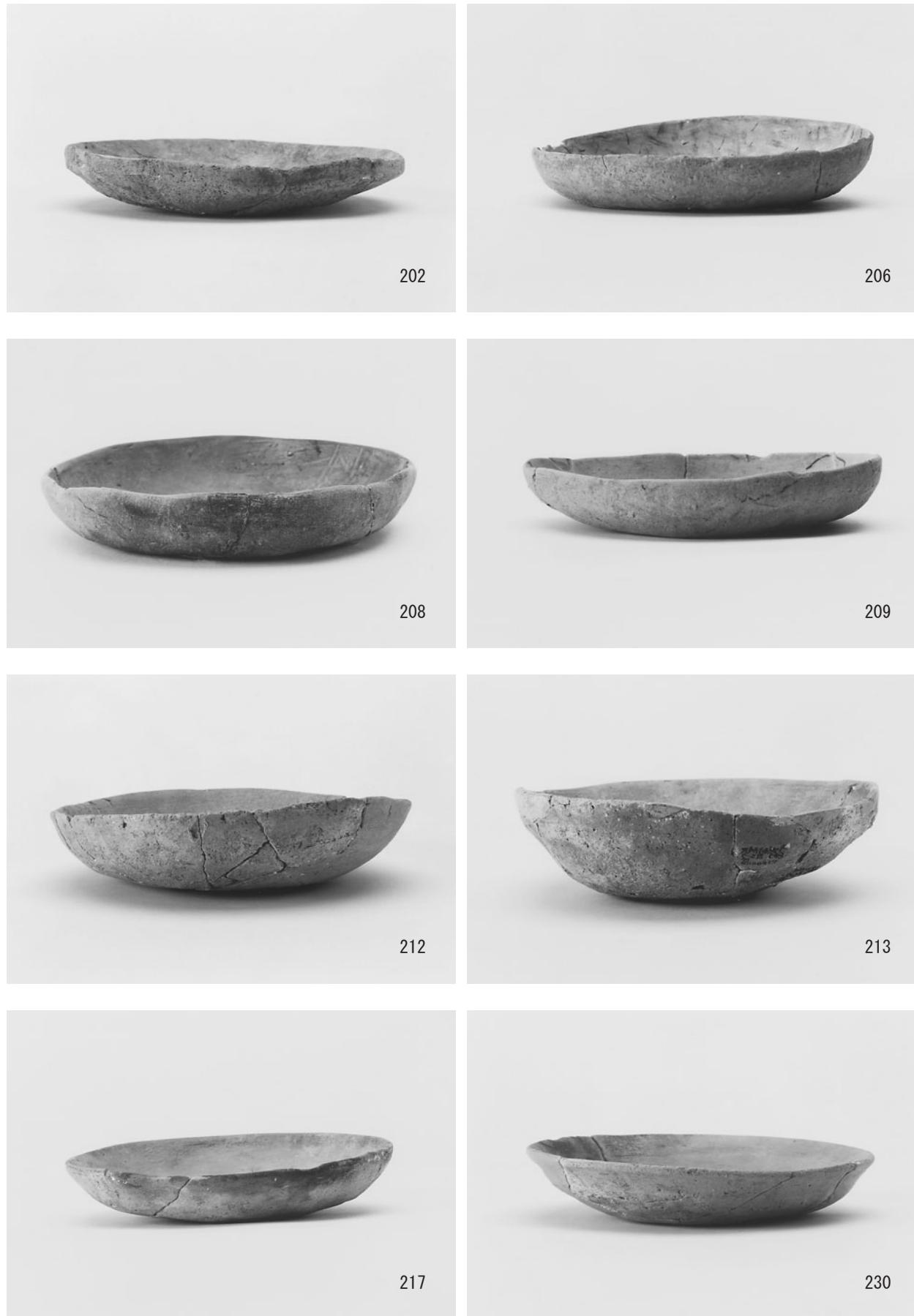
出土遺物③



出土遺物④



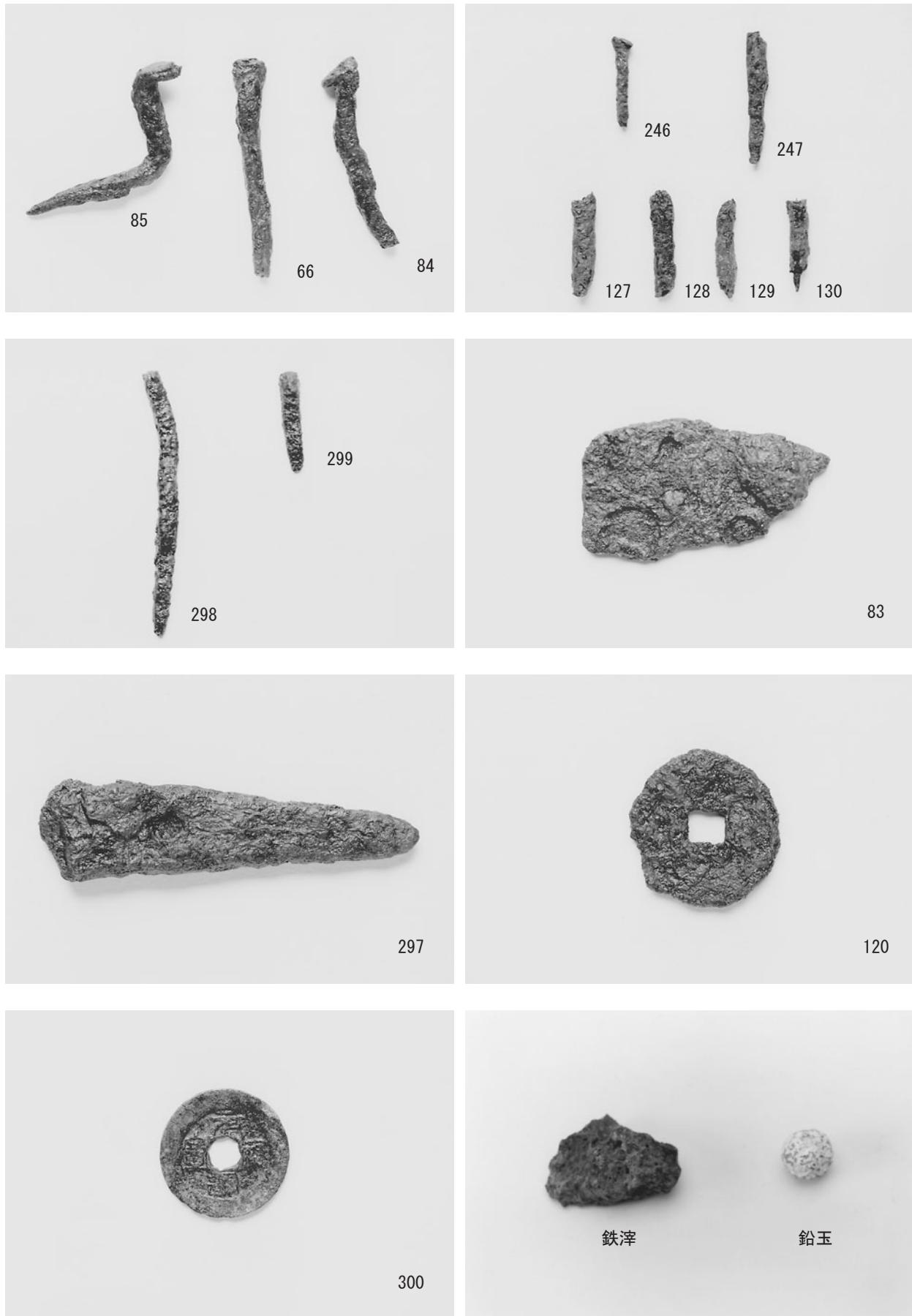
出土遺物⑤



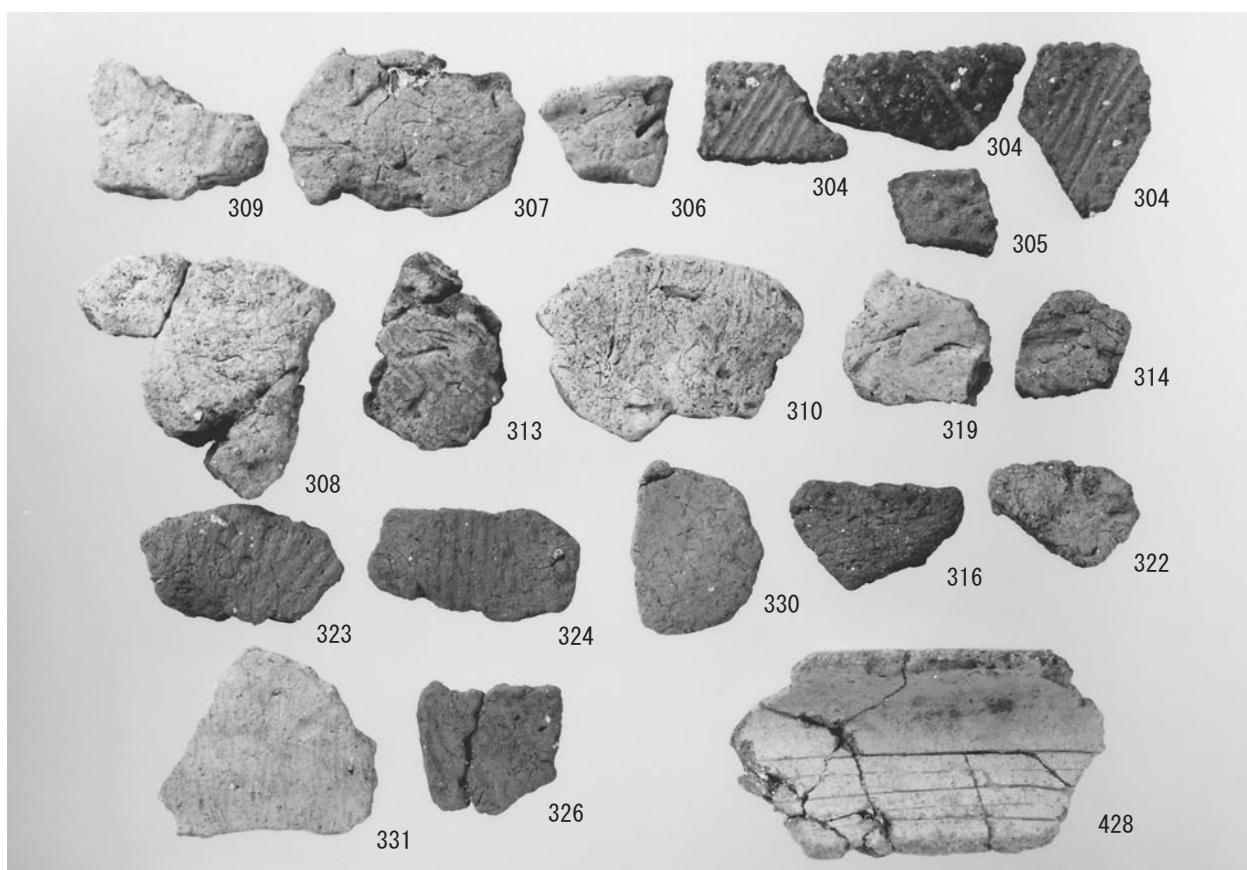
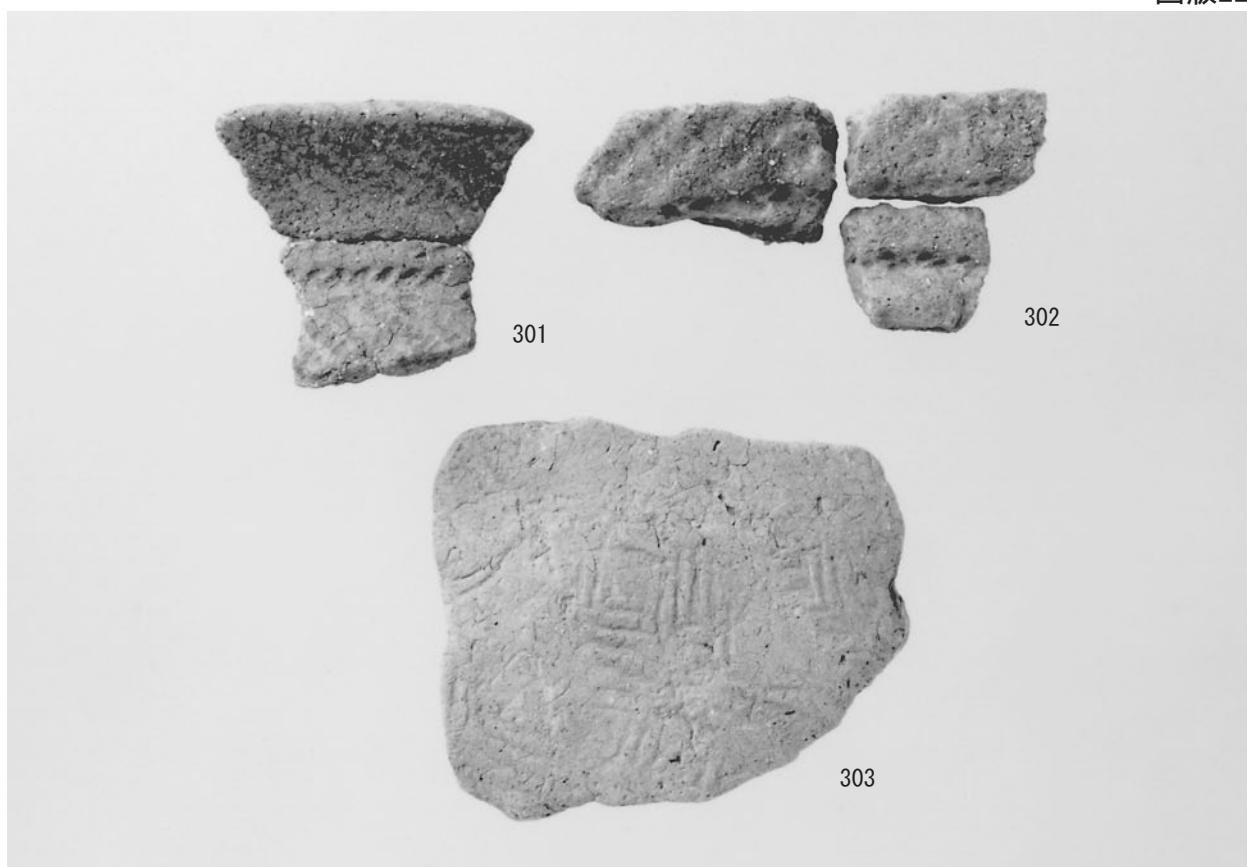
出土遺物⑥



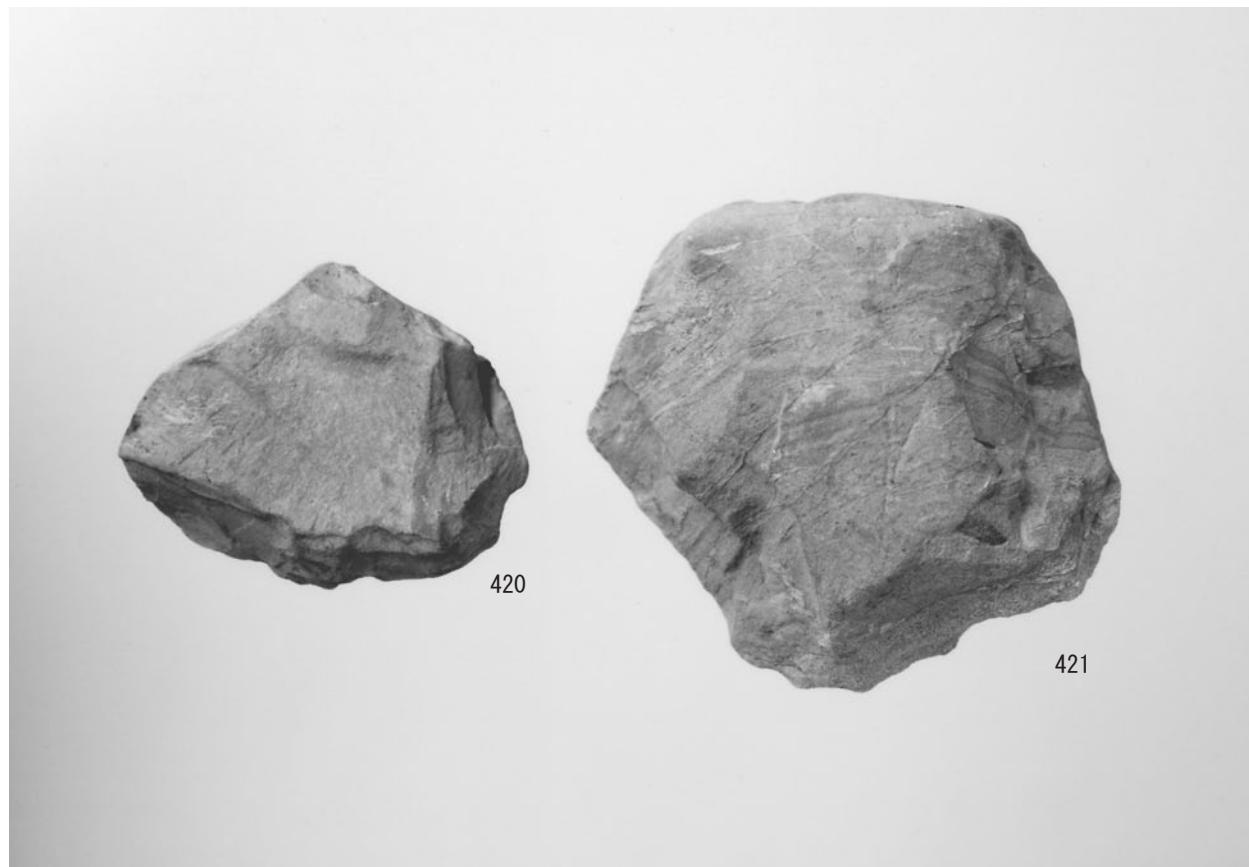
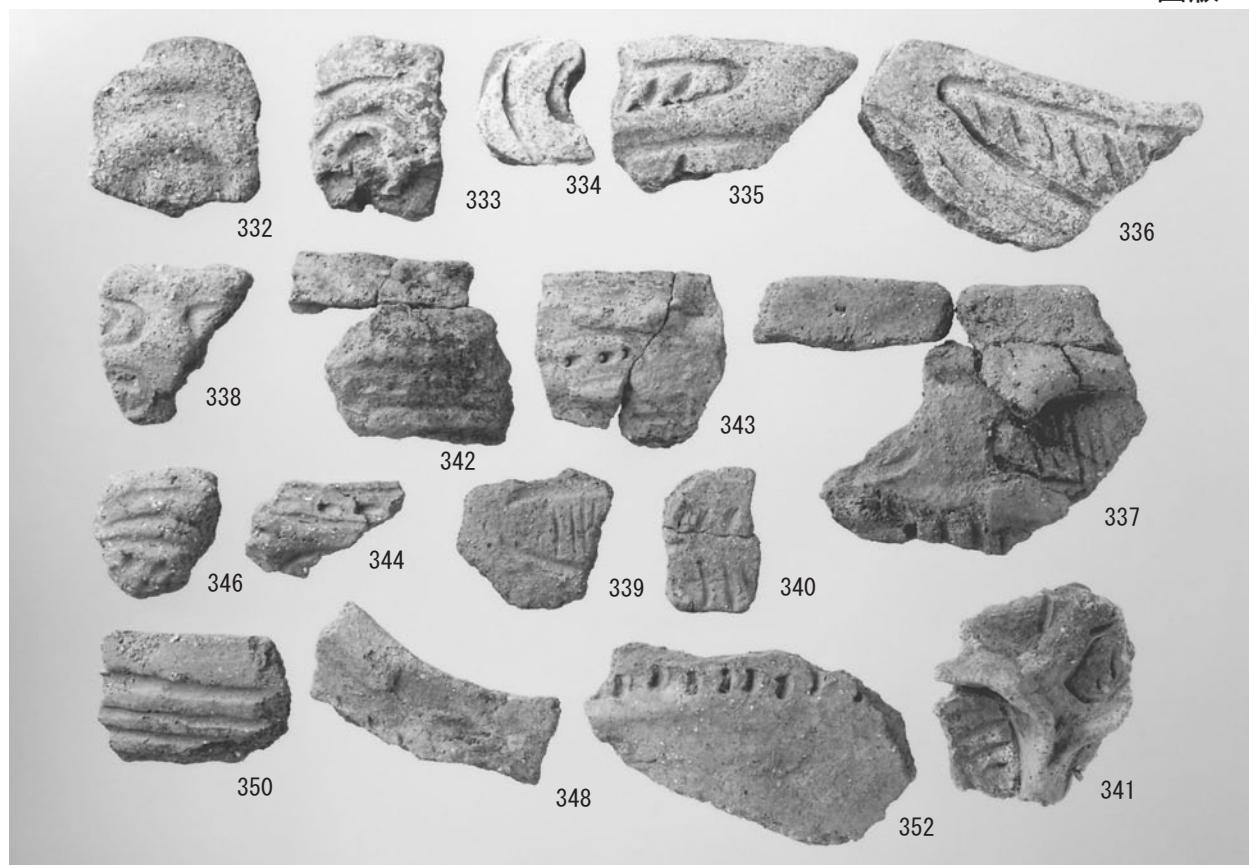
出土遺物⑦



出土遺物⑧



出土遺物⑨



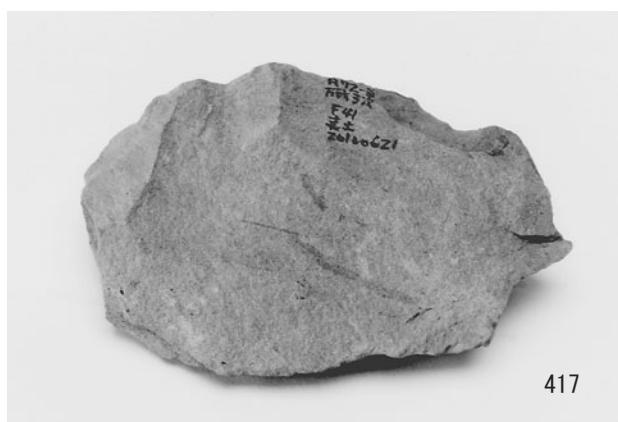
出土遺物⑩



415



416



417



417



418



423



424



426

出土遺物①



427



427

出土遺物⑫

## 報 告 書 抄 錄

---

---

三重県埋蔵文化財調査報告 328

宮川床上浸水対策特別緊急事業に伴う

**万 所 遺 跡 発 掘 調 査 報 告**

発行年月 2012（平成24）年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 伊藤印刷株式会社

---